

平成26年度

市原市内遺跡発掘調査報告

大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）

姉崎二子塚古墳

六孫王原遺跡（G区）

山倉前畑遺跡（第2-2地点）

郡本遺跡群（第22次）

市原城跡（門前地区第3地点）

稲荷台遺跡（L5地点）

稲荷台遺跡（L6地点）

稲荷台遺跡（L7地点）

2015

市原市教育委員会

平成26年度

市原市内遺跡発掘調査報告

おおまや いっしんばらく
大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）

あねさきふたごづか
姉崎二子塚古墳

ろくそんのうばら
六孫王原遺跡（G区）

やまくらまえはた
山倉前畑遺跡（第2-2地点）

こおりもと
郡本遺跡群（第22次）

いちはらじょうあと もんぜん
市原城跡（門前地区第3地点）

いなりだい
稲荷台遺跡（L5地点）

いなりだい
稲荷台遺跡（L6地点）

いなりだい
稲荷台遺跡（L7地点）

2015

市原市教育委員会

序 文

市原市は、房総半島のほぼ中央部に位置し、南北に貫流する養老川がもたらした肥沃な平野と、山間部の緑豊かな自然環境に恵まれています。そのため、市内には先史以来の多くの遺跡があり、先人の足跡を今日に伝えています。

本書は、平成 25 年度、平成 26 年度に実施した個人住宅建設等に伴う発掘調査の成果をまとめたものであり、発掘調査及び本書の作成に当たっては、国県の補助を受けて実施しております。本事業は、個人住宅建設等に伴う市民の負担軽減を目的としており、発掘調査自体は規模の大きなものではありません。しかし、そういった調査であっても、古墳や竪穴建物跡など多くの遺構が検出され、本市の歴史を辿る貴重な調査成果を得ることができました。本書が学術資料はもとより、多くの市民の方々が、郷土に魅力を感じ、文化財の保護と重要性を理解していただくための資料として広く活用されることを願います。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまで、御指導、御協力を賜りました文化庁記念物課、千葉県教育庁文化財課を始めとする関係諸機関各位に心より御礼申し上げます。

平成 27 年 3 月

市 原 市 教 育 委 員 会
教 育 長 白 鳥 秀 幸

例 言

1 本書は、国庫及び県費の補助を受けて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市内所在遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査と整理作業・報告書刊行は、市原市教育委員会生涯学習部埋蔵文化財調査センターが実施した。

3 本報告書所収の調査は下記のとおりである。所在地などの諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。

- | | |
|----------------------------------|--|
| (1) 大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）（調査コードセ523） | 確認調査 22 m ² / 220.67 m ² |
| 調査期間：平成26年2月24日～2月28日 | 調査担当：近藤 敏 |
| (2) 姉崎二子塚古墳（調査コードセ527） | 確認調査 27 m ² / 324.96 m ² ・本調査 7.5 m ² |
| 調査期間：平成26年6月2日～6月5日 | 調査担当：小川浩一 |
| (3) 六孫王原遺跡（G区）（調査コードセ532） | 確認調査 263 m ² / 2630.37 m ² |
| 調査期間：平成26年12月1日～12月15日 | 調査担当：小川浩一 |
| (4) 山倉前畑遺跡（第2-2地点）（調査コードセ528） | 本調査 50.8 m ² |
| 調査期間：平成26年6月24日～7月8日 | 調査担当：小川浩一 |
| (5) 郡本遺跡群（第22次）（調査コードセ525） | 確認調査 44 m ² / 448.31 m ² |
| 調査期間：平成26年5月9日～5月23日 | 調査担当：小川浩一 |
| (6) 市原城跡（門前地区第3地点）（調査コードセ533） | 確認調査 20.5 m ² / 205.65 m ² |
| 調査期間：平成26年12月16日～12月16日 | 調査担当：北見一弘 |
| (7) 稲荷台遺跡（L5地点）（調査コードセ524） | 本調査 137 m ² |
| 調査期間：平成26年4月28日～5月22日 | 調査担当：近藤 敏 |
| (8) 稲荷台遺跡（L6地点）（調査コードセ526） | 本調査 62.3 m ² |
| 調査期間：平成26年5月27日～6月16日 | 調査担当：近藤 敏 |
| (9) 稲荷台遺跡（L7地点）（調査コードセ531） | 本調査 59.62 m ² |
| 調査期間：平成26年11月21日～12月12日 | 調査担当：近藤 敏 |

4 本書内の作図・本文執筆は、各担当者が行い、編集その他作業を小川浩一が担当し、忍澤成視が協力した。

5 本報告書所収の調査のうち、基準点測量を実施しているのは六孫王原遺跡（G区）・山倉前畑遺跡（第2-2地点）・郡本遺跡群（第22次）・市原城跡（門前地区第3地点）である。したがって、これ以外の遺跡の図中に示す座標値（平面直角座標第IX系・日本測地系）及び北方位は、地形図等から求めたもので厳密なものではない。

また、各遺跡全体図中には可能な限り国土地理院測量計算サイト TKY 2 JGD ver.1.3.80 を使用して、世界測地系変換座標を記した。水準については、近隣の既知点より求めて使用した。

6 大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）は、前年度の調査であるが年度末であったため今年度の整理・報告とした。

また本年度は、椎津城跡（調査コードセ534）の調査も実施したが（平成27年1月6日～1月29日、確認調査 212 m² / 2,015 m²）、整理期間がとれないため次年度の報告とする。

7 遺跡の掲載順については、同一遺跡の別地点調査があり、これらをまとめている。

本文目次

1 調査遺跡の位置	1	6 郡本遺跡群（第22次）	17
2 大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）	4	7 市原城跡（門前地区第3地点）	20
3 姉崎二子塚古墳	6	8 稲荷台遺跡（L5地点）	22
4 六孫王原遺跡（G区）	10	9 稲荷台遺跡（L6地点）	30
5 山倉前畑遺跡（第2-2地点）	11	10 稲荷台遺跡（L7地点）	41

挿図目次

第1図 調査遺跡の位置	1
第2図 市原城跡調査地点の周辺地形図	2
第3図 郡本遺跡群・稲荷台遺跡調査地点の周辺地形図	3
第4図 大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）の周辺地形図	4
第5図 大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）トレンチ配置図・断面図・出土遺物実測図	5
第6図 姉崎二子塚古墳の周辺地形図	6
第7図 姉崎二子塚古墳全体図	7
第8図 姉崎二子塚古墳トレンチ配置図	8
第9図 姉崎二子塚古墳断面図・出土遺物実測図	9
第10図 六孫王原遺跡（G区）の周辺地形図・トレンチ配置図・断面図・出土遺物実測図	10
第11図 山倉前畑遺跡（第2地点）の周辺地形図・トレンチ配置図	12
第12図 山倉前畑遺跡（第2-2地点）トレンチ配置図	13
第13図 山倉前畑遺跡（第2-2地点）遺構配置図・断面図	14
第14図 山倉前畑遺跡（第2-2地点）出土遺物実測図1	15
第15図 山倉前畑遺跡（第2-2地点）出土遺物実測図2	16
第16図 郡本遺跡群（第22次）トレンチ配置図	18
第17図 郡本遺跡群（第22次）断面図・出土遺物実測図1	19
第18図 郡本遺跡群（第22次）出土遺物実測図2	20
第19図 市原城跡（門前地区第3地点）トレンチ配置図・出土遺物実測図	21
第20図 稲荷台遺跡（L5・L6・L7地点）調査区配置図	22
第21図 稲荷台遺跡（L5地点）遺構配置図・断面図1	23
第22図 稲荷台遺跡（L5地点）遺構配置図・断面図2	24
第23図 稲荷台遺跡（L5地点）出土遺物実測図1	25
第24図 稲荷台遺跡（L5地点）出土遺物実測図2	26
第25図 稲荷台遺跡（L5地点）出土遺物実測図3	27
第26図 稲荷台遺跡（L5地点）出土遺物実測図4	28
第27図 稲荷台遺跡（L5地点）出土遺物実測図5	29
第28図 稲荷台遺跡（L6地点）遺構配置図・断面図	31
第29図 稲荷台遺跡（L6地点）断面図・出土遺物実測図1	32
第30図 稲荷台遺跡（L6地点）出土遺物実測図2	33
第31図 稲荷台遺跡（L6地点）出土遺物実測図3	34

第 32 図	稻荷台遺跡 (L 6 地点) 出土遺物実測図 4	35
第 33 図	稻荷台遺跡 (L 6 地点) 出土遺物実測図 5	36
第 34 図	稻荷台遺跡 (L 6 地点) 出土遺物実測図 6	37
第 35 図	稻荷台遺跡 (L 6 地点) 出土遺物実測図 7	38
第 36 図	稻荷台遺跡 (L 6 地点) 出土遺物実測図 8	39
第 37 図	稻荷台遺跡 (L 6 地点) 出土遺物実測図 9	40
第 38 図	稻荷台遺跡 (L 7 地点) 遺構配置図・断面図	42
第 39 図	稻荷台遺跡 (L 7 地点) 断面図・出土遺物実測図 1	43
第 40 図	稻荷台遺跡 (L 7 地点) 出土遺物実測図 2	44

表 目 次

第 1 表	出土土器属性表	45
第 2 表	出土埴輪・瓦属性表	50
第 3 表	出土石器・土製品・金属器属性表	52

図 版 目 次

PL. 1	大厩遺跡群・姉崎二子塚古墳
PL. 2	六孫王原遺跡・山倉前畑遺跡
PL. 3	山倉前畑遺跡・郡本遺跡群
PL. 4	市原城跡 (門前地区)・稻荷台遺跡 (L 5 地点)
PL. 5	稻荷台遺跡 (L 5 地点)・稻荷台遺跡 (L 6 地点)
PL. 6	稻荷台遺跡 (L 6 地点)・稻荷台遺跡 (L 7 地点)
PL. 7	大厩遺跡群・山倉前畑遺跡・郡本遺跡群・稻荷台遺跡 (L 5 地点)・稻荷台遺跡 (L 6 地点) 出土遺物
PL. 8	稻荷台遺跡 (L 6 地点)・稻荷台遺跡 (L 7 地点) 出土遺物
PL. 9	大厩遺跡群・姉崎二子塚古墳・六孫王原遺跡・山倉前畑遺跡・郡本遺跡群・市原城跡 (門前地区) 出土遺物
PL.10	稻荷台遺跡 (L 5 地点)・稻荷台遺跡 (L 6 地点) 出土遺物
PL.11	稻荷台遺跡 (L 6 地点) 出土遺物
PL.12	稻荷台遺跡 (L 6 地点)・稻荷台遺跡 (L 7 地点) 出土遺物

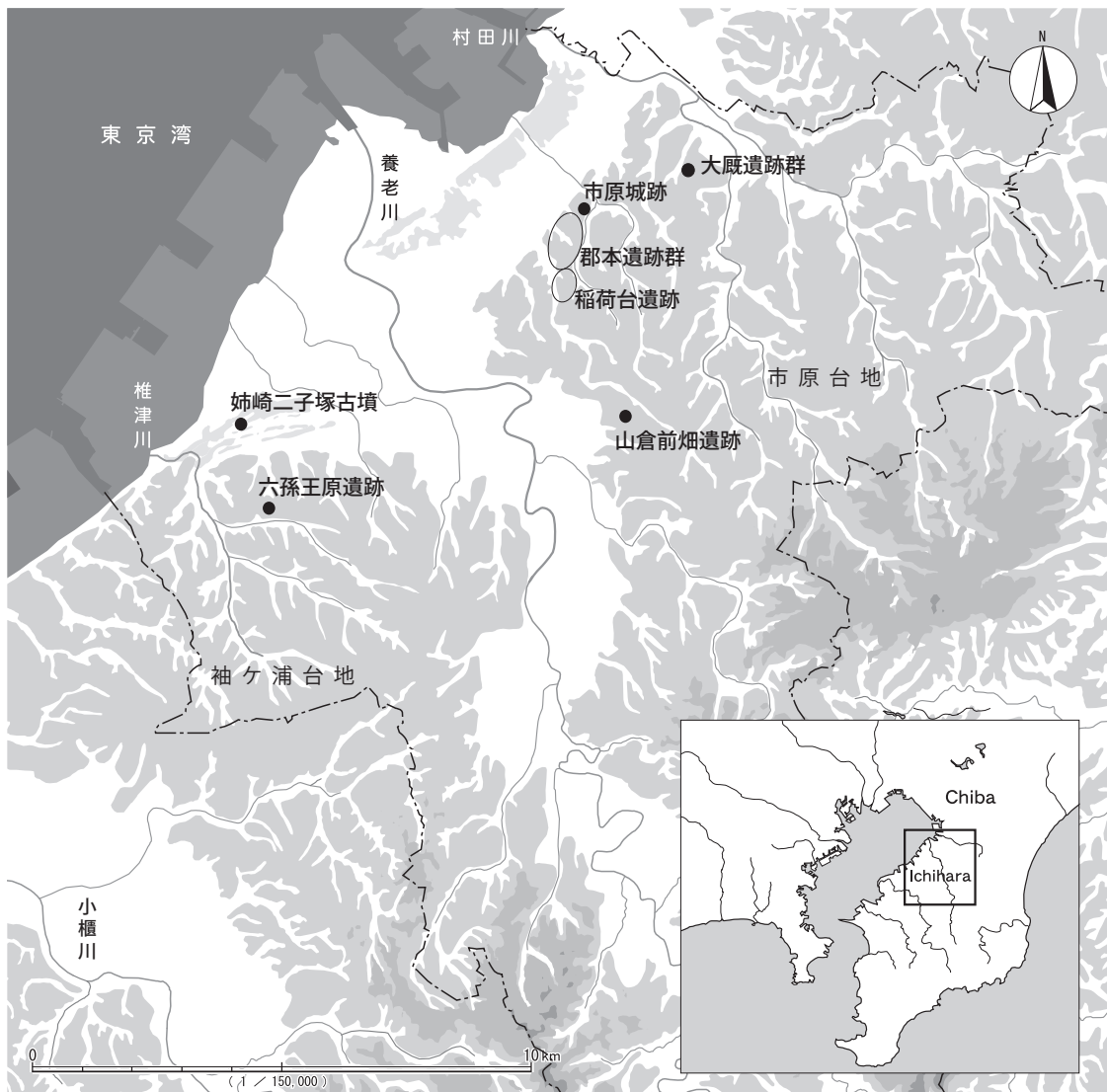
1 調査遺跡の位置

(1) 調査遺跡の概要 (第1図)

平成26年度は、姉崎二子塚古墳・六孫王原遺跡（G区）・山倉前畑遺跡（第2-2地点）・郡本遺跡群（第22次）・市原城跡（門前地区第3地点）・稲荷台遺跡（L5・L6・L7地点）の8箇所の発掘調査を行った。本書では、これらに加え、平成25年度末に調査した大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）を掲載する。

今回掲載の調査遺跡は、市内北部が7箇所、南部が2箇所である。このうち、市原台地中央部に所在する遺跡が、郡本遺跡群・市原城跡・稲荷台遺跡合わせて3遺跡5箇所と多くを占めている（第1図）。これらは、国府等官衙推定地を含む重要地域に当たる。

山倉前畑遺跡は、養老川中流域を望む右岸段丘面に所在する。周囲には古墳時代初頭の東海や畿内等の外来系土器が出土する遺跡があり、同じく外来系土器が出土する国分寺台遺跡群との関連が注目される。村田川流域では大厩遺跡群、また、姉崎地区では、姉崎二子塚古墳と六孫王原遺跡で発掘調査が行われた。六孫王原遺跡では、今回墓域の広がりについて新知見を得ることができた。



第1図 調査遺跡の位置

(2) 市原城跡（門前地区第3地点）と郡本遺跡群（第22次）の周辺域（第2・3図）

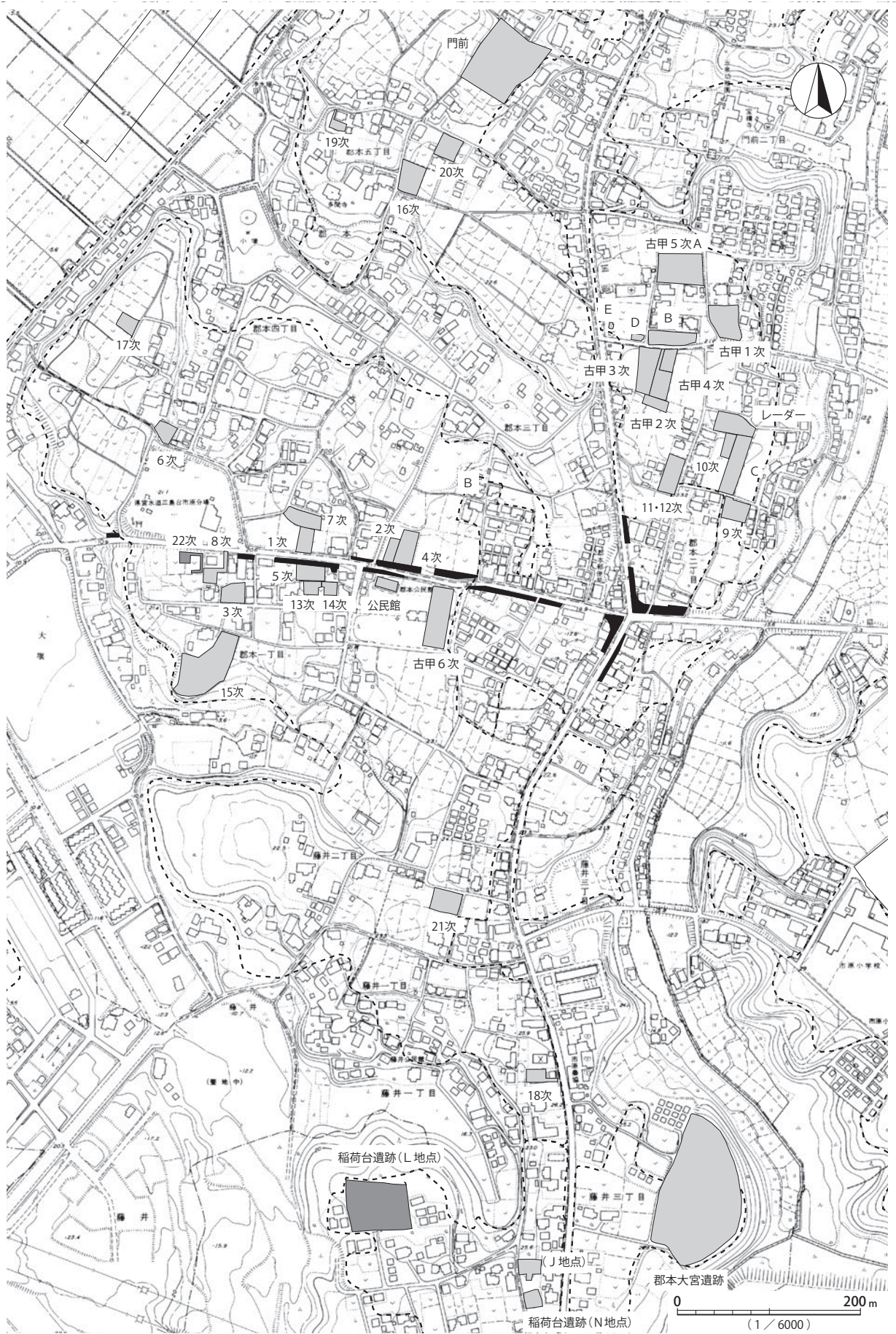
市原城跡及び郡本遺跡群は、東京湾旧海岸線から2km東に入った標高20mから25m前後の台地上に位置し、西に東京湾岸の沖積地である海岸平野を望み、小谷によって樹枝状に開析された舌状の台地地形を呈する。これまで、北端部の市原地区から門前・郡本を経て藤井地区に至る広範囲において、住宅等の建設に伴う小規模調査が数次にわたり行われてきた。各調査地点では、奈良・平安時代の遺構が濃密に出土しており、現在は、遺構の状況・規模によって、官衙エリア及び官衙周辺エリアの絞り込みが行われようとしている段階である。

市原地区にある初期寺院の光善寺廃寺周辺では、遺跡を縦貫する国道297号の西側で、市原城跡（辻地区）として調査が行われ、規模の極めて大きな掘立柱建物跡の柱穴が検出されている。一方、国道297号の東側は市原城跡（門前地区）として調査が行われているが、通常規模の掘立柱建物跡や竪穴建物跡が混在しており、西側の辻地区とは遺構の内容・性格に違いがあることが想定される。今回の門前地区第3地点では、やはり奈良・平安時代の遺構の存在が期待されたが、後世の土地改変等もあり、古墳時代終末期の竪穴建物跡1棟の確認にとどまった。また市原郡家推定地とされている郡本八幡神社周辺は、数次にわたり郡本遺跡群として発掘調査が行われており、今回、第22次地点の発掘調査では、東に隣接する第8次地点同様、平安時代の竪穴建物跡が主な遺構となっている。

これらの調査はいずれも小規模ではあるが、今後も地道な地点調査を積み重ねることによって、竪穴建物跡等の遺構群が展開しているエリアと、大型の掘立柱建物跡等の特殊な遺構が展開しているエリア、それらのエリアをつなぐ古代道などの位置関係が明らかになっていくことが期待される。



第2図 市原城跡調査地点の周辺地形図



2 大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）

遺跡の位置 大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）は、村田川中流左岸市原台地北部に位置し、標高25m前後の台地平坦部にある。西側には開析谷が南北に入り込む。本調査区は、平成25年度調査区の南側隣接地であり、過去に大厩鍛冶屋前台遺跡として調査された地点との間にごく浅い谷を挟む（第4図）。

遺構と遺物 第1トレンチは遺構がない。第2トレンチでは溝状遺構が検出され、その溝の覆土から古墳時代前期と推定される丹塗の土師器が出土した。第3トレンチでは、古墳時代前期と推定される竪穴建物跡のコーナー部分が確認された。一辺5m以上の方形プランであり、覆土には焼土や木炭片が認められた。第4トレンチでも、第3トレンチと連続する竪穴建物跡が検出されている。第4トレンチには土坑が1基検出された。遺物はなく、土層観察から古墳時代以降の時期と推定される（第5図）。

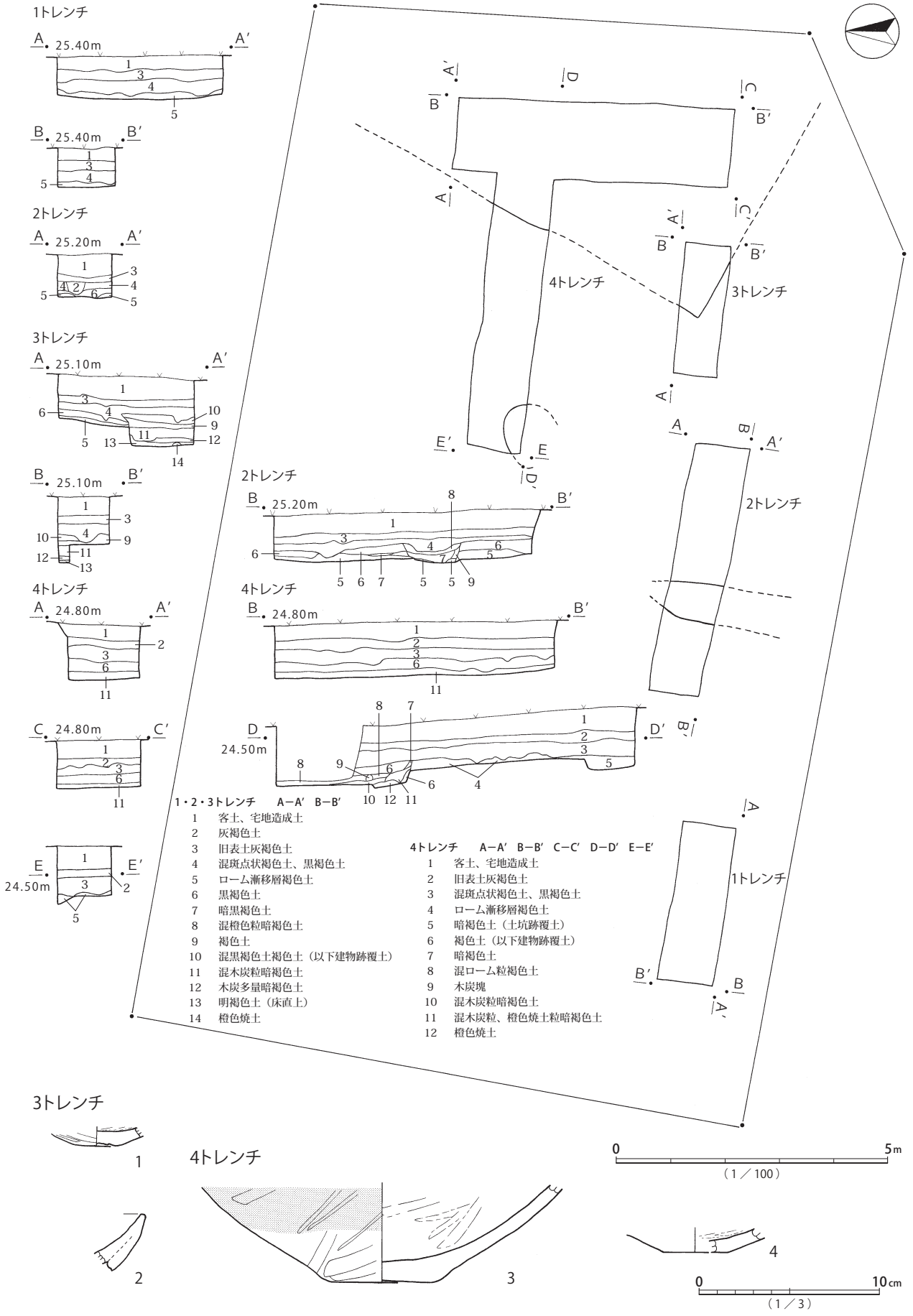
参考文献

市原市教育委員会 1993「大厩鍛冶屋前台遺跡」『平成4年度市原市内遺跡発掘調査報告』

市原市教育委員会 2014「大厩遺跡群一心原句地区」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』



第4図 大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）の周辺地形図



第5図 大厩遺跡群 (一心原句地区第2地点) トレンチ配置図・断面図・出土遺物実測図

3 姉崎二子塚古墳

調査概要 姉崎二子塚古墳は、東京湾を西に望む旧海岸線沿いを縦走する標高6m程度の砂堆列上に位置する。全長110m程度の前方後円墳であり、墳丘は県の指定史跡である。周囲は、上海上国造に關係すると推定されている墳墓が点在しており、「姉崎古墳群」を形成する。平成18年度には隣接する周溝部が調査され、円筒埴輪片等が多く出土している。今回の調査は個人住宅の建設に伴って行われ、家屋予定地内及び周囲に計3箇所のトレンチを設定し、周溝規模の把握及び出土遺物の帰属時期を確認した。その結果、全てのトレンチから古墳周溝が確認され、家屋予定地部分について本調査を行った（第6～8図）。

過去の整地作業に伴う客土が1m近く堆積しており、客土やキサゴ貝片を均等に含む暗灰色シルト質砂層（1・2トレンチ1・2層）の下層にある暗黒灰色シルト質粘質土層（1トレンチ3層）以下が周溝覆土と考えられる（第9図）。

遺構と遺物 調査トレンチの湧水が著しく、遺構の確認が難しい状況であったが、3本のトレンチはいずれも古墳周溝内にあると考えられる。周溝の確認面である暗黒灰色シルト質粘質土（1トレンチ3層）から、下層（1トレンチ4層）へ向かって黒色味や粘性が強くなり、埴輪片が出土する層（1トレンチ5層）を経て、埴輪が出土しなくなり、比較的しまりがある暗黒褐色シルト質粘質土（1トレンチ6層）に達する。この6層が地山と考えられる。その直下に木片等を含む泥炭層及び青灰色シルト質砂層（1トレンチ7・8層）が出現し、湧水が激しさを増す。古墳周溝内覆土と地山との堆積土の違いが明瞭でないため、遺構の把握は難しい（第9図）。

出土遺物は、円筒埴輪片がほとんどであった（1～33）。凸帯の断面が、緩やかなM字形のものや、台形及び不整な方形のものが混在している。櫛状工具による波状文が施された埴輪片29等も散見され、在地生産的な側面も見せている。その他に中世銭である「洪武通宝」34が出土しているが、混入であろう（第9図）。

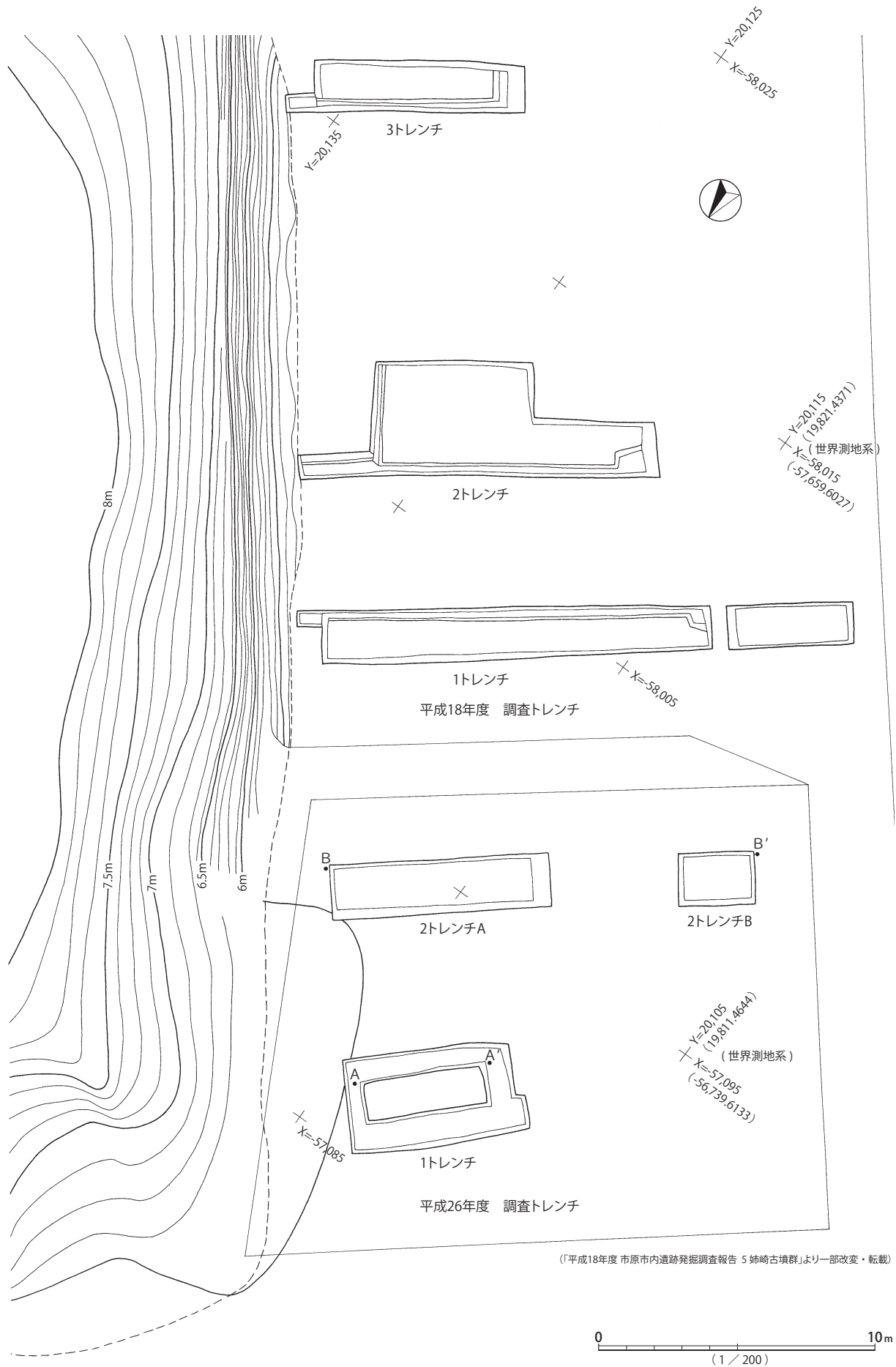


第6図 姉崎二子塚古墳の周辺地形図

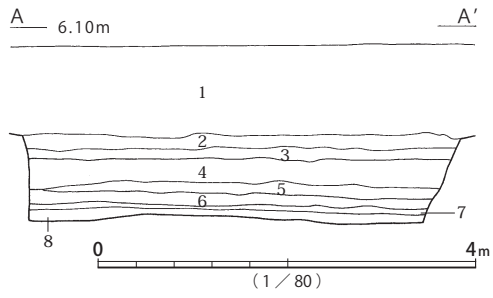


(「平成18年度 市原市内遺跡発掘調査報告 5 姉崎古墳群」より一部改変・転載)

第7図 姉崎二子塚古墳全体図



第8図 姉崎二子塚古墳トレンチ配置図

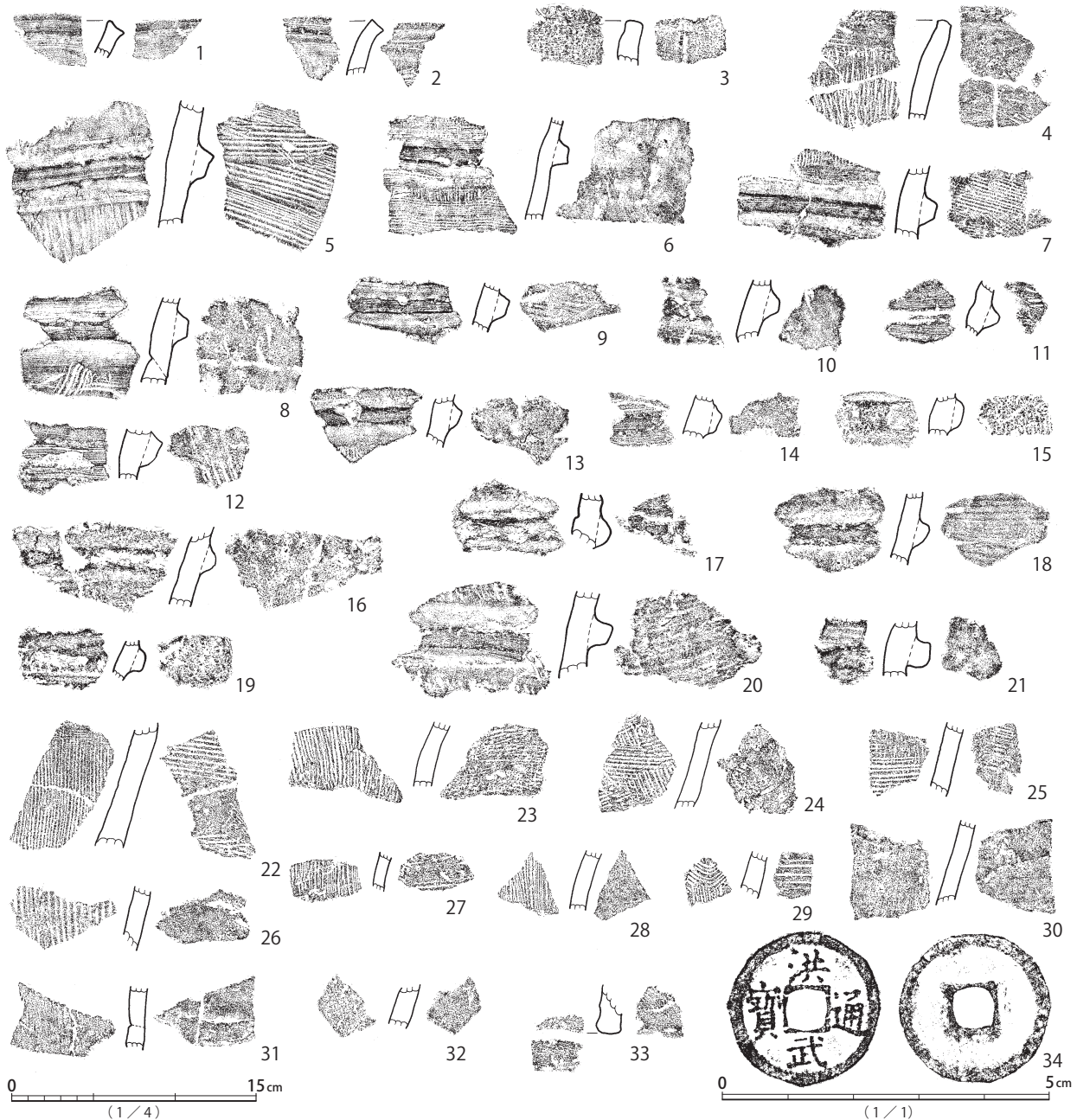
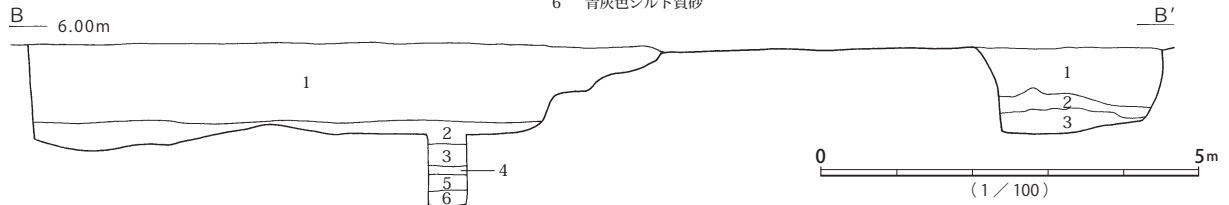


1トレンチ A-A'

- 1 客土層・暗灰色シルト質砂（暗褐色粘土をブロック状に含む）
- 2 暗灰色シルト質砂（キサゴ片均等に含む）
- 3 暗黒灰色シルト質粘質土（4より砂分多い）
- 4 暗黒灰色シルト質粘質土（3より黒色味強く、粘性強い）
- 5 暗黒褐色シルト質粘質土（埴輪片多く出土する）
- 6 暗黒褐色シルト質粘質土（5より褐色味強く、よくしまる）
- 7 泥炭層（木片等含む・暗赤紫色を呈す）
- 8 青灰色シルト質砂

2トレンチ B-B'

- 1 客土層
- 2 暗灰色シルト質砂（キサゴ片少量含む）
- 3 暗黒色シルト質粘質土（砂分多い・埴輪片混入）
- 4 暗黒色シルト（よくしまる）
- 5 木質泥炭層（木片多量・暗赤紫色を呈す）
- 6 青灰色シルト質砂



第9図 姉崎二子塚古墳断面図・出土遺物実測図

4 六孫王原遺跡 (G区)

調査概要 遺跡は昭和56年度から調査が行われている。今回の調査区は、標高48m前後の台地東端にあることから、隣接地で確認されている方形周溝墓群の墓域の広がりへの把握が主な調査の目的となった。

遺構と遺物 1・6・7トレンチにおいて、弥生時代方形周溝墓を確認した。墓域の東端であろう。1トレンチの周溝部から壺胴部1・4・5が出土している。1は沈線区画の中に結節文を施す。4・5は羽状縄文帯を結節文で区画する。山田橋式であろう。3～5トレンチからは竪穴建物跡が確認された。3・4トレンチが弥生時代後期、5トレンチが古墳時代後期の所産であり、4トレンチ竪穴からは甕7が出土している。6・7トレンチからは円墳周溝が確認された。図示できる遺物の出土はないが、古墳時代後期の所産であろう。他に3・4トレンチ北端において、道路状遺構が確認された。鎌倉街道に関連する可能性がある(第10図)。



第10図 六孫王原遺跡 (G区) の周辺地形図・トレンチ配置図・断面図・出土遺物実測図

5 山倉前畑遺跡（第 2-2 地点）

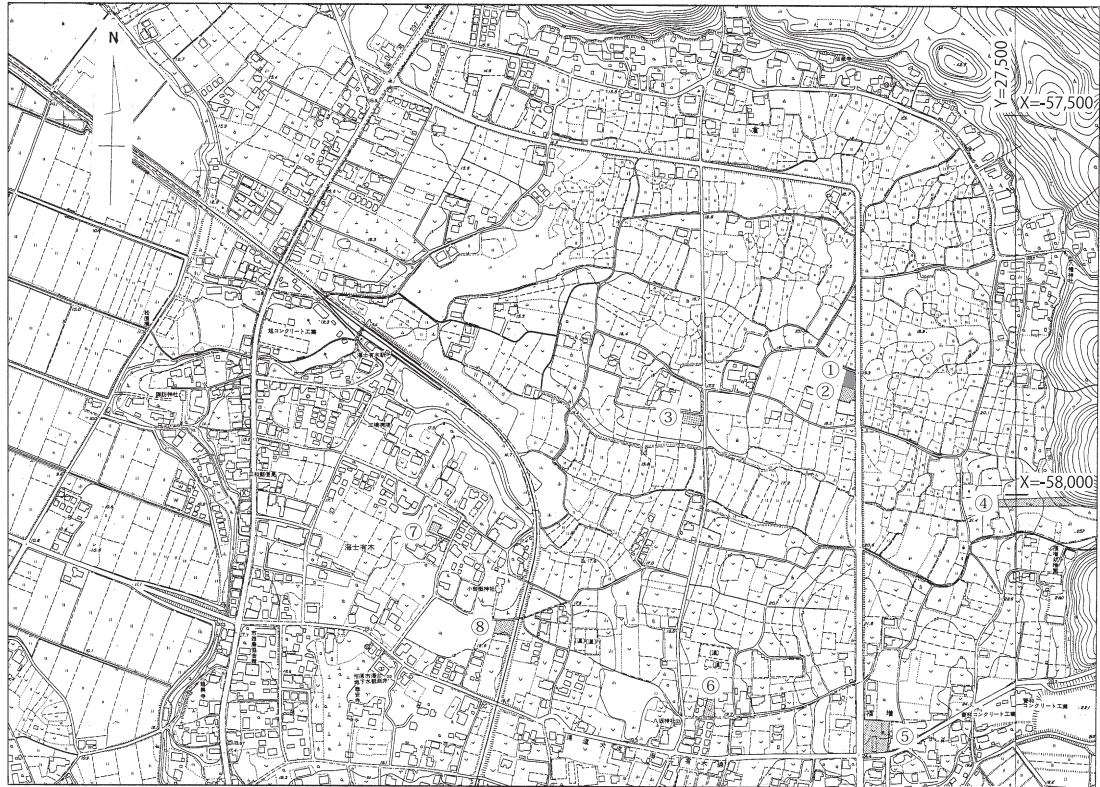
調査概要 遺跡は、市内を縦走する養老川中流域右岸を西に望む標高 19m 程度の段丘面上に位置する。当段丘面一帯は、局地的ではあるが数地点にわたり発掘調査が行われており、弥生時代から古墳時代における集落遺跡や古墳が展開する地域であることが判明している。本調査区の南側 500m では、平成 18 年度に海土遺跡群（三入道地区）として発掘調査が行われ、東海や畿内地方の影響を受けたと考えられる土器が出土した方墳・円墳が検出されていて、多数の外来系土器が出土している国分寺台遺跡群との関係性が注目されている（第 11 図）。

今回の調査地点は、平成 23 年度に確認調査が行われており、その成果を受けて本調査が行われた。平成 24 年度には、本地点の隣接南側（第 2-1 地点）で本調査が行われ、弥生時代から古墳時代における竪穴建物跡等が検出されている（第 11 図）。今回の調査は、個人住宅の建設に伴って行われ、弥生時代終末期後半から古墳時代前期前葉を中心とした竪穴建物跡が検出された（第 12・13 図）。

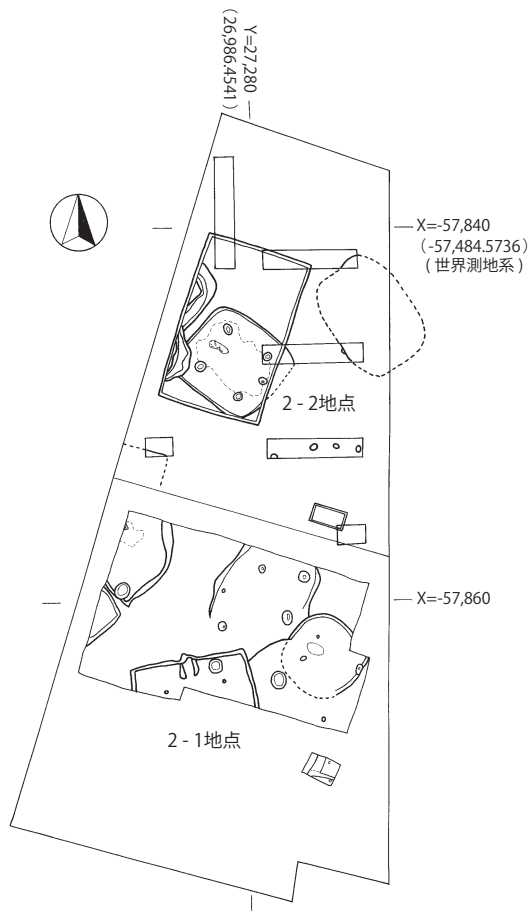
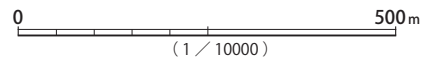
遺構と遺物 調査区南寄りにおいて、弥生時代終末期から古墳時代前期前葉の竪穴建物跡である 1 号跡を検出した。平面は隅丸の方形を呈し、規模は 5.1m×4.7m を測る。堆積土は焼土を微量に含む暗黒褐色土（A-A' 6 層）を基本とする。壁溝は検出されなかった。主柱穴は 4 本あり、やや不整な円形を呈する。深さは、30 ないし 40cm を測る。調査時柱穴底面は湧水状態であった。主柱穴間は硬化面となっており、北西方向の柱穴間で炉が確認された。対面する南東主柱穴間には浅いピットがあり、出入口の梯子穴の可能性がある。遺物は、北東部柱穴付近の床面から赤彩が施された浅鉢 1 が出土している。また、南東部柱穴内から頸部内面にミガキが施された壺 3 が出土している。他には、羽状縄文帯を結節文によって区画した壺胴部片 15～17・26～28、口唇部に刻みを有する甕口縁部 34～36 等が出土している。平成 23 年度の確認調査時に器台に転用された甕、甑として使用された底部穿孔甕が同遺構から出土しており（第 12 図・第 15 図平成 23 年度 SI03-7・8）、古墳時代前期前葉の草刈 1 式に比定されている。今回、浅鉢 1 や壺 3 等やや古相の印象を受ける遺物が出土しているものの、遺構の平面形態が隅丸の方形を呈していることを考慮すれば、弥生時代終末期後半（中台 2 式期）に接続する古墳時代前期前葉（草刈 1 式期）頃とすることができないのではないだろうか。その他の出土遺物としては、ロクロ土師器杯底部 37 や須恵器蓋 38、縄文時代中期阿玉台式の深鉢土器片 39～41 等があるが、混入であろう（第 13・14 図）。

調査区北西部では、竪穴建物跡である 3 号跡が検出された。北東隅部のみを検出である。平面形態は、隅の丸い方形を呈すると考えられるが、遺存状態が悪く、壁溝と想定される掘り込みが不整形に広がっており、掘り方付近まで達していると考えられる。4 号跡と重複しており、断面観察から 4 号跡に先行するとみられる。覆土は暗黒色土（B-B' 9・10 層）を主体とする。遺物の出土は少なく、折り返し口縁の下端部に刻みを有する壺口縁部 44 や、沈線によって山形に区画された縄文帯が巡る壺胴部 45 等が出土している。その他の遺物としては、縄文時代中期阿玉台式期の深鉢胴部片 48 が出土しているが、混入であろう。帰属時期を判断する根拠に乏しいが、平面形態等から 1 号跡に先行する時期と考えられる（第 13・15 図）。

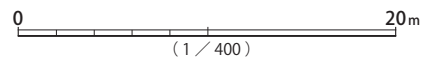
調査区南西部からは、竪穴建物跡である 4 号跡が検出された。平面形態は、3 号跡と同様に隅の丸い方形を呈すると考えられるが、遺存状態が悪い。壁溝と想定される掘り込みが不整形に広がり、掘り方付近まで達していると考えられる。3 号跡と重複し、断面観察から 3 号跡より新しいとみられる。覆土は暗黒褐色土（B-B' 5 層）を主体とする。遺物の出土は僅少であり、沈線によって区画された縄文帯が巡る壺胴部片 49・縄文時代中期阿玉台式期の深鉢胴部片 50 が出土するのみである。50 は混入であろう。帰属時期を判断する根拠に乏しいが、平面形態等から 1 号跡にやや先行する時期と考えられる（第 13・15 図）。



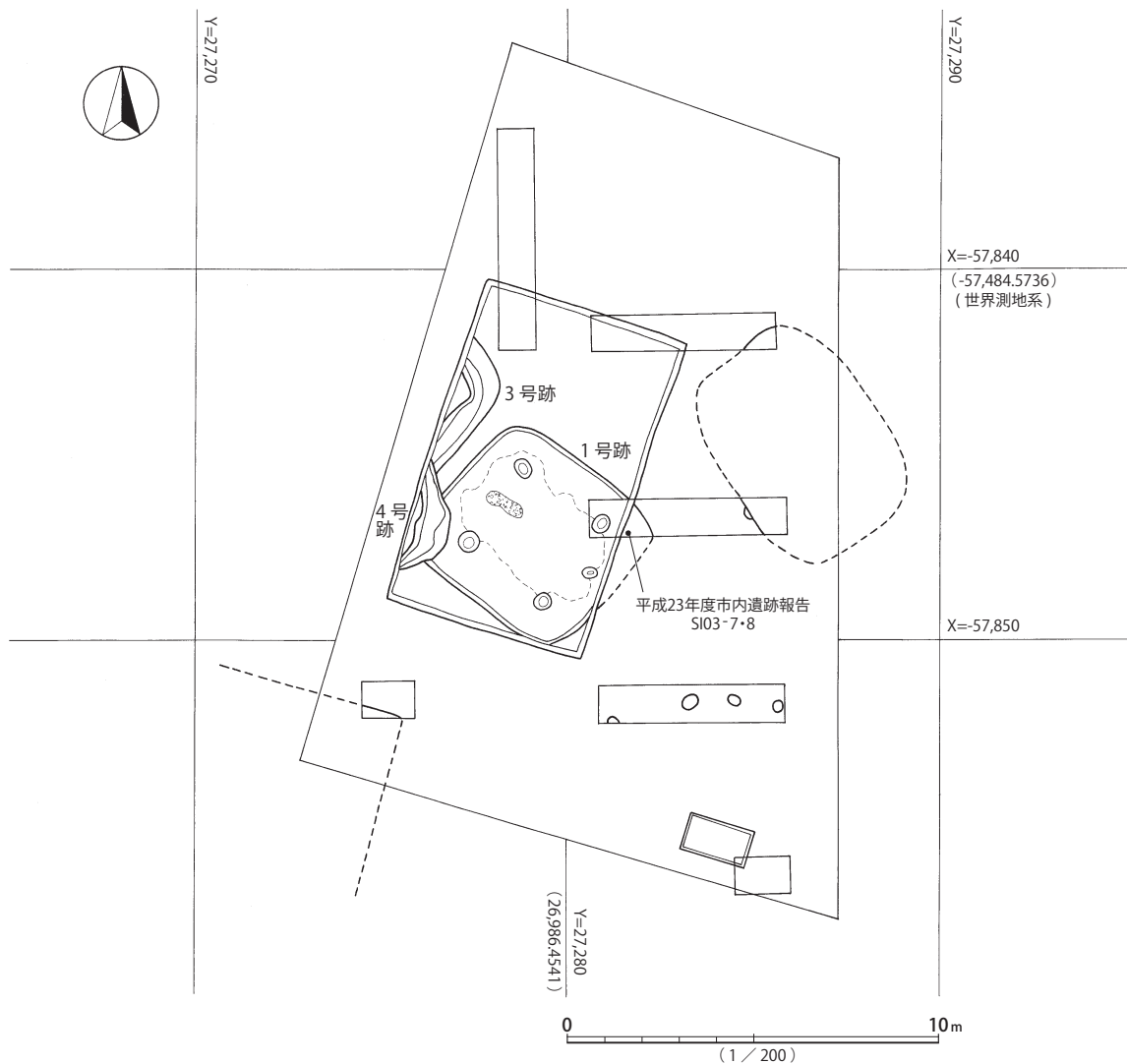
(市原市地形図 昭和55年測図より)



- ① 山倉前畑遺跡 (第2-2地点)
- ② 山倉前畑遺跡 (第2-1地点)
- ③ 山倉前畑遺跡 (第1地点)
- ④ 池ノ谷遺跡
- ⑤ 海土遺跡群 (三入道地区)
- ⑥ 海土遺跡群 (久保畑地区)
- ⑦ 海土遺跡群 (海土地区)
- ⑧ 海土遺跡群 (十二天地区)



第11図 山倉前畑遺跡(第2地点)の周辺地形図・トレンチ配置図



第12図 山倉前畑遺跡(第2-2地点)トレンチ配置図

出土遺物及び平面形態・断面観察から、古い遺構から新しい遺構に向かって、3号跡→4号跡→1号跡の変遷が考えられるが、3・4号跡は検出面積が狭小であり、出土遺物も僅少であることから、不確定要素も多い(第13～15図)。

また、本遺跡からは、縄文時代中期阿玉台式期の土器片が多く採集されている(第14図39～41・15図50)。遺跡の東側に迫る標高52ないし54mの台地上にある馬蹄形貝塚である山倉天王貝塚や、山倉堂谷貝塚に関連する可能性がある。

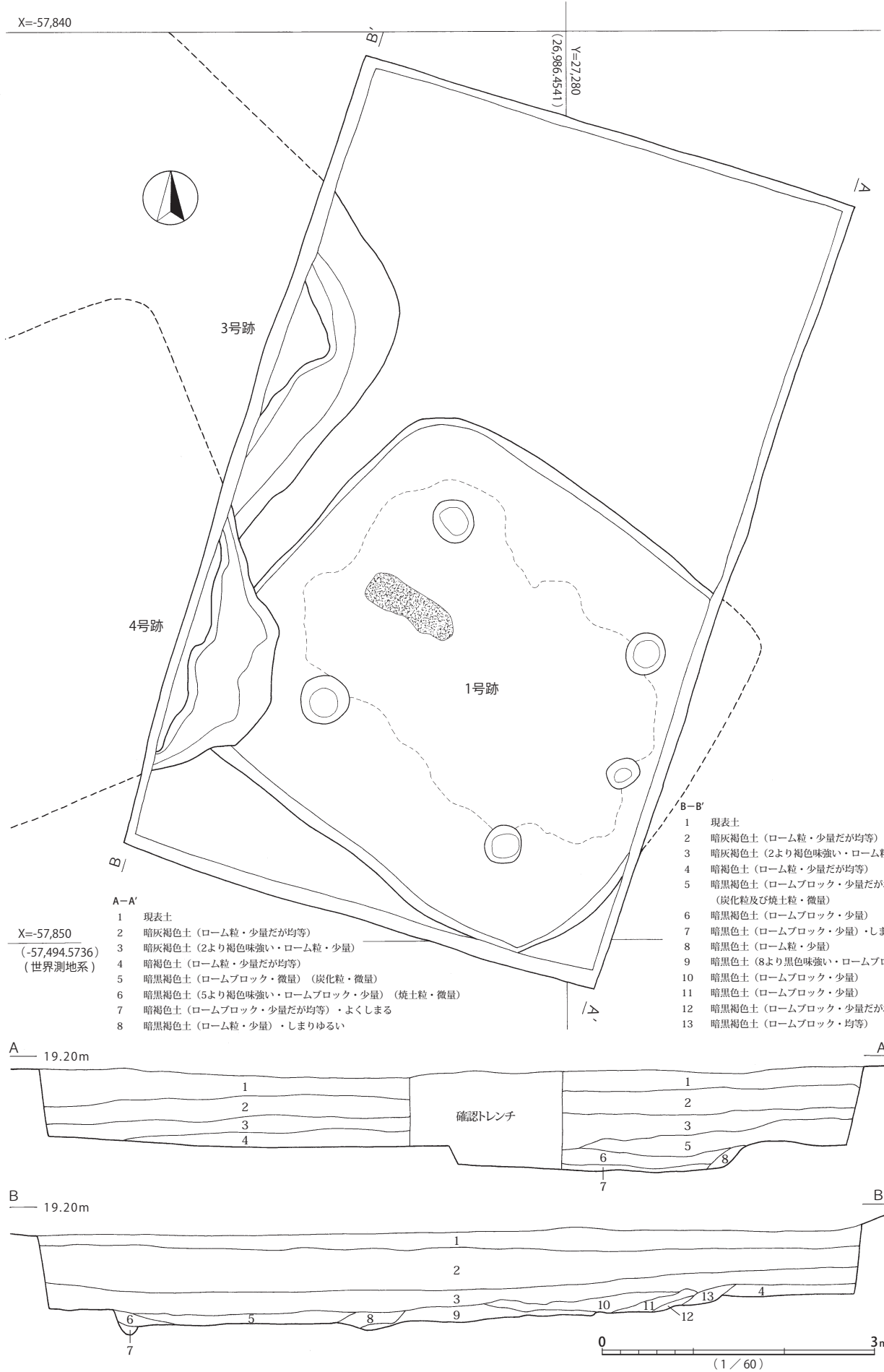
参考文献

市原市教育委員会 2007 「海土遺跡群三入道地区」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』

市原市教育委員会 2008 「市原市海土遺跡群(三入道地区)」『市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書』 第6集

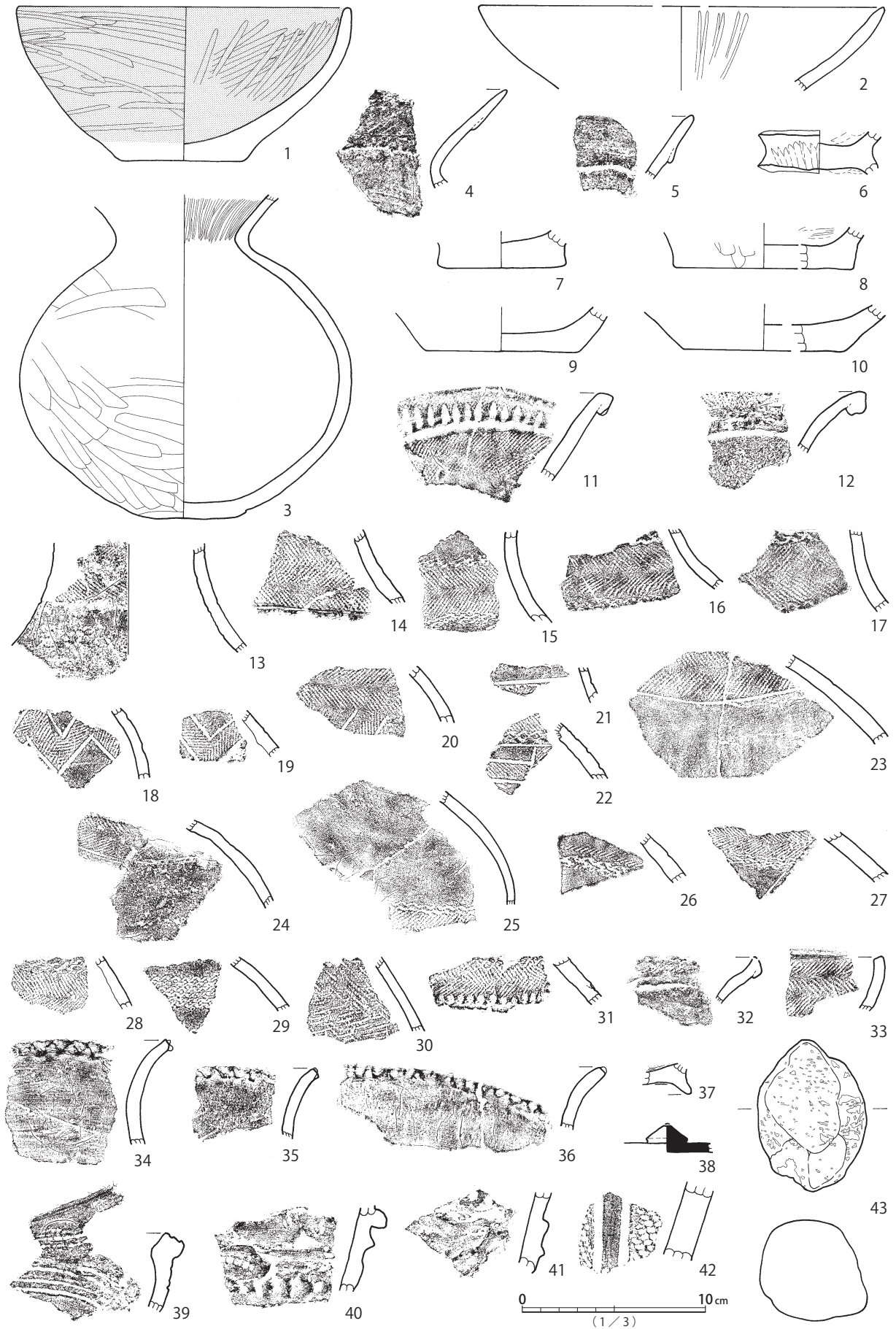
市原市教育委員会 2012 「山倉前畑遺跡第2地点」『平成23年度市原市内遺跡発掘調査報告』

市原市教育委員会 2013 「山倉前畑遺跡第2地点」『平成24年度市原市内遺跡発掘調査報告』



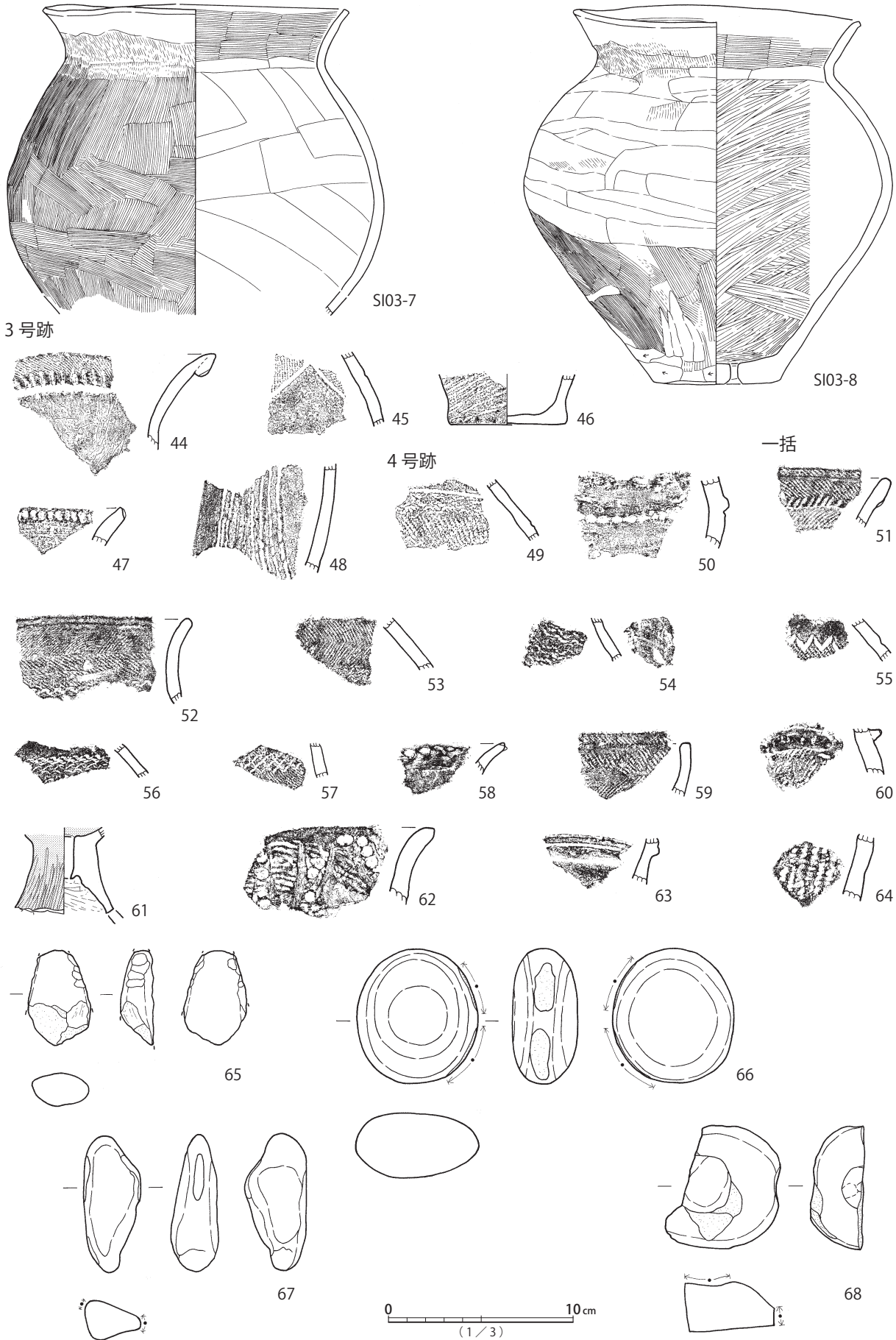
第13図 山倉前畑遺跡 (第2-2地点) 遺構配置図・断面図

1号跡



第14図 山倉前畑遺跡(第2-2地点)出土遺物実測図1

(H23 確認調査)



第15図 山倉前畑遺跡(第2-2地点)出土遺物実測図2

6 郡本遺跡群 (第 22 次)

調査概要 調査は、個人住宅建設予定地の周囲 10 箇所にトレンチを設定し、それぞれにおいて遺構の存在や遺物の有無を確認した (第 16 図)。いずれのトレンチにおいても、表土下 40 ないし 60cm のソフトローム面が遺構確認面となった (第 17 図)。平成 19 年に調査が行われた東に隣接する第 8 次地点において、平安時代の竪穴建物跡が確認されている (第 3 図)。

遺構と遺物 1 トレンチにおいて、竪穴建物跡が確認された。トレンチ内東側は浄化槽部分に当たるため、本調査が実施されている。竪穴建物跡の平面形態は方形を呈すると考えられ、覆土は暗黒褐色土 (A-A' B-B' 6 層、A-A' 7・8 層) を基本とする。床面は一部硬化しており、直上から焼土が少量混じる炭化物層及び少量の貝片が確認された。貝片は、イボキサゴを主体とする。遺物は、本調査部分の竪穴建物跡床面付近から底部に糸切り痕跡を持つロクロ土師器高台付杯底部 4 が出土している。第 8 次地点で確認された竪穴建物跡同様、平安時代の帰属と考えられる (第 16・17 図)。

2 トレンチにおいては、古墳時代及び平安時代の竪穴建物跡が確認された。両建物共、残存状況は悪く、遺構の深度は 20cm にも満たない。隅丸方形を呈する古墳時代の竪穴建物跡は、平面形態が方形を呈する平安時代の竪穴建物跡に大きく切られている。平安時代の竪穴建物跡の覆土は、炭化粒を少量含む暗黒褐色土 (A-A' 6 層) を基本とする。遺物は、覆土中から土師器甕口縁部 10 が出土している (第 16・17 図)。

8 トレンチでは、平安時代の溝状遺構が確認された。幅 1.5m 程度を測り、深さは 20cm 程である。ロームブロックを少量含む暗黒褐色土 (A-A' B-B' 4 層) を基本としていた。やや弓なりにカーブしながら北東から南西方向に向かっている。踏み固められた硬化面等は確認されなかった。遺構内から遺物は出土しなかったが、トレンチ内から底部糸切り痕跡を持つ土師器杯 18 等が出土している。覆土の状況等から平安時代の溝状遺構と判断した (第 16・18 図)。

9 トレンチにおいても、平安時代の溝状遺構を確認した。幅 0.8～1.3m 程度を測り、深さは 20cm 程である。ローム粒を少量含む暗黒褐色土 (A-A' 3 層) を基本としていた。覆土は、8 トレンチの溝状遺構に近似する。やや弓なりにカーブしながら北西から南東方向に向かっており、方向は一致しないがカーブしながら接続する同一の遺構である可能性は残されている。8 トレンチの溝状遺構同様、踏み固められた硬化面等は確認されなかった。トレンチ内から図示できる遺物の出土はなかったが、覆土の状況等から平安時代の溝状遺構と判断した (第 16 図)。

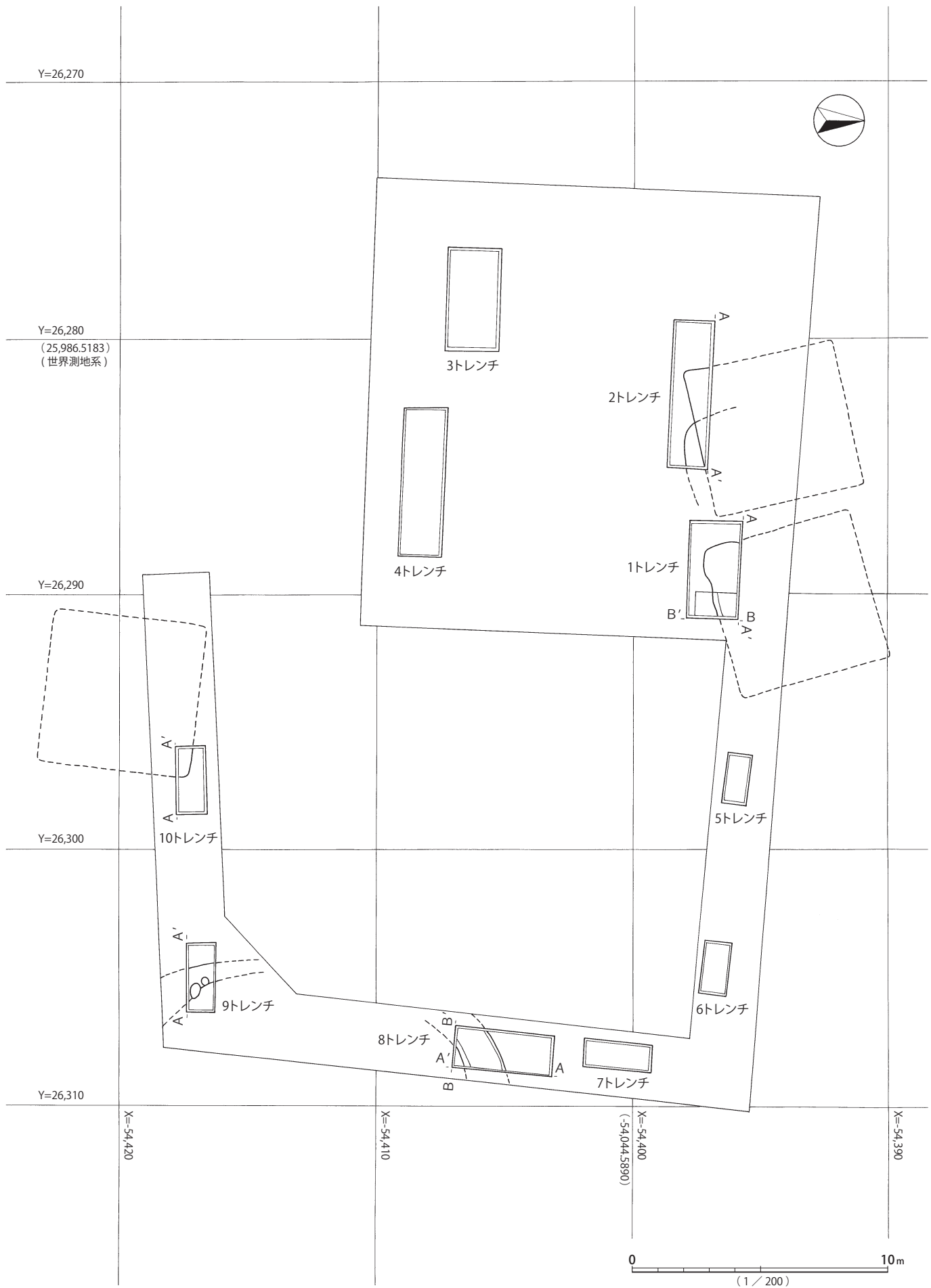
10 トレンチからは、平安時代の竪穴建物跡が確認された。北東隅部のみの検出である。平面形態は方形を呈すると考えられ、深さは 20 ないし 30cm 程度を測る。覆土はロームブロックを均等に含む暗黒褐色土 (A-A' 4 層) を基本とする。遺構の隅部ということもあり、硬化面は確認されなかった。遺構から図示できる遺物の出土はなかったが、トレンチ内から、ロクロ土師器杯 23 が出土している (第 16・18 図)。

その他の一括出土遺物として、ロクロ土師器杯 24、灰釉陶器長頸壺底部 27 等が出土している (第 18 図)。

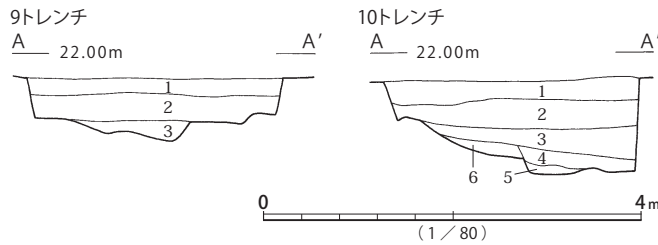
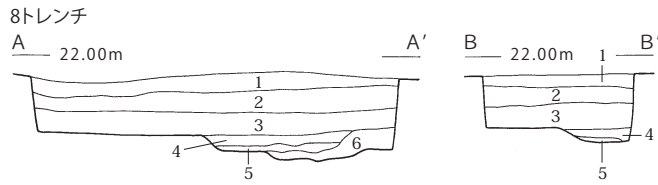
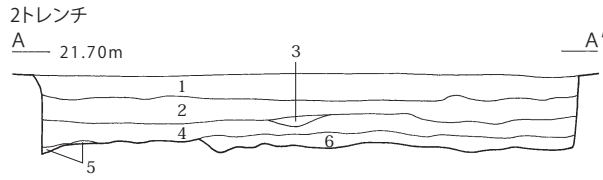
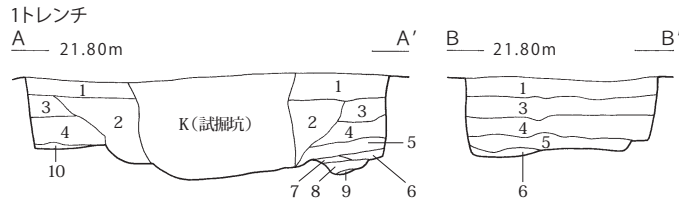
特記事項 今回の調査地点は、市原郡家推定地となっている郡本八幡神社から西に 250m 程の場所であったが、確認された遺構は、平安時代の竪穴建物跡や浅い溝状遺構が主体であった。出土遺物も土師器の杯や甕等の日常雑器がほとんどを占めており、この傾向は、東に隣接する第 8 次地点と同様である (第 3・16～18 図)。

参考文献

市原市教育委員会 2009 「郡本遺跡群 (第 8 次)」『平成 20 年度市原市内遺跡発掘調査報告』



第16図 郡本遺跡群(第22次)トレンチ配置図



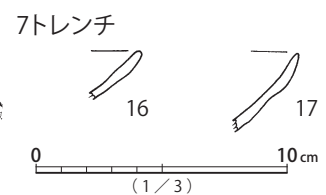
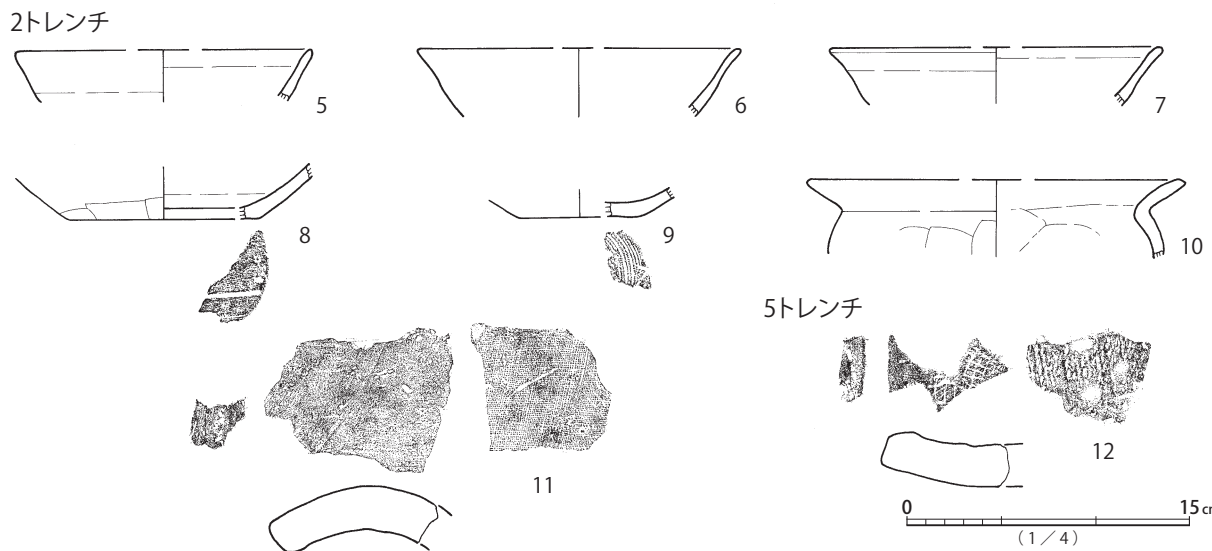
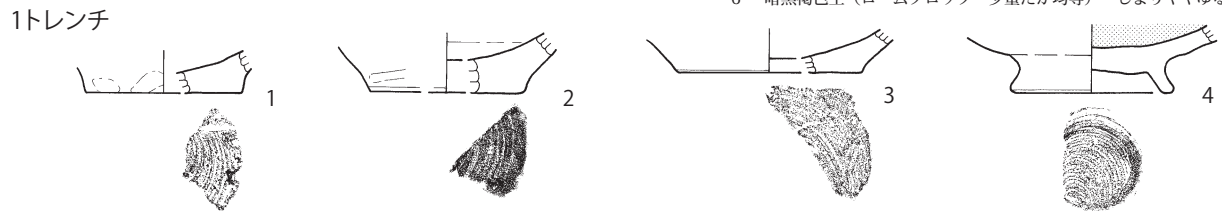
- 1トレンチ A-A' B-B'
- 1 現表土
 - 2 カ克蘭土 (試掘坑よりは古い)
 - 3 暗灰褐色土
 - 4 暗褐色土 (ローム粒・均等)
 - 5 暗黒褐色土 (ロームブロック・少量だが均等)
 - 6 暗黒褐色土 (5より褐色味強い・ロームブロック・均等) ・よくしまる
 - 7 暗黒褐色土 (黒色味強い)
 - 8 暗黒褐色土 (黒色味強い・ロームブロック・少量)
 - 9 炭化物層 (焼土粒・少量)
 - 10 暗褐色土 (ローム粒・均等)

- 2トレンチ A-A'
- 1 現表土
 - 2 暗黒褐色土 (ロームブロック・少量だが均等、炭化ブロック・少量)
 - 3 暗黒褐色土・しまっている
 - 4 暗黒褐色土 (ロームブロック・均等)
 - 5 暗褐色土 (ロームブロック・多量)
 - 6 暗黒褐色土 (ロームブロック及び炭化粒・少量だが均等)

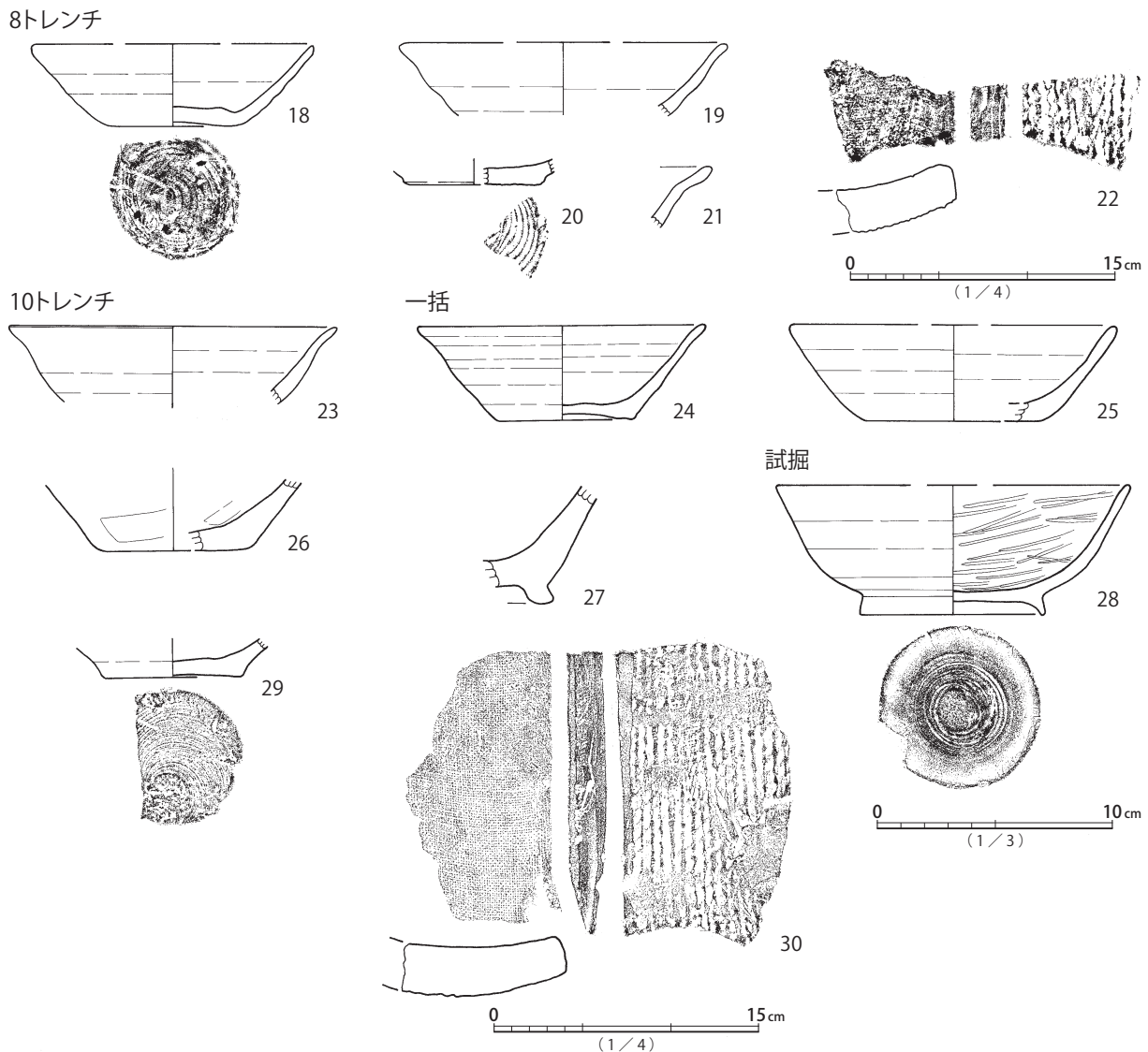
- 8トレンチ A-A' B-B'
- 1 現表土
 - 2 暗灰褐色土 (灰色砂・均等)
 - 3 暗黒褐色土 (ロームブロック・少量だが均等)
 - 4 暗黒褐色土 (ロームブロック・少量)
 - 5 暗黒褐色土 (4より黒色味強い・ロームブロック・均等)
 - 6 ソフトローム・地山

- 9トレンチ A-A'
- 1 現表土
 - 2 暗灰褐色土 (ロームブロック・均等)
 - 3 暗黒褐色土 (ローム粒・少量)

- 10トレンチ A-A'
- 1 現表土
 - 2 暗灰褐色土 (ローム粒・少量だが均等)
 - 3 暗黒褐色土 (ロームブロック・少量だが均等) (炭化粒・微量)
 - 4 暗黒褐色土 (3より黒色味強い・ロームブロック・均等)
 - 5 暗褐色土 (ロームブロック・均等) ・しまっている
 - 6 暗黒褐色土 (ロームブロック・少量だが均等) ・しまりややゆるい



第17図 郡本遺跡群(第22次)断面図・出土遺物実測図1

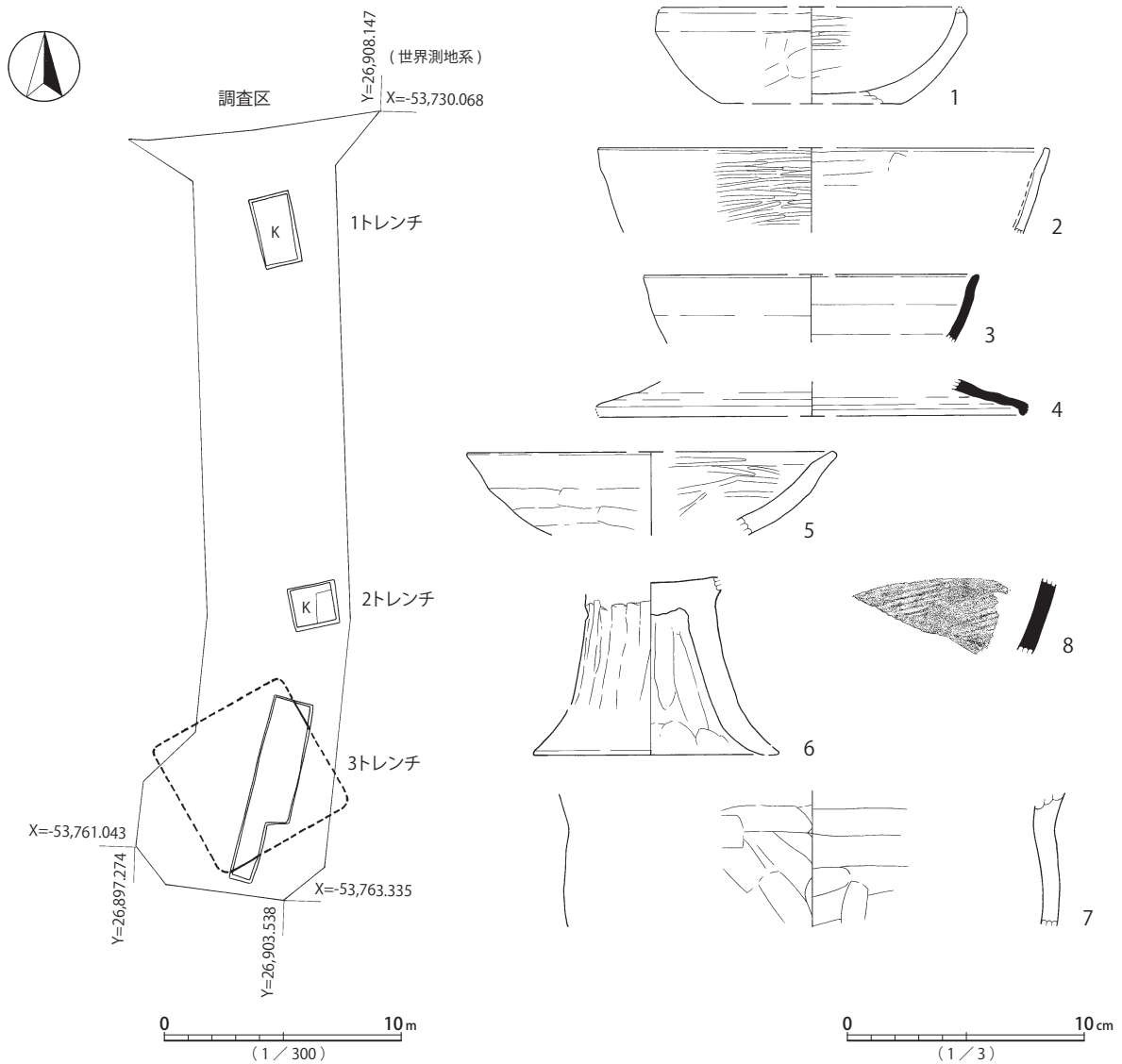


第18図 郡本遺跡群(第22次)出土遺物実測図2

7 市原城跡(門前地区第3地点)

調査概要 市原城跡(門前地区第3地点)は、標高23m付近、東西方向に下る台地上のほぼ中央に位置し、上総国府推定地の有力候補地に位置する(第2図)。これまでに門前地区では2地点の調査が実施されており、古代から中世に至る遺構・遺物が検出されている。調査は調査範囲内に北からトレンチを設定して行った。1トレンチ・2トレンチでは、宅地造成面の盛土を除去すると、直下からハードロームが露出し、遺構、遺物は検出されなかった。両トレンチからはソフトロームが全く認められず、削平が行われた可能性が高い。3トレンチでは、表土下17cmからソフトロームが現れた。また、表土直下から遺構覆土とみられる暗褐色土が確認でき、保存状況は調査区北側に対し良好であった(第19図)。

遺構と遺物 遺構は3トレンチで検出された竪穴建物跡1棟のみである。遺構規模は6.2mを測り、大型の竪穴建物跡である。覆土には粘土粒や炭化物が多く含まれ、カマドが北西辺に敷設されている可能性がある。南端はトレンチャーによる攪乱を受けている。遺物はすべて覆土中から出土した。1が土師器杯で、口縁部が内傾し、不明瞭であるが平底と判断した。2が土師器杯で、焼成は極めて堅緻である。小片であるが、在地のものとは明瞭に質感が異なる。口唇部内面が僅かに突出しており、内外面共に横方向にヘラ



第19図 市原城跡(門前地区第3地点)トレンチ配置図・出土遺物実測図

ミガキが入念に施されている。厚さ4mmほどで、在地の土器に比べ極めて薄い。3が須恵器杯、4が須恵器蓋、5・6が土師器高杯、7が土師器甕、8が須恵器甕で、外面が平行タタキ痕、内面はヘラナデ若しくは同心円のあて具痕が認められる。高杯以外はいずれも小片である(第19図)。

遺構の時期は、1の土師器杯が、口唇部が内傾し平底を指向することから、市内文作遺跡の第Ⅱ期(古墳時代終末期後葉)に帰属するものと考えられる。本地区周辺では、初めて古墳時代終末期の遺構を検出したことになる(第19図)。

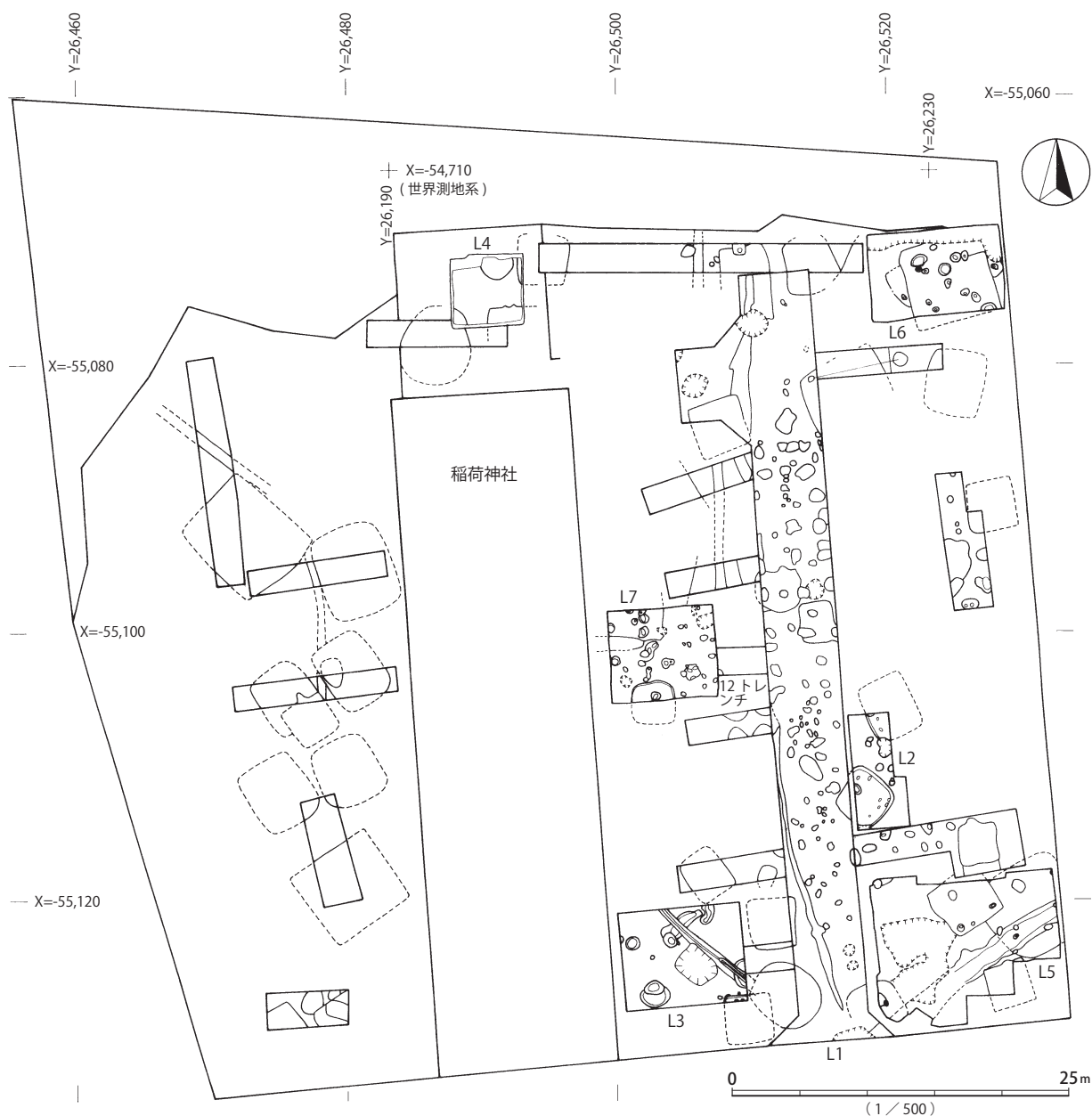
参考文献

- 財団法人市原市文化財センター 1989「市原市文作遺跡」『財団法人市原市文化財センター調査報告書 第30集』
- 市原市教育委員会 2011「市原城跡辻地区」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』
- 市原市教育委員会 2013「市原城跡門前地区」「市原城跡辻地区第2地点」『平成24年度市原市内遺跡発掘調査報告』
- 市原市教育委員会 2014「市原城跡(門前地区・第2地点)」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』

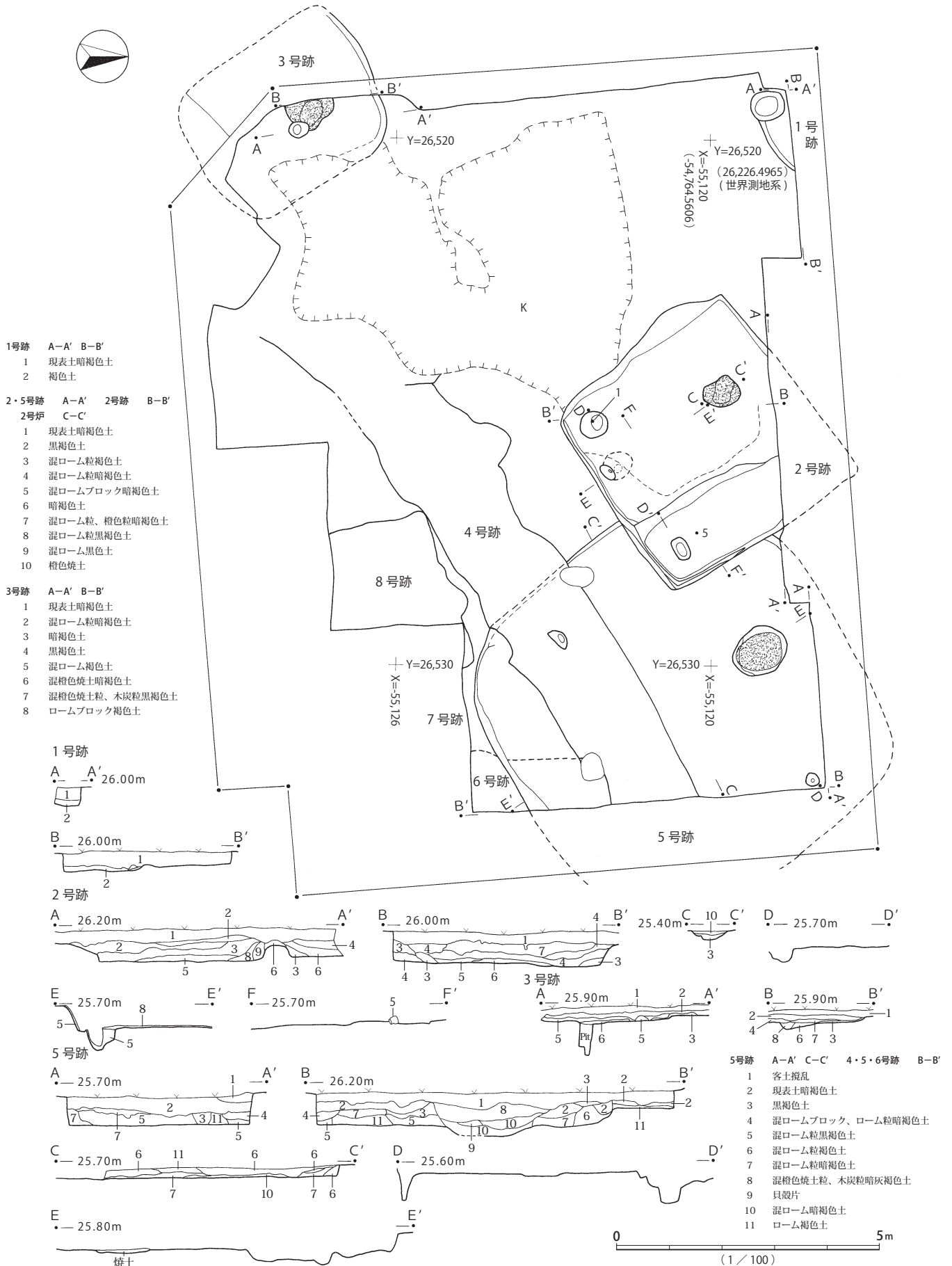
8 稲荷台遺跡 (L5地点)

遺跡の概要 稲荷台遺跡は、東辺を南北に伝路（国府と郡衙の交通網）とも考えられている古代道路跡が走り、現在の国道297号線付近が東の遺跡範囲となる。西側には、上総国分尼寺との間に白幡川によって開析された谷が南北に入り込んでおり、その右岸に位置する（第3図）。稲荷台遺跡L地点は、平成18年度に確認調査が実施され、平成24年度にL1地点、平成25年度にL2・L3・L4地点、平成26年度にL5・L6・L7地点の本調査が行われている（第20図）。L1・L4地点については、平成26年度末に報告書が刊行される予定である。本調査地点に隣接して山田橋稲荷神社の境内地がある。なお、四面庇付掘立柱建物跡群や区画溝を有し、大量に検出された緑釉陶器等の出土遺物から、上総国府の国司館とも推定されている稲荷台遺跡E地点は、稲荷台遺跡L地点の南方向200mに位置している。

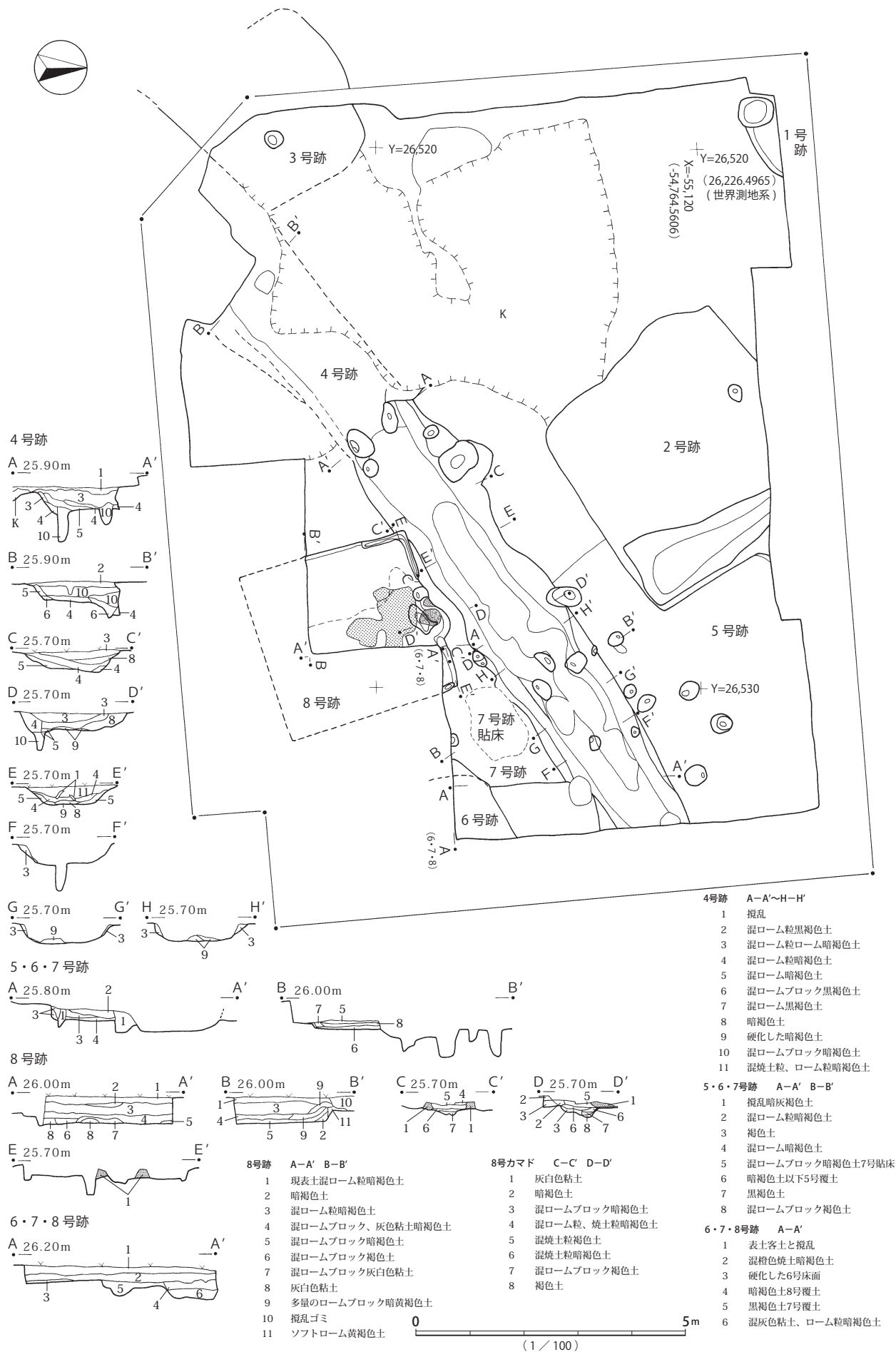
遺跡の位置 稲荷台遺跡L地点は、市原台地の西側、白幡川中流右岸標高25m前後の台地上に位置し、



第20図 稲荷台遺跡 (L5・L6・L7地点) 調査区配置図

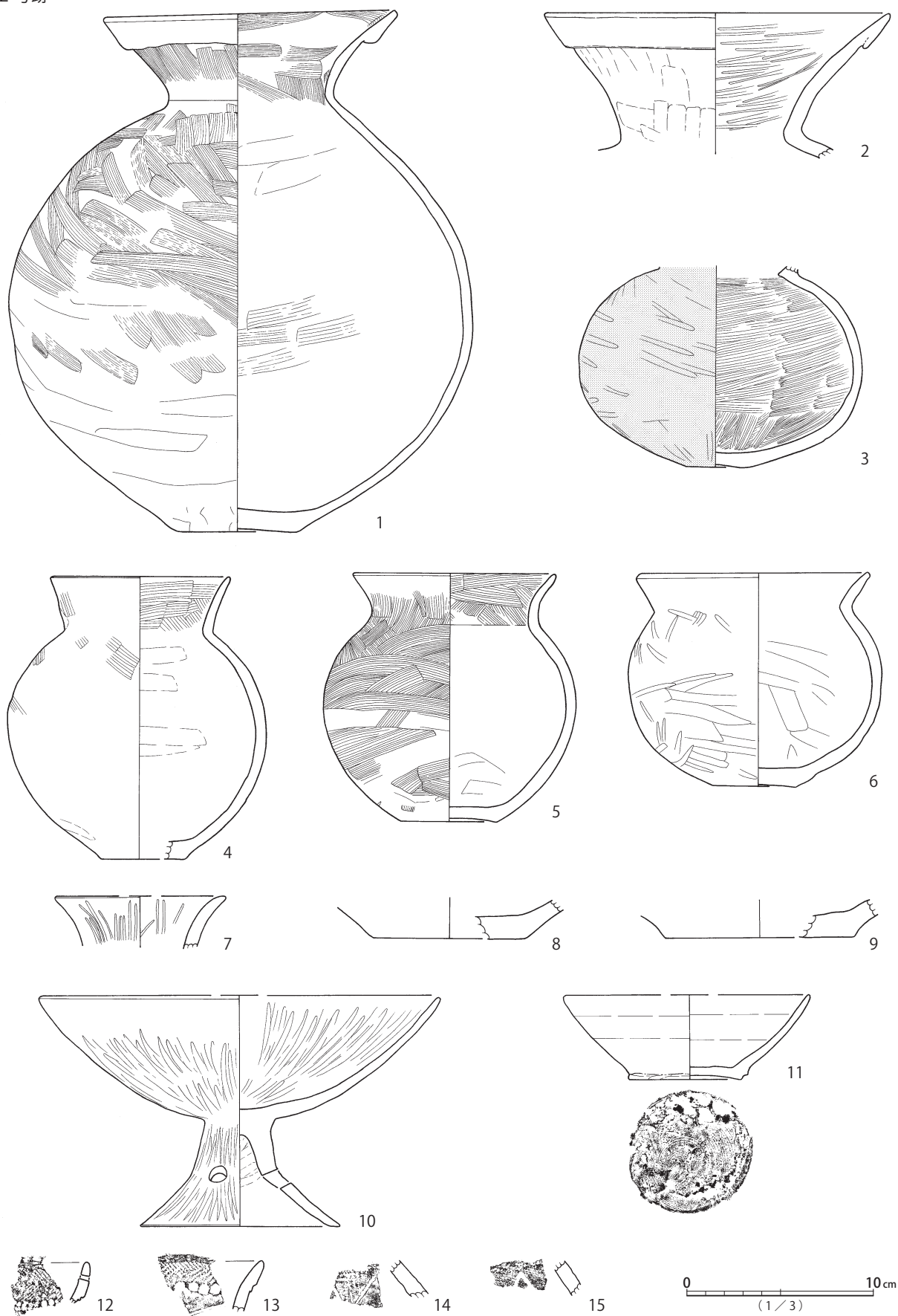


第21図 稻荷台遺跡(L5地点)遺構配置図・断面図1

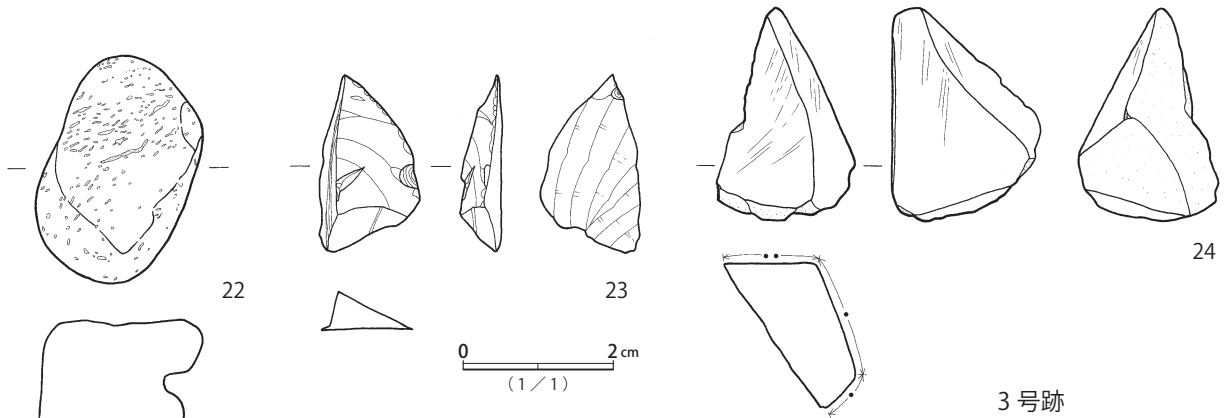
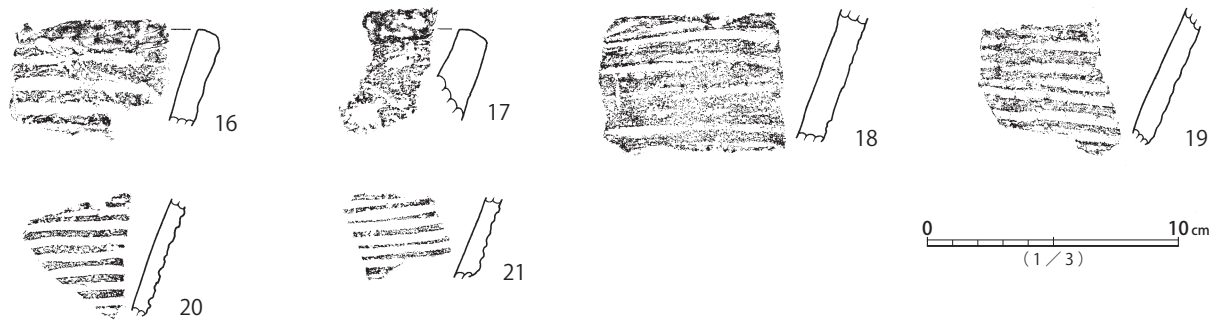


第22図 稲荷台遺跡(L5地点)遺構配置図・断面図2

2号跡



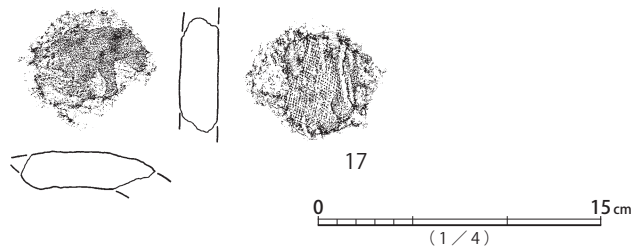
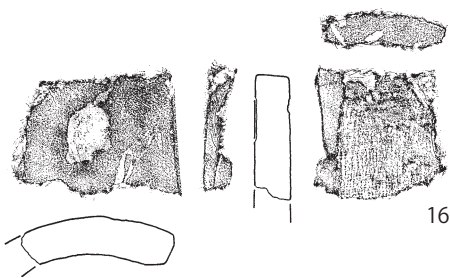
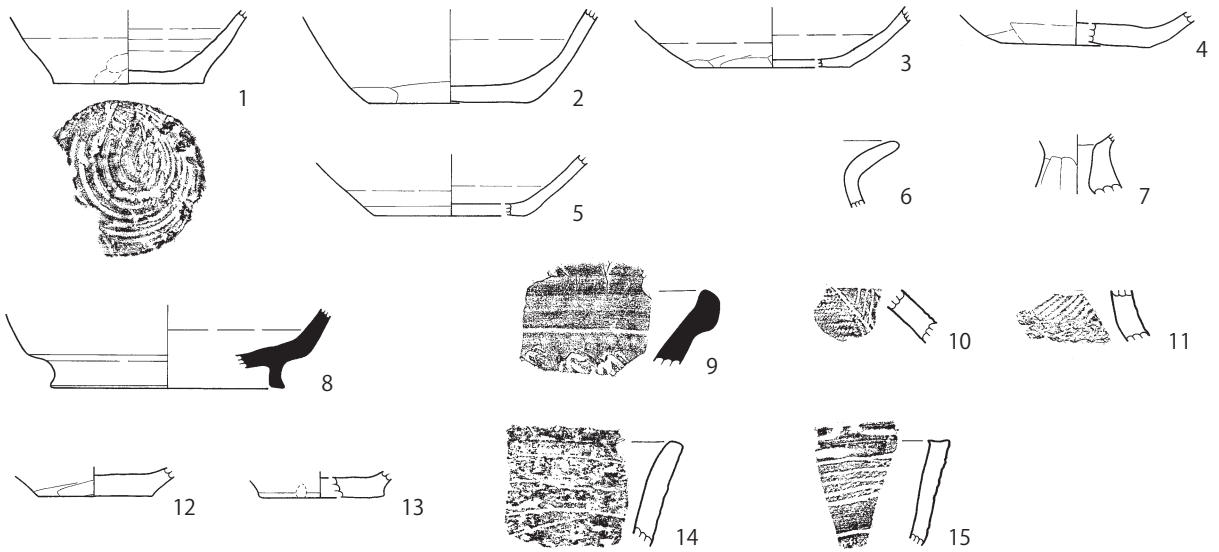
第23图 稻荷台遺跡(L5地点)出土遺物実測図1



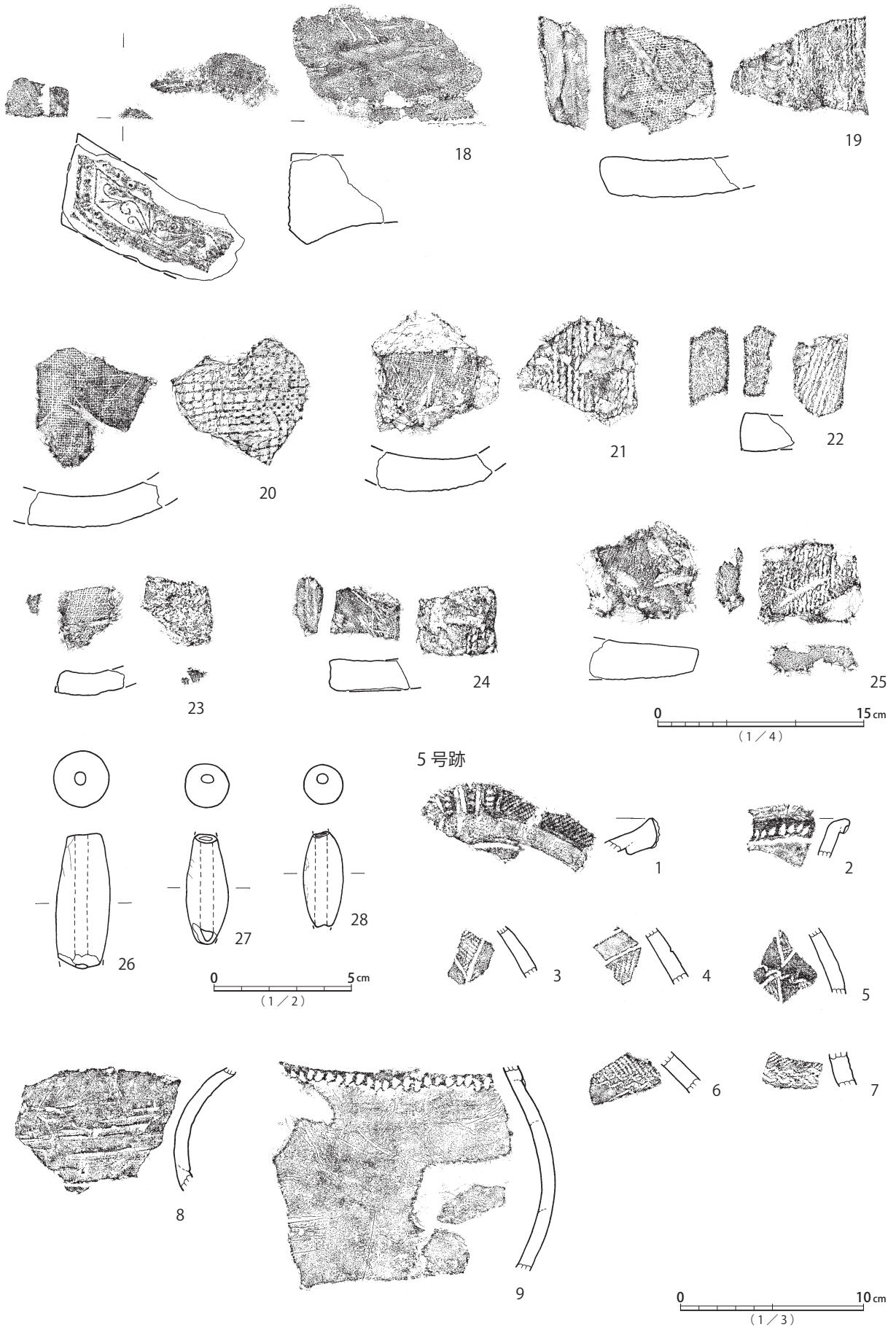
3号跡



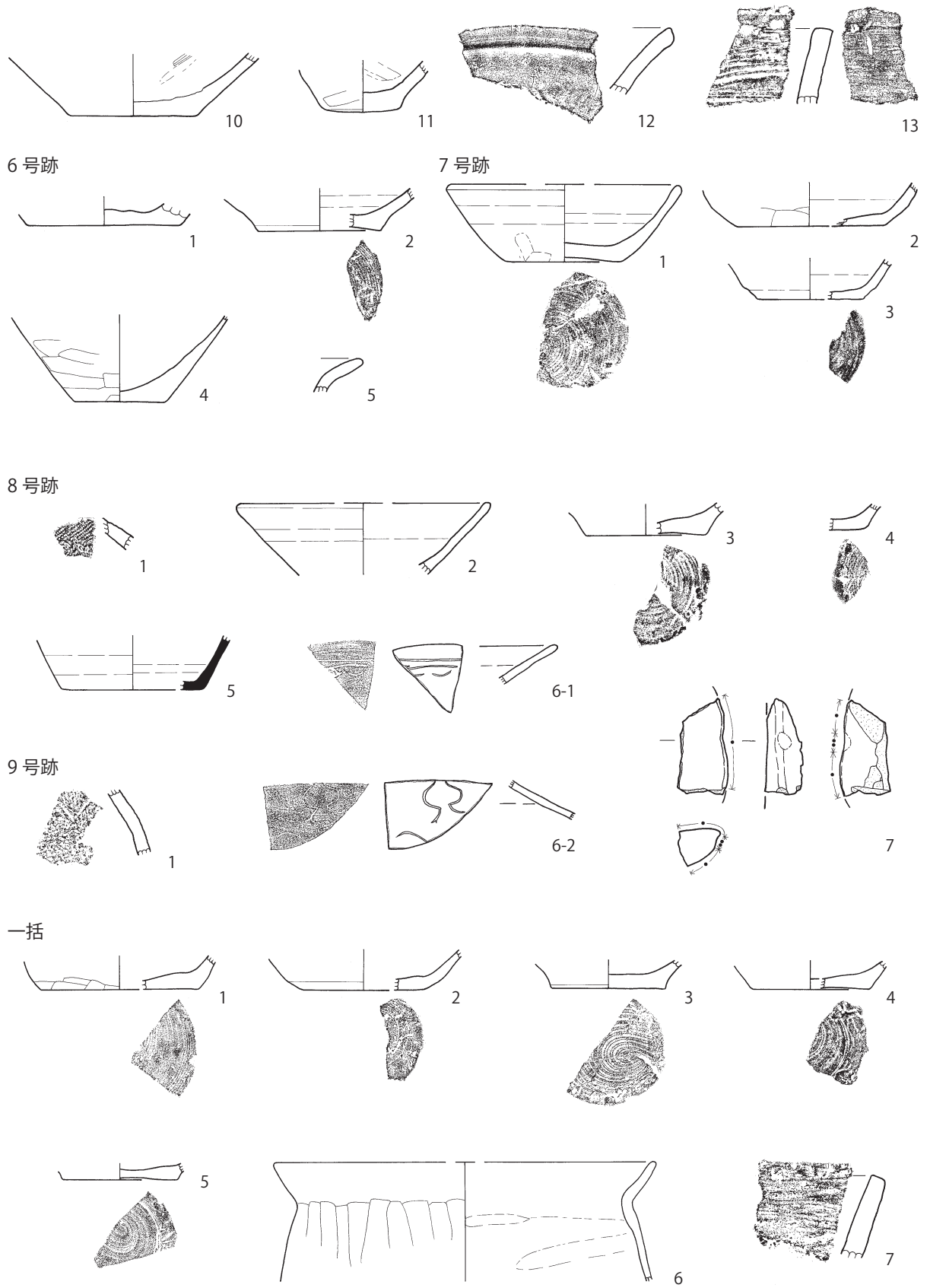
4号跡



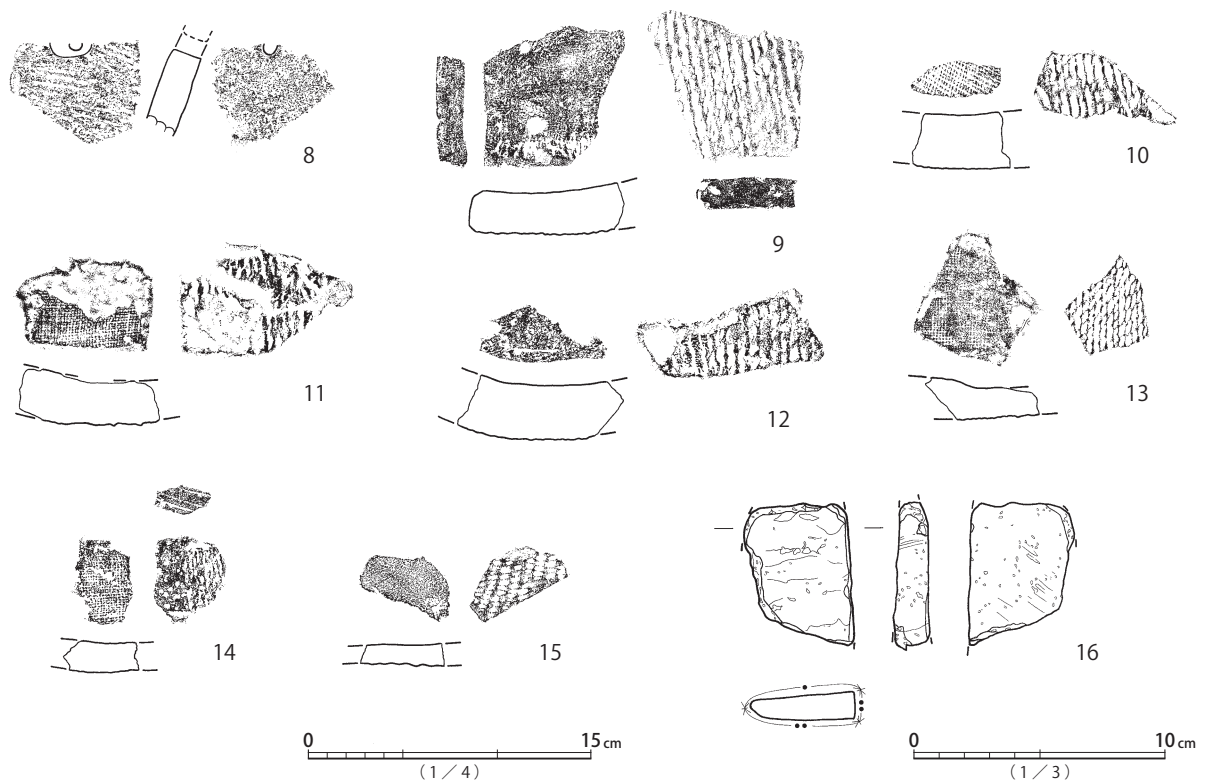
第24図 稻荷台遺跡(L5地点)出土遺物実測図2



第25図 稻荷台遺跡 (L5地点) 出土遺物実測図3



第26图 稻荷台遺跡 (L5地点) 出土遺物実測図4



第27図 稲荷台遺跡(L5地点)出土遺物実測図5

台地面は北側に入り込む東西の開析谷に向かって北西方向にやや傾斜する(第3図)。L5地点はL地点の南東隅に位置し、個人住宅建設に伴い家屋と駐車場部分を調査した(第20図)。L地点の中では最も標高が高い位置にあり、宅地造成前で26mを超える。

遺構と遺物 調査は敷地が狭小で、排土が置ききれないため、東西2分割して実施している。1号跡は調査範囲が僅かなため、性格は不明である。出土遺物もない。2号跡は古墳時代前期の竪穴建物跡である。中軸線よりやや西側に地焼炉があり、その軸線上に斜行ピットがある。南隅には貯蔵穴があり、1(第23図)が出土している。竪穴建物跡床面東側は一段高くなっており、ベッド状遺構の可能性もある。5(第23図)は床直上(第21図F-F)から出土した。3号跡は小型の竪穴建物跡で、中央に地焼炉があり、柱穴は検出されなかった(第21図)。少量の弥生時代後期の土器片を採集している。溝状遺構である4号跡は、断面逆台形の形状で、上辺2m以上、底辺1m、深さ0.5m以上の規模がある(第22図)。ほぼ直線で、北東から南西方向(N-55°-E)に走行する。溝の埋没過程で踏み固めが観察され、覆土からは18(第25図)の軒瓦片を含む16(第24図)～25(第25図)の被熱された布目瓦が比較的多く出土した。5号跡は主軸長7mの弥生時代後期の大型竪穴建物跡であり、地焼炉が主軸線上北寄りにある。主柱穴跡を2・4号跡内から検出している。出土遺物1～9(第25図)はいずれも小片である。3号跡と5号跡の主軸方位はほぼ同方向であり、時期的に関連する可能性がある(第21図)。

6号跡と7号跡は竪穴建物跡と想定されるが、検出時に床が露呈していた。7号跡は、6号跡を切り、4号跡に切られている。遺物は帰属が明確でないため、詳細は不明である。8号跡は遺構の切り合い関係から4号跡の埋没後の竪穴建物跡であり、9世紀代と考えられるが、検出時カマド等に確実に伴う遺物がなかった(第22図)。

他に、縄文時代早期沈線文系土器16～21や黒曜石剥片23(第24図)など、縄文時代の遺物も散見されたが、縄文時代の遺構は検出されなかった。

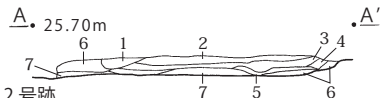
9 稲荷台遺跡（L6地点）

調査概要 稲荷台遺跡（L6地点）は、稲荷台遺跡L地点の北辺、台地傾斜変換線縁にある。造成前の標高は25.8mであり、開析谷が東西に入り込み崖線下は23m以下となる（第3図）。調査対象は地盤改良する家屋部分のみであるが、崖線に沿って擁壁が築かれて、調査対象北辺部の崖線は攪乱されている（第20図）。また、宅地造成時に客土されて現況は盛土されている。

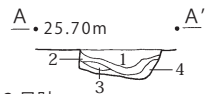
遺構と遺物 調査区西側の竪穴建物跡である1号跡は、覆土中位に橙色焼土（A-A' 7層）の散布が見られるが、木炭片等は少なく、埋没過程で火を使用したもので、焼失建物ではない。1号跡は地焼炉が検出されず、大半を4号跡に破壊されていた。柱穴の検出もなく、L5地点3号跡と同様に弥生時代後期の小型竪穴建物跡と推測される。その4号跡に切られて、土坑2号跡があるが、遺物の出土がなく詳細な時期は不明である。4号跡と重複関係にある土坑3号跡は4号跡よりも新しく、覆土の特徴から中世土坑と推測したが伴出遺物がなく、詳細は不明である。4号跡は、調査区中央にある一辺6.4mの竪穴建物跡である。支柱穴が8本検出され南東方向に拡張されているが、カマド位置は、そのまま西側に偏っている。竪穴建物跡床中央にピットがあり、床が被熱され赤く焼けていた。焼土を篩にかけたが、残渣物は検出されなかった。竪穴建物跡南東隅には貯蔵穴があり、須恵器等の杯や蓋が検出された。カマドは北位置にあり、カマド裾の構築材には瓦片が使用されている。竪穴建物跡中央の覆土には、カマド構築材の灰色粘土（A-A' B-B' C-C' 2・3層）が散らばっており、破棄されたものとみられる。また、4号跡が建てられる前に、円筒状掘り込みの土坑である5号跡があり、覆土上部は4号跡の貼床に覆われて、その床土間的一部分が沈下していた。5号跡は単独の土坑であり、掘立柱建物跡の可能性も想定したが関連する柱穴は検出されなかった（第28図）。

遺物の甕2と台付甕3は、竪穴建物跡である1号跡竪穴建物跡西側壁近くに、貯蔵穴状の凹部から入れ子状態で検出された（第28・29図）。土坑跡である2・3・5号跡からは、図示できる遺物の出土がなかった。竪穴建物跡4号跡は、主に遺構内東側から遺物が出土した。覆土中から多くの遺物があり、1～24は土師器、25～60が須恵器である。61～65は弥生土器で1号跡からの混入、66～74は縄文土器であり、L5地点と同様概ね早期の土器群である。注目は永田・不入窯の須恵器の杯類と蓋が多く検出されたことで、杯類は高台付杯が少ない。形状等から永田・不入窯Ⅱ期からのものが主体と考えられ、8世紀第3四半期と想定される（郷堀1998）。75～86は丸瓦片、87～122は平瓦片であり、123は磚である。88の瓦はカマド構築材として使用されているが、それ以外は、4号跡覆土から出土したものである。すべて小片で、瓦として使用されたものとは考えられないが、一般集落の竪穴建物跡の廃棄量としては非常に多い。多くは被熱されており、L5地点の溝状遺構である4号跡から出土した瓦片と似た状態であるが、本地点竪穴建物跡の4号跡に奈良時代の8世紀第3四半期の永田・不入窯産須恵器及び、被熱された瓦が廃棄された理由は不詳である。124は有孔円盤で石製模造品、125は磨き痕跡のある軽石で、砥石の可能性もある。126・127は鉄製鎌片、128・129は鉄製釘であり、全て本遺構から出土している（第29～37図）。一括遺物1～7は帰属が不明だが、1は土師器杯で4号跡と同時期であり、2・3・4は縄文土器で他L地点出土土器と同様である。5は台石と推定され鍛冶道具である（第37図）。

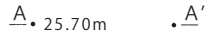
1号跡



2号跡



3号跡



1号跡

- A-A'
- 1 攪乱 灰褐色土
 - 2 混木炭暗褐色土
 - 3 混ローム褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 黒褐色土
 - 6 褐色土
 - 7 混木炭橙色焼土

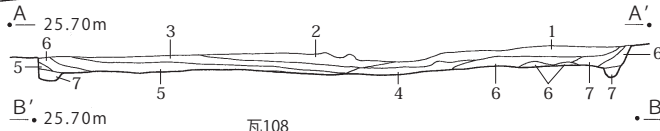
2号跡

- A-A'
- 1 ボソボソの黒褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 混ローム褐色土
 - 4 混ローム暗褐色土

3号跡

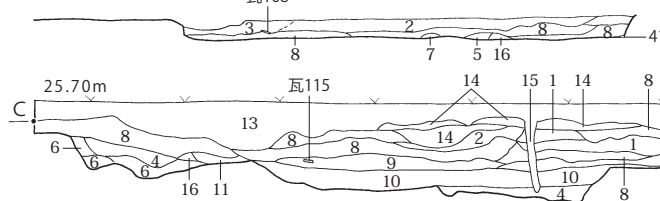
- A-A'
- 1 混若干ローム粒黒色土

4号跡



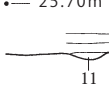
4号跡

- A-A' B-B' C-C'
- 1 混木炭片粒、橙色焼土粒暗褐色土
 - 2 混ローム粒、灰色粘土粒、橙色焼土粒暗褐色土
 - 3 混ローム粒、灰色粘土粒暗褐色土
 - 4 混ローム暗褐色土
 - 5 混ローム粒褐色土
 - 6 混ローム褐色土
 - 7 褐色土
 - 8 混橙色焼土粒暗褐色土
 - 9 混ロームブロック黒褐色土(床直)
 - 10 混ロームブロック、焼土粒黒褐色土(貼床)
 - 11 暗褐色土

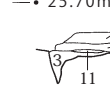


- 12 褐色ローム漸移層
 - 13 客土、宅地造成土
 - 14 明褐色土(近世)
 - 15 攪乱
 - 16 灰白色粘土塊
- X=55,080
Y=26,520

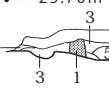
F. 25.70m



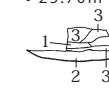
G. 25.70m



H. 25.70m



E. 25.70m

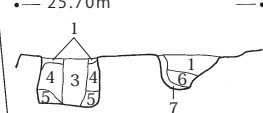


4号カマド H-H' E'-I

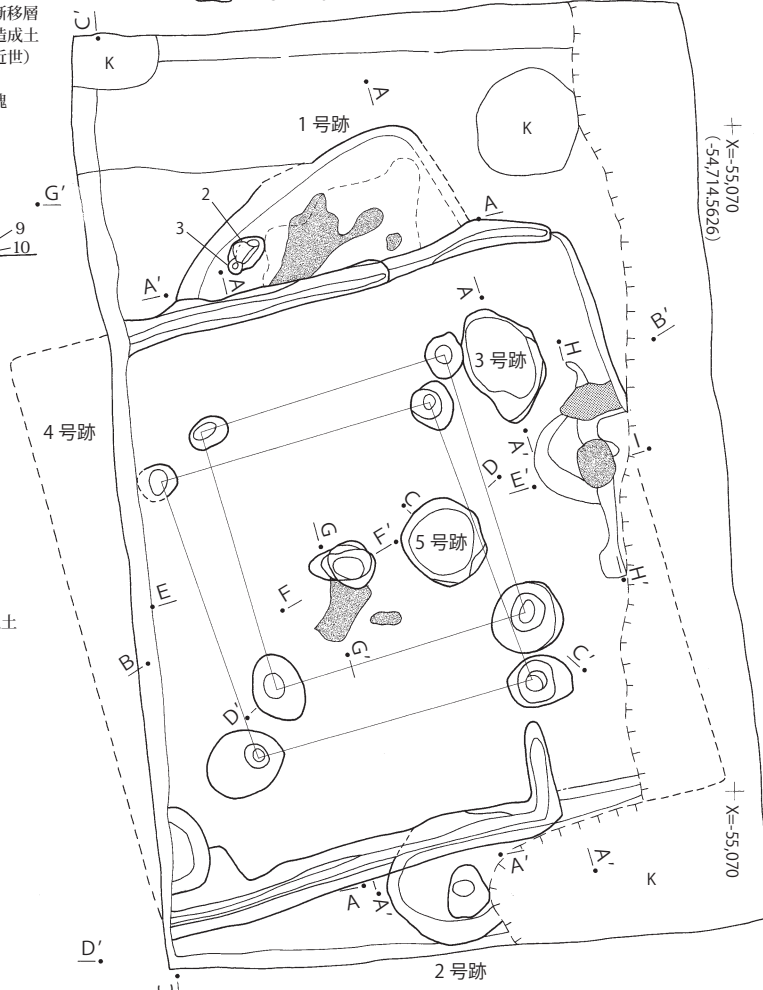
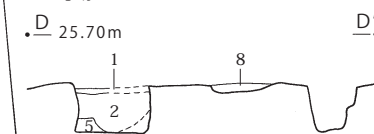
- 1 砂質灰白色粘土
- 2 橙色焼土
- 3 混橙色焼土、灰色粘土灰褐色土
- 4 混橙色焼土粒暗褐色土
- 5 混粘土橙色焼土
- 6 ローム層地山

5号跡

C. 25.70m



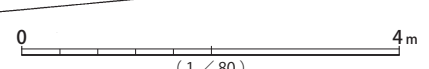
4・5号跡



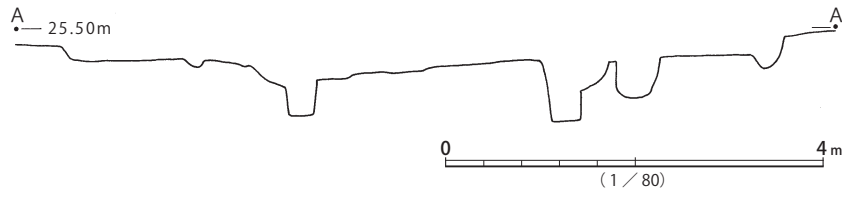
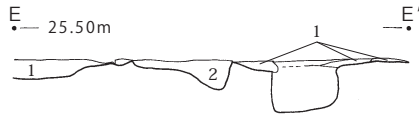
Y=26,520
(26,226.4984)
(世界測地系)

X=55,070
(54,714.5626)

X=55,070
Y=26,527

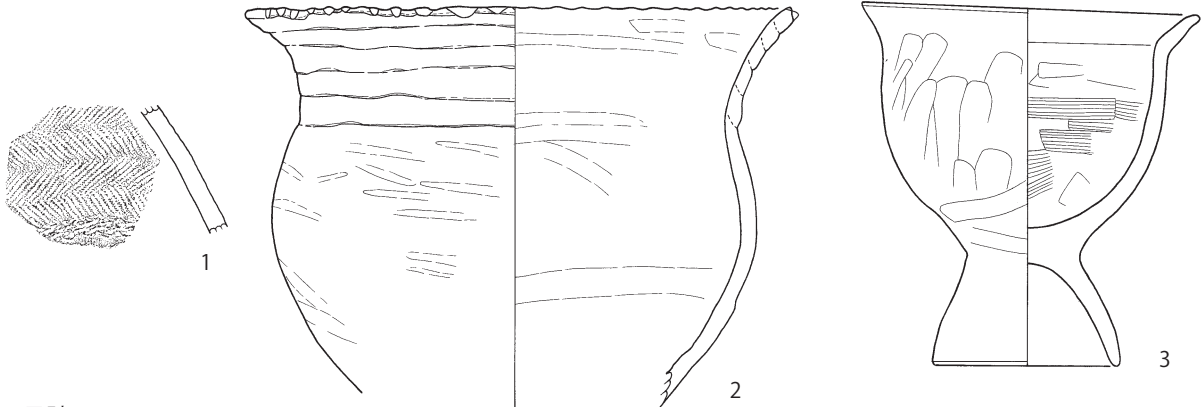


第28図 稻荷台遺跡(L6地点)遺構配置図・断面図

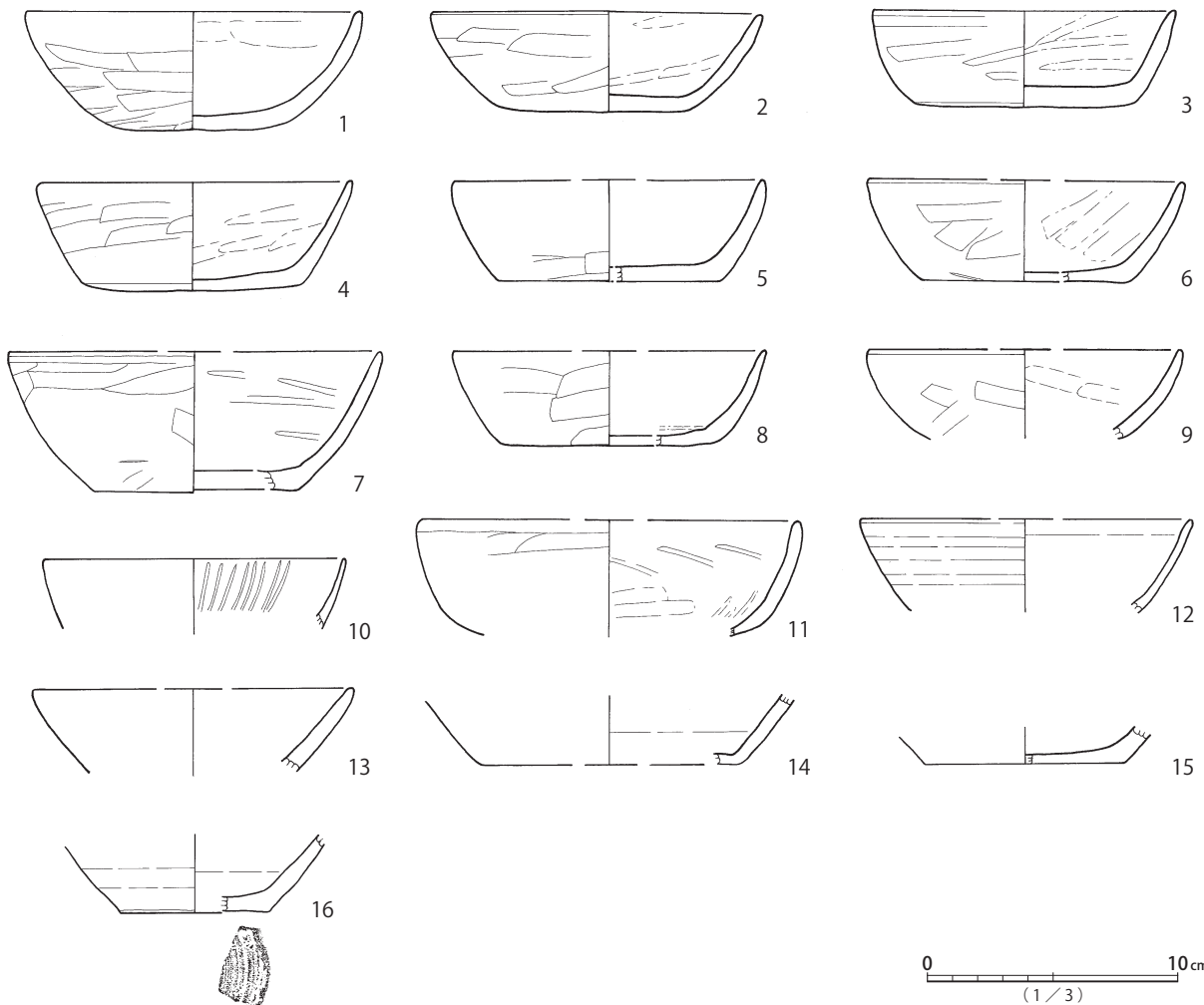


- 5号跡 C-C' 4・5号跡 D-D' E-E'
 4号跡 F-F' G-G'
- 1 混ロームブロック、焼土粒黒褐色土（貼床）
 - 2 混木炭片粒、橙色焼土粒暗褐色土
 - 3 攪乱
 - 4 混木炭片、ローム黒褐色土
 - 5 混ローム暗褐色土
 - 6 混ローム黒褐色土
 - 7 混ローム褐色土
 - 8 橙色焼土
 - 9 混ローム粒、粘土粒、橙色焼土粒暗褐色土
 - 10 混ローム粒、橙色焼土粒暗褐色土
 - 11 混橙色焼土粒暗褐色土

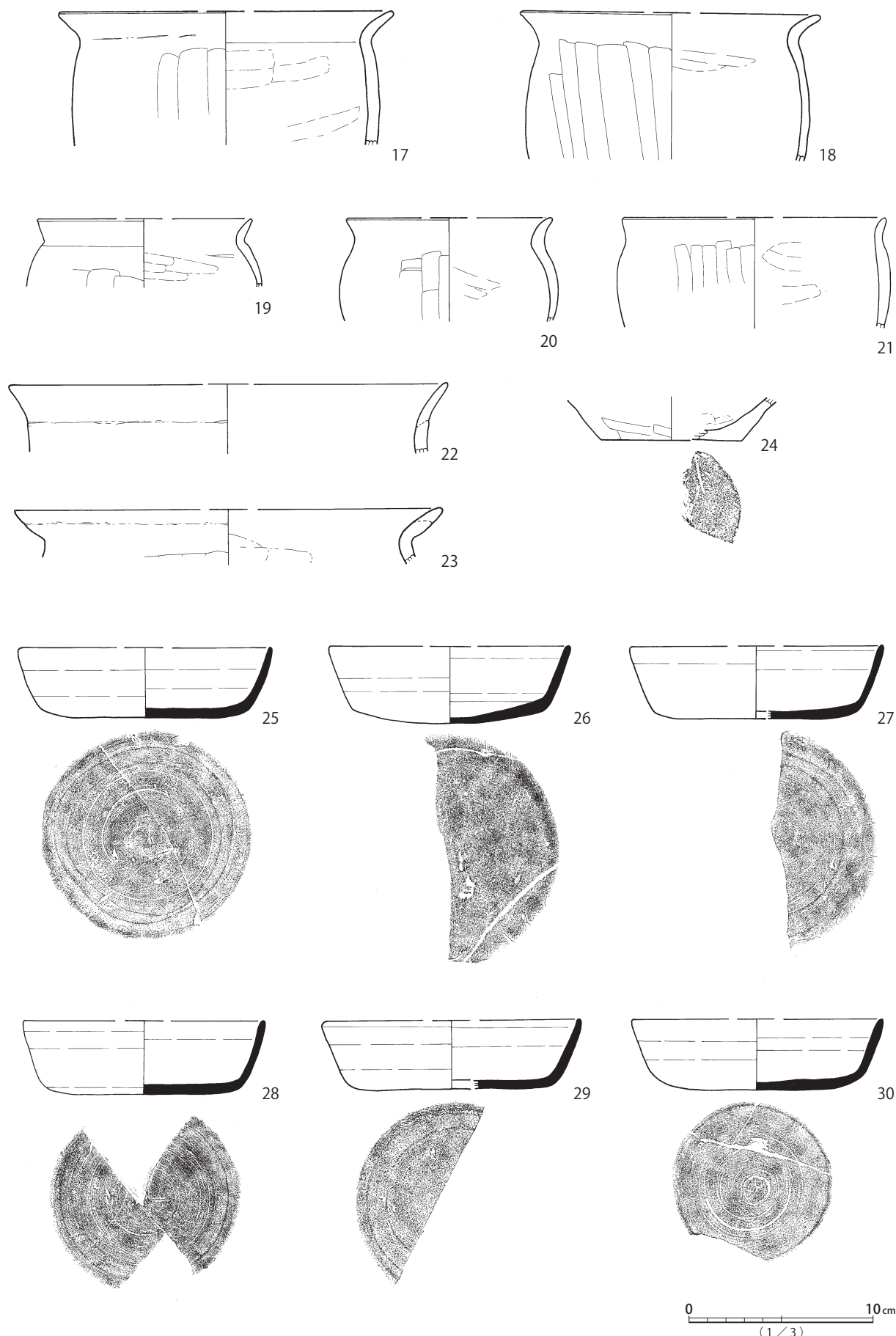
1号跡



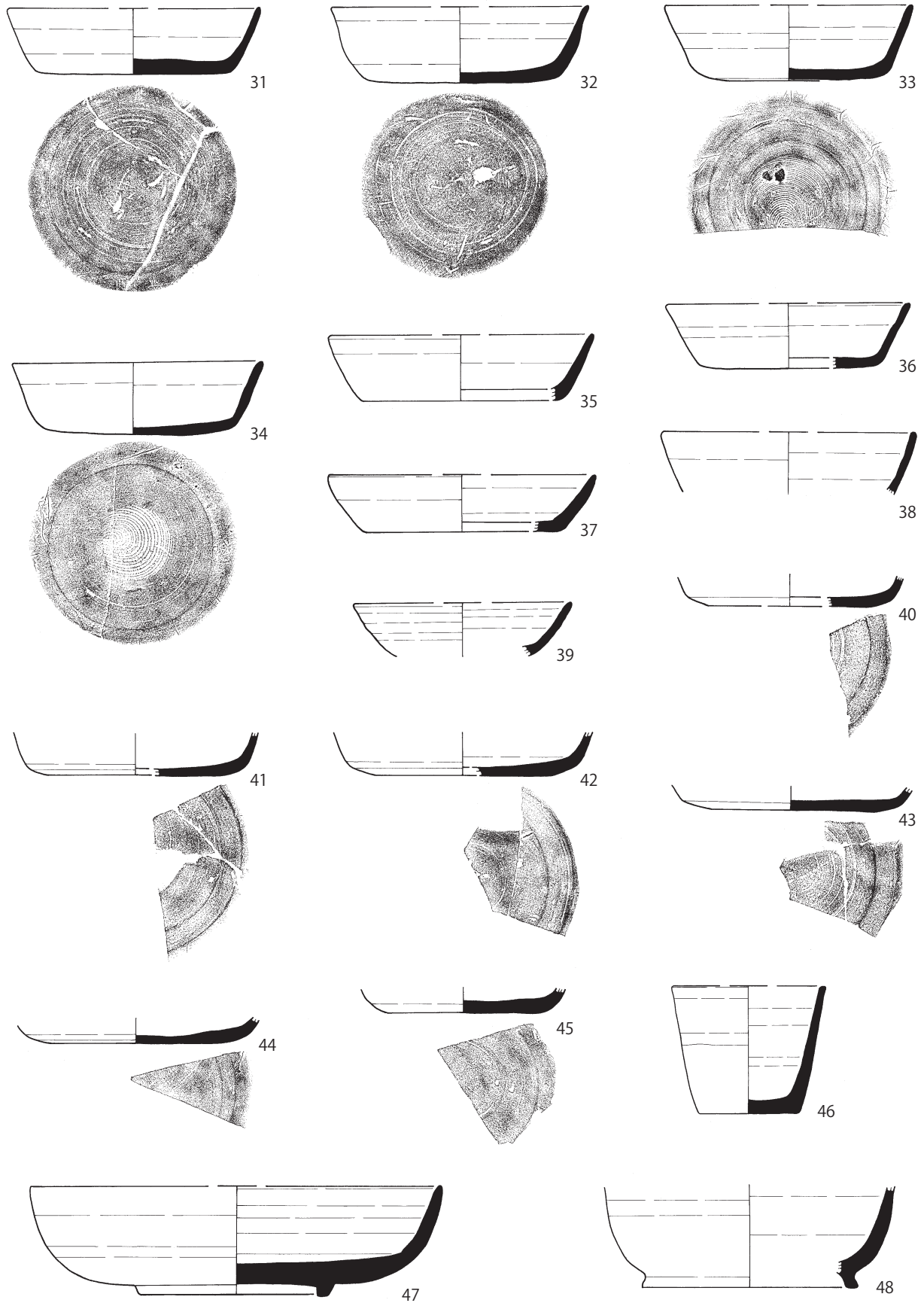
4号跡



第29図 稲荷台遺跡(L6地点)断面図・出土遺物実測図1

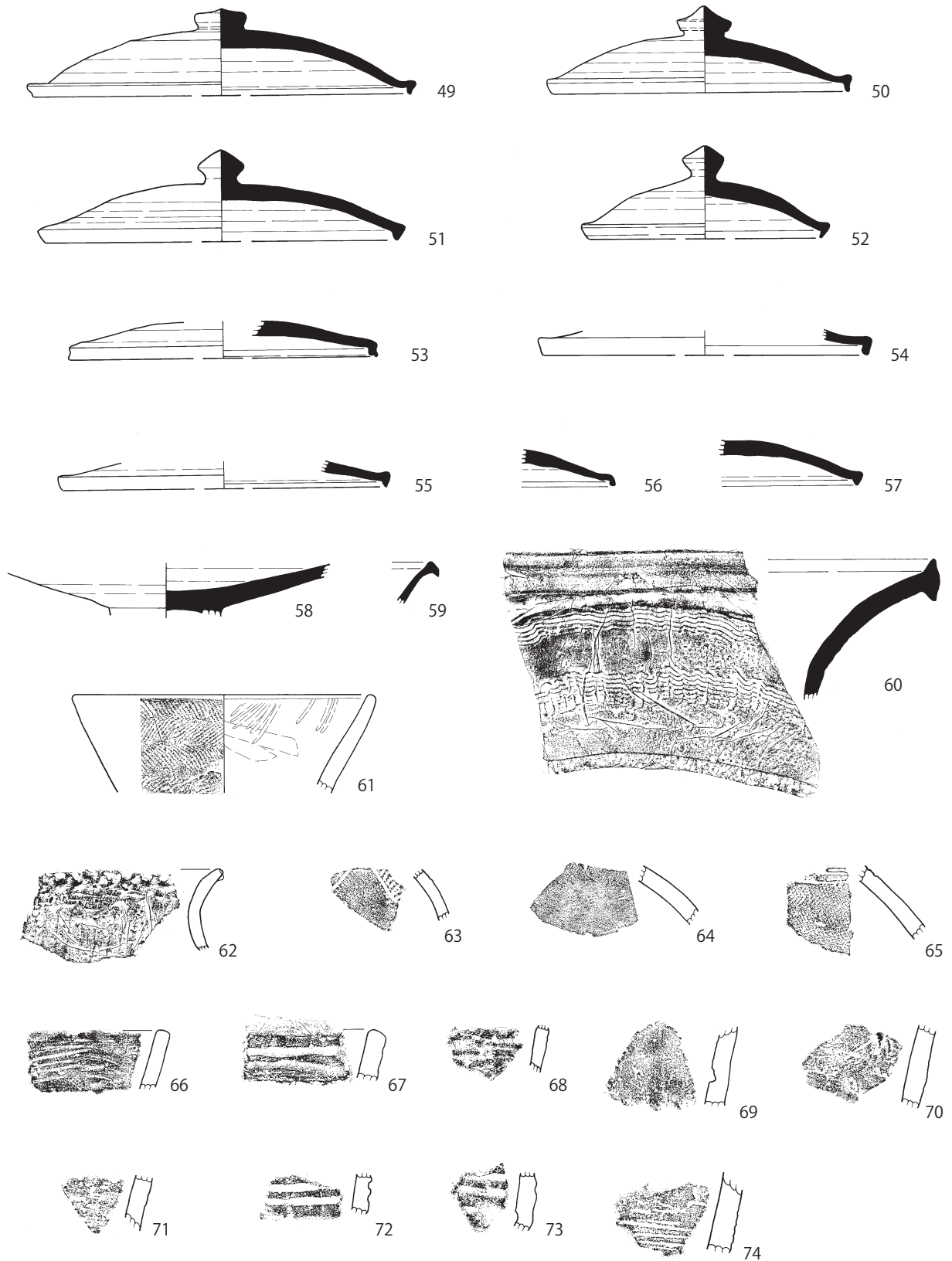


第30図 稲荷台遺跡(L6地点)出土遺物実測図2

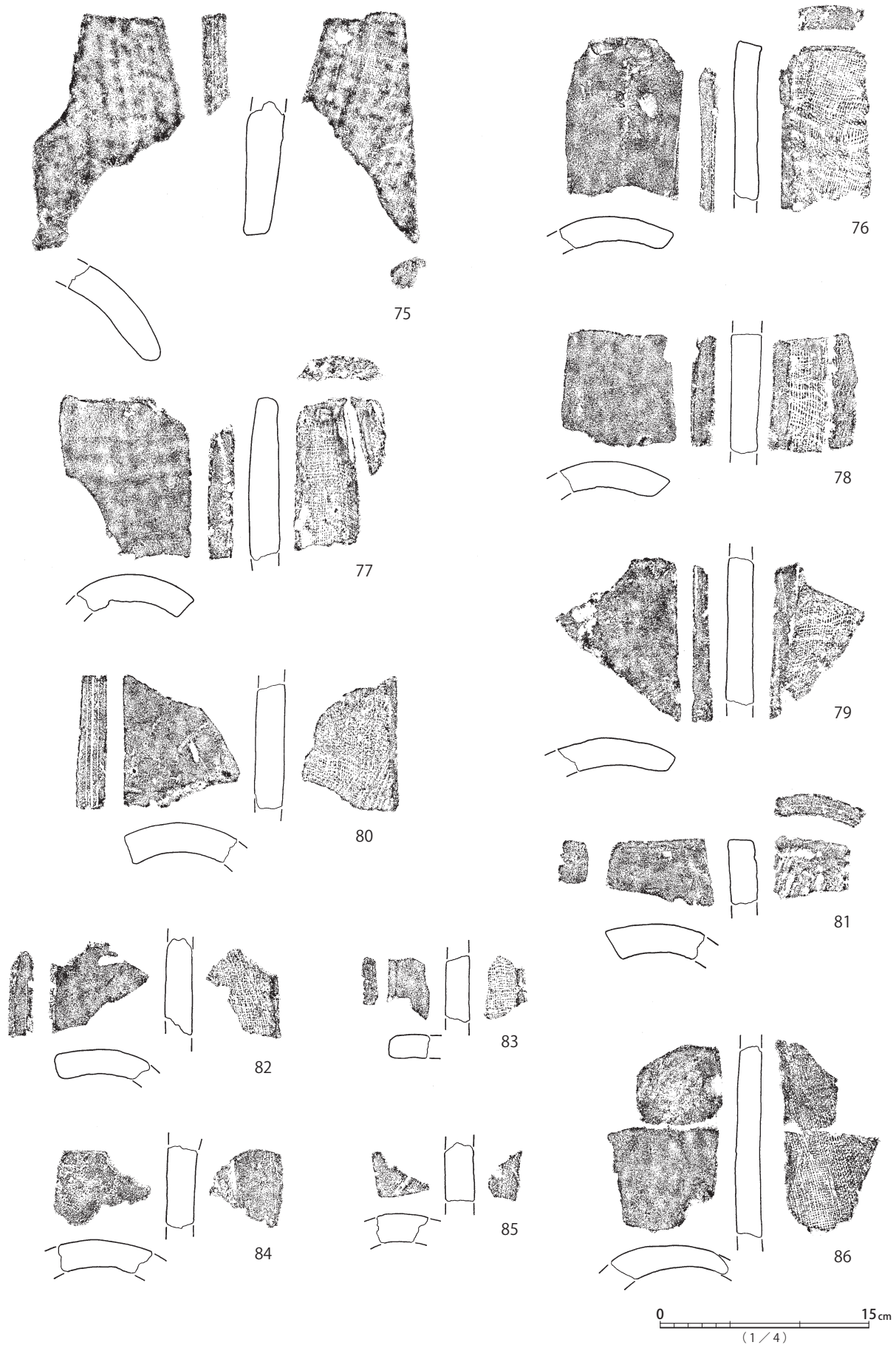


0 10cm
(1/3)

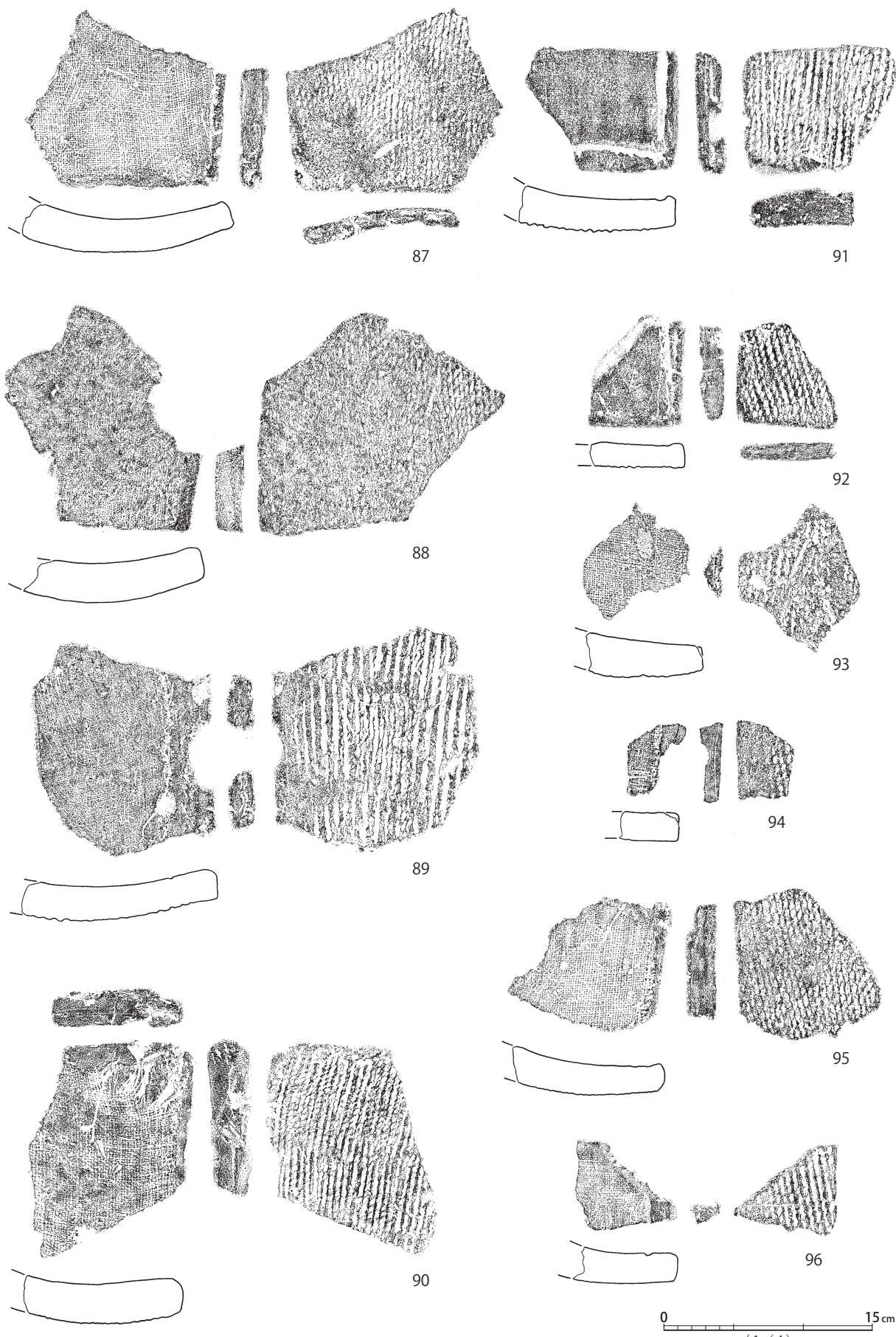
第31図 稲荷台遺跡(L6地点)出土遺物実測図3



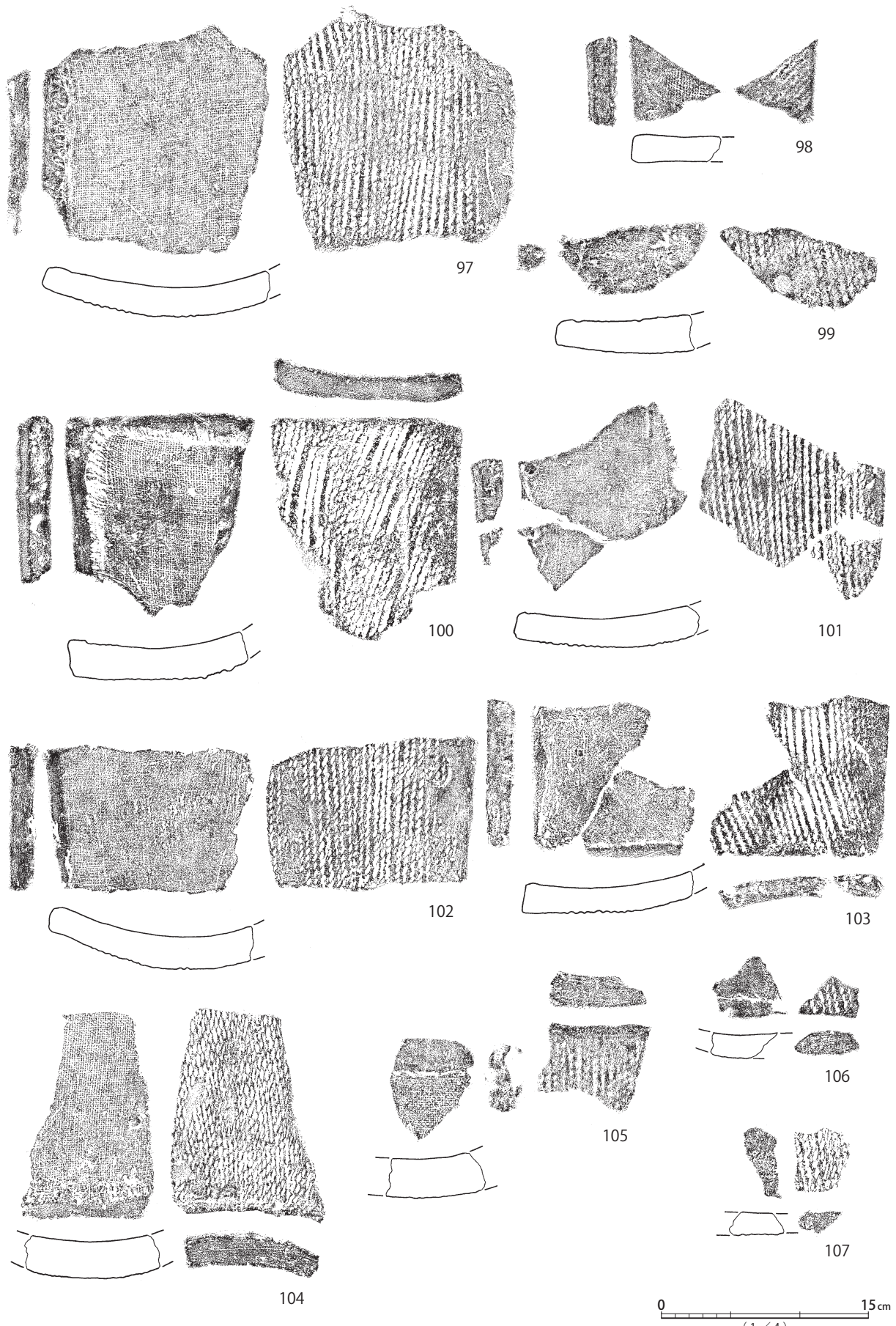
第32图 稻荷台遺跡(L6地点)出土遺物実測図4



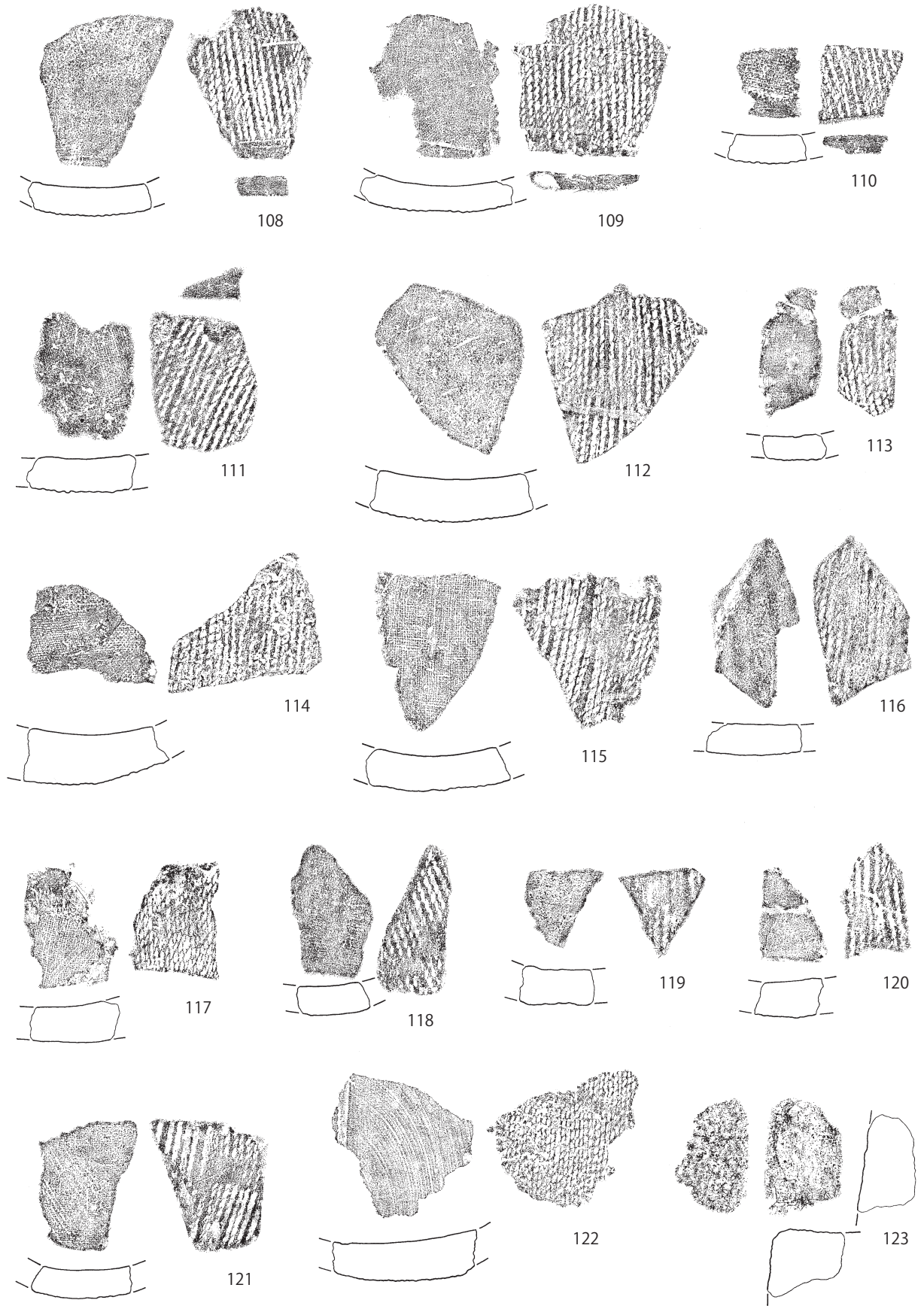
第33図 稲荷台遺跡(L6地点)出土遺物実測図5



第34図 稲荷台遺跡(L6地点)出土遺物実測図6

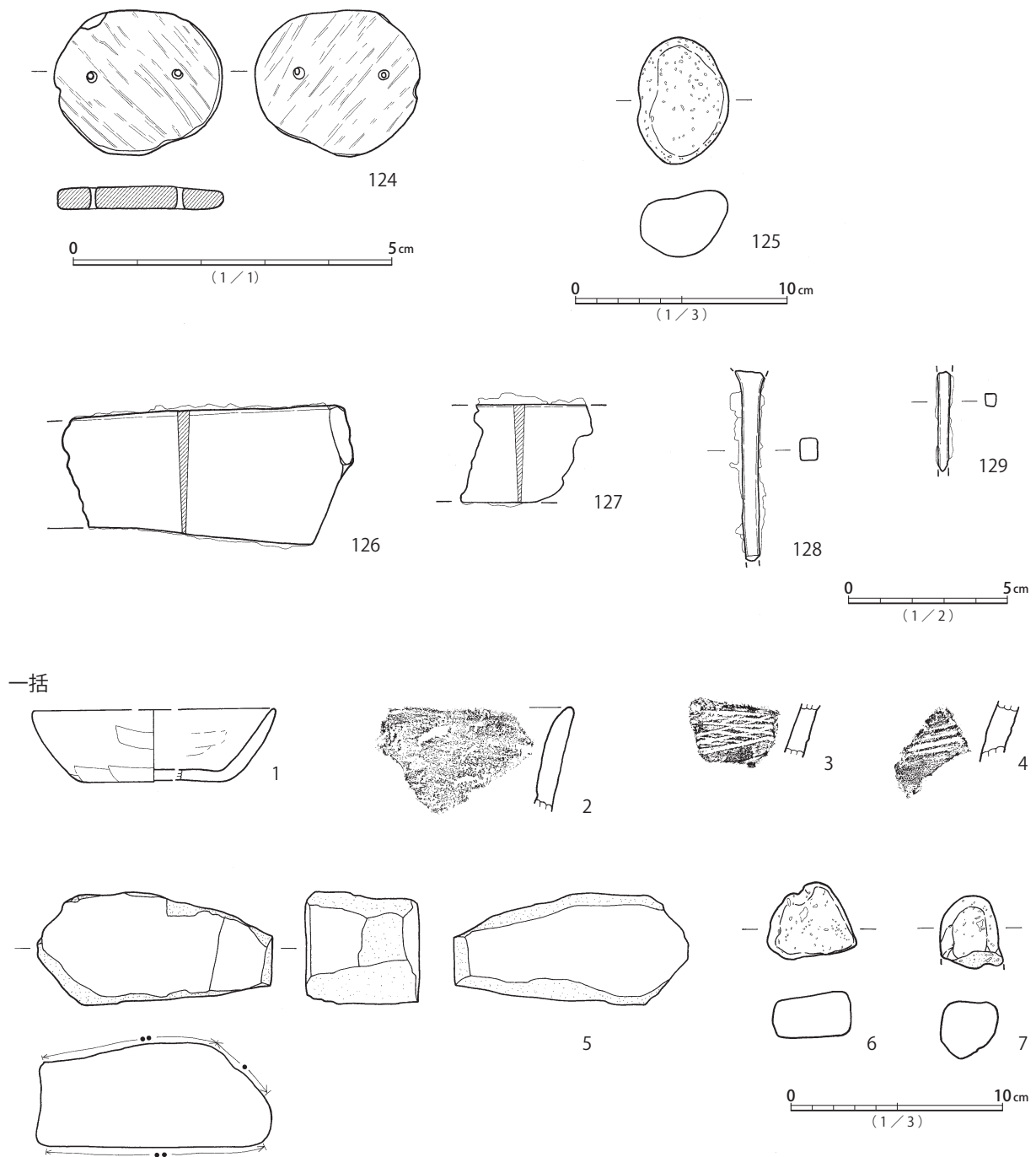


第35図 稻荷台遺跡(L6地点)出土遺物実測図7



0 15cm
(1/4)

第36图 稻荷台遺跡(L6地点)出土遺物実測図8



第37図 稲荷台遺跡(L6地点)出土遺物実測図9

10 稲荷台遺跡（L7地点）

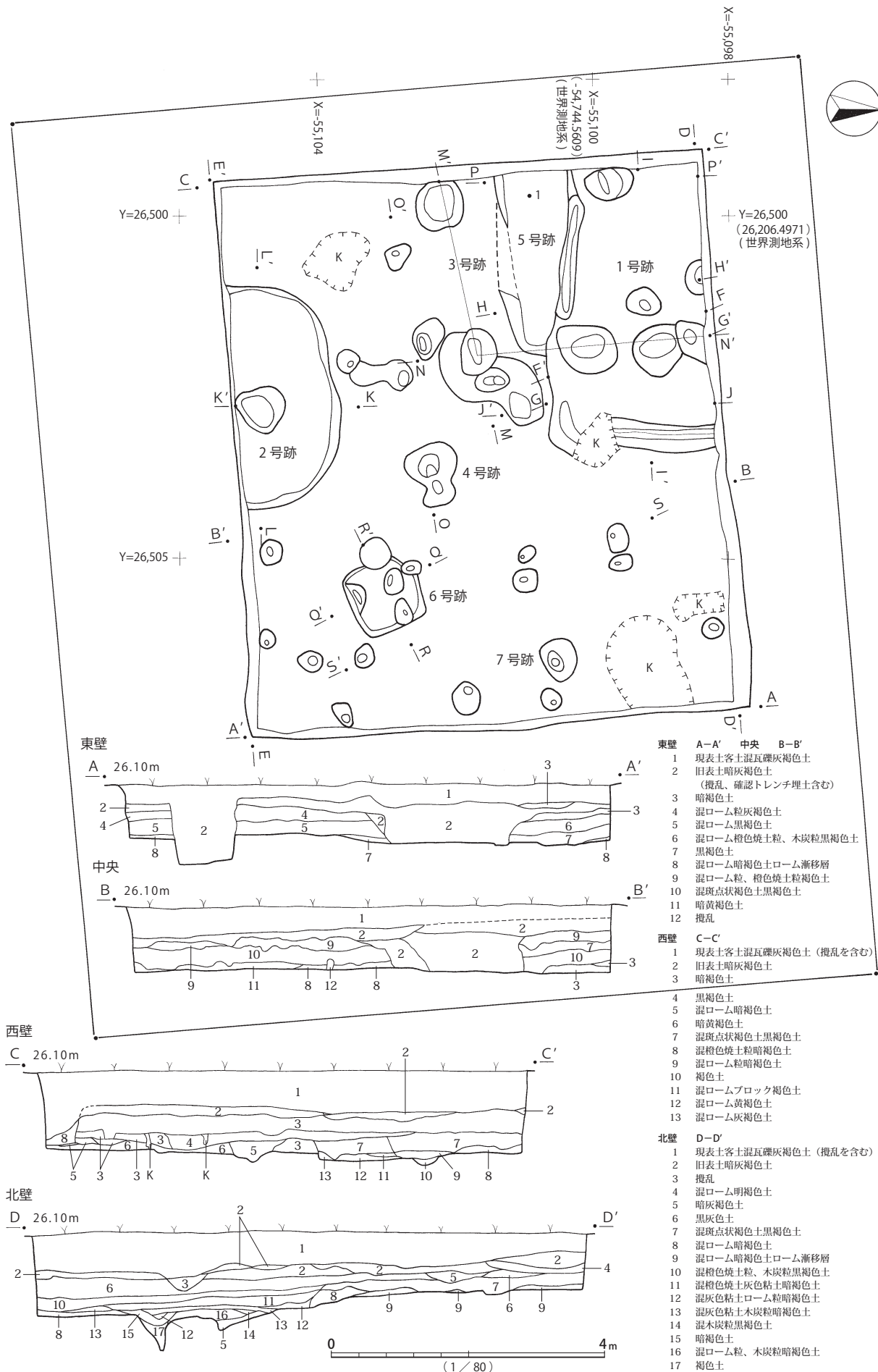
調査概要 地盤改良を行う家屋部分のみを対象に調査を実施した（第20・38図）。調査地点は稲荷台遺跡L地点の中央部に当たるが、北西方向に地盤のローム層上面が傾斜しており、標高25m付近が遺構確認面となっている。平成18年度確認調査の12トレンチが当調査区中央を東西に横断しており（第20図）、確認調査時報告の、12トレンチ出土砥石49は、今回調査地点の土坑4号跡に帰属する。造成時の盛土が厚く、敷地が狭小で排土が置ききれないため、調査は東西に2分割して行った（第38図）。

遺構と遺物 中央断面位置B-B'が調査時の東西分割した個所になり、西側調査区に竪穴建物跡である1号・2号・5号跡と掘立柱建物跡である3号跡、土坑の4号跡がある。また東側調査区には、複数の浅いピットを伴う土坑の6号跡と、中世時期と推測されるピット群の7号跡がある。

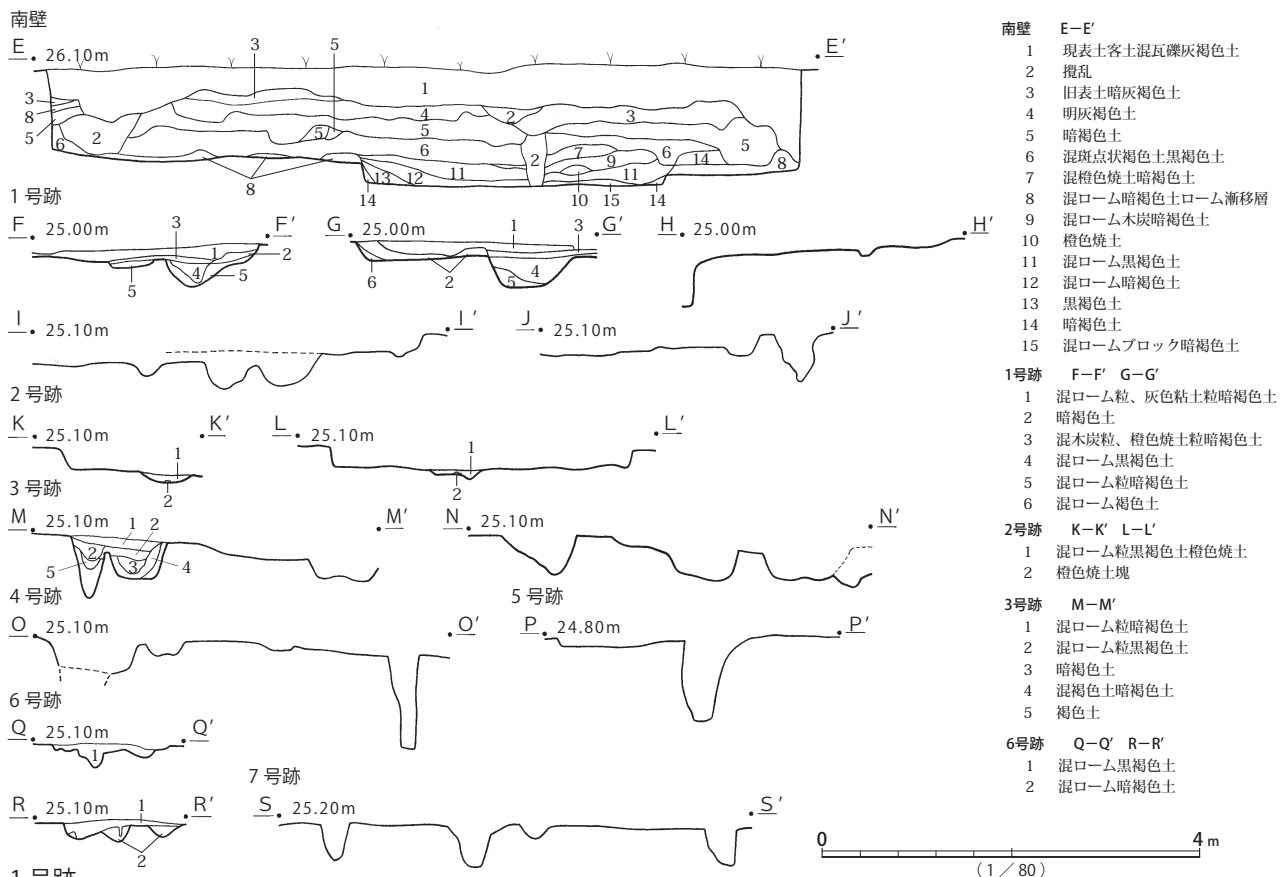
竪穴建物跡である1号跡は調査区北側にあり、掘り込みが浅く覆土も薄い、出土遺物から奈良・平安時代とした。しかし、良好な遺物が少なく、調査範囲からカマドの検出もなかった。ただ、覆土に灰色粘土が散布しており（F-F' G-G' 1層）、カマドの存在を推測させる（第38～40図）。竪穴建物跡である2号跡は調査区南側に北側半分があり、弥生時代後期竪穴建物跡の地焼炉を検出している。柱穴はなく小型竪穴建物跡であるが、床面は固く硬化していた（第38図）。遺物は覆土中位から出土し、1～4と少ない（第40図）。3号跡は掘立柱建物跡であり、1号跡の下から柱穴が検出された。柱穴列で南北列3本、東西列2本が確認されている。明確な掘込ではなく連続する小土坑状であるが、1号跡より古く東西南北がほぼ直行するので、掘立柱建物跡とした（第38図）。4号跡は平成18年度に確認された中世時期の土坑と考えられる（第20・38図）。5号跡は、1（第40図）の古墳時代前期の甕が、遺構確認面精査時に横倒し状態で出土したことから、竪穴建物跡であることがわかった。しかし、5号跡は1号跡によって大きく削平されていたため、竪穴建物跡の壁や床面の確認も不明瞭であった（第38図）。古墳時代前期の竪穴建物跡はL5地点でも検出されており、広く集落が広がると推測される（第20図）。東側調査区にあった6号跡は覆土が混ローム黒褐色土（Q-Q' R-R' 1層）を呈する。複数の浅いピットを伴う土坑だが掘り込み自体は浅く、遺物も検出されない（第38図）。隣接するピット群である7号跡も小型の柱穴群であるが、規則性はない。稲荷台遺跡L1地点でも調査された一連のピット群であり、時期は中世と推測される（第20・38図）。

参考文献

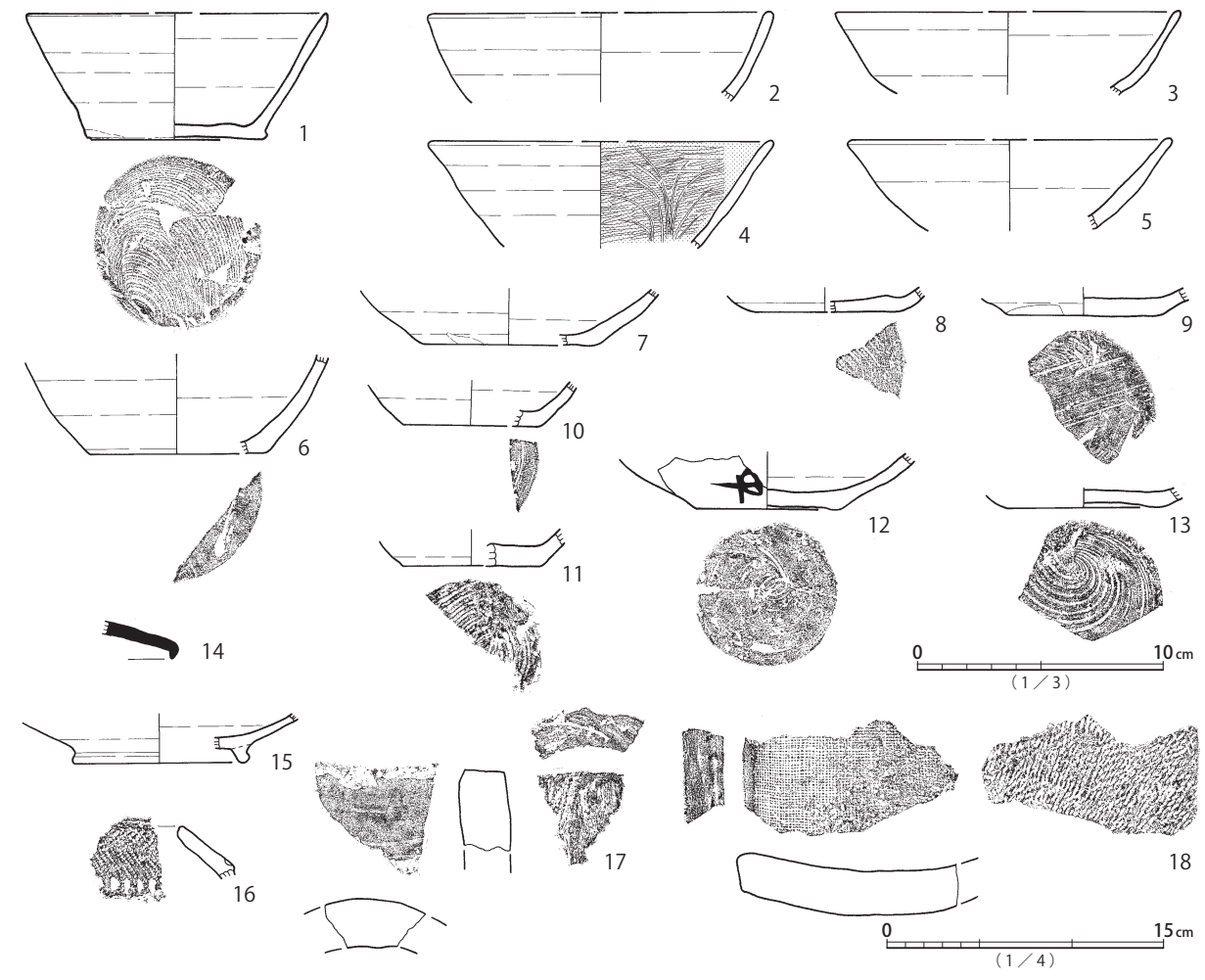
- 財団法人 市原市文化財センター 1985「永田、不入窯跡」財団法人市原市文化財センター調査報告書第7集
郷堀英司 1998「永田・不入窯跡」『千葉県の歴史』資料編考古3（奈良平安時代）千葉県史シリーズ11
浅利幸一・高橋照彦 1998「稲荷台遺跡」『千葉県の歴史』資料編考古3（奈良平安時代）千葉県史シリーズ11
財団法人 市原市文化財センター 2003「市原市稲荷台遺跡」財団法人市原市文化財センター調査報告書第83集
市原市教育委員会 2007「稲荷台遺跡L地点」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』
市原市教育委員会 2014「稲荷台遺跡（L-2）・（L-3）地点」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』



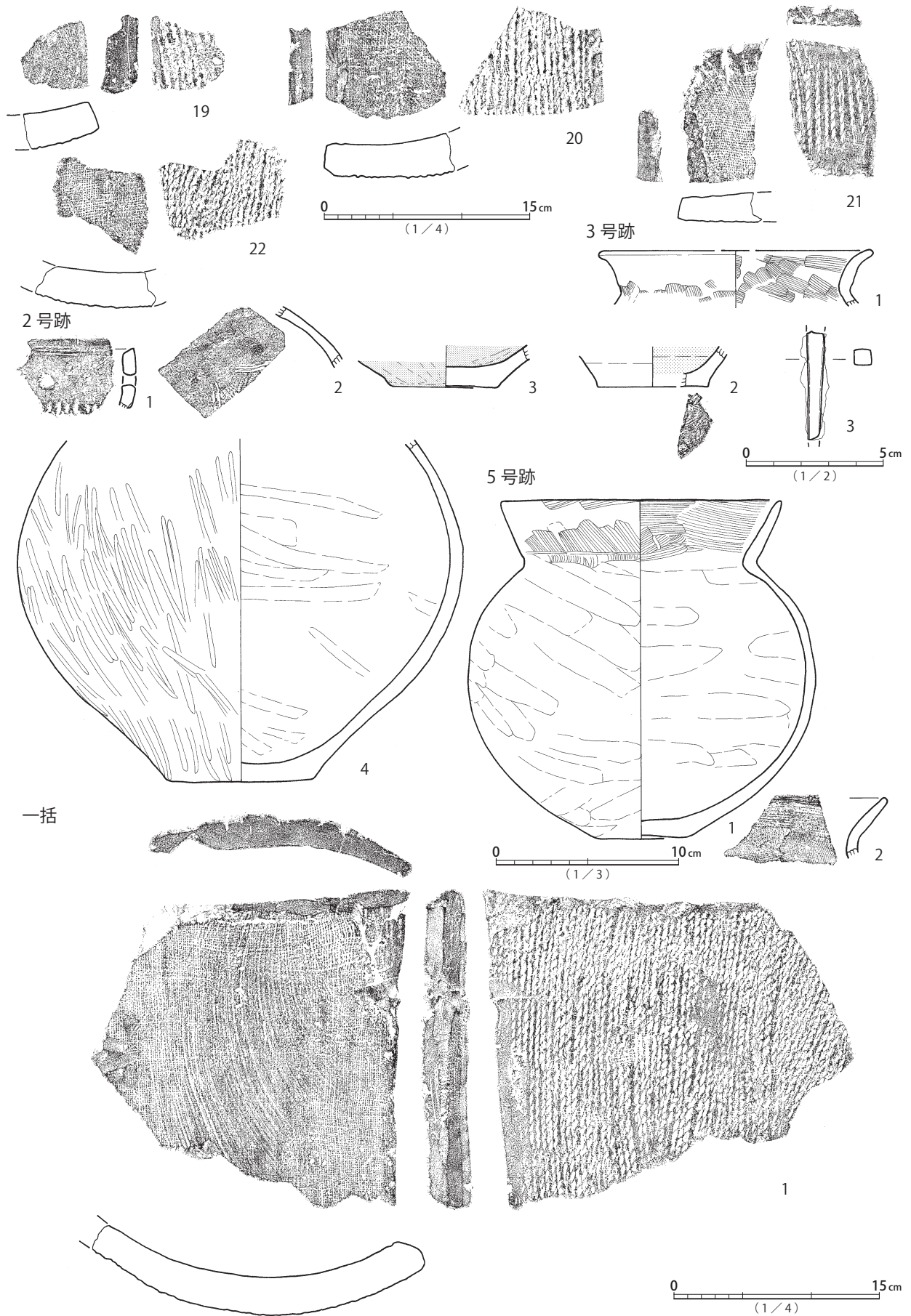
第38図 稻荷台遺跡 (L7地点) 遺構配置図・断面図



- 南壁 E-E'
- 1 現表土客土混瓦礫灰褐色土
 - 2 攪乱
 - 3 旧表土暗灰褐色土
 - 4 明灰褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 混斑点状褐色土黒褐色土
 - 7 混橙色焼土暗褐色土
 - 8 混ローム暗褐色土ローム漸移層
 - 9 混ローム木炭暗褐色土
 - 10 橙色焼土
 - 11 混ローム黒褐色土
 - 12 混ローム暗褐色土
 - 13 黒褐色土
 - 14 暗褐色土
 - 15 混ロームブロック暗褐色土
- 1号跡 F-F' G-G'
- 1 混ローム粒、灰色粘土粒暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 混木炭粒、橙色焼土粒暗褐色土
 - 4 混ローム黒褐色土
 - 5 混ローム粒暗褐色土
 - 6 混ローム褐色土
- 2号跡 K-K' L-L'
- 1 混ローム粒黒褐色土橙色焼土
 - 2 橙色焼土塊
- 3号跡 M-M'
- 1 混ローム粒暗褐色土
 - 2 混ローム粒黒褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 混褐色土暗褐色土
 - 5 褐色土
- 6号跡 Q-Q' R-R'
- 1 混ローム黒褐色土
 - 2 混ローム暗褐色土



第39図 稲荷台遺跡(L7地点)断面図・出土遺物実測図1



第40図 稲荷台遺跡 (L7地点) 出土遺物実測図2

第1表 出土土器属性表

図No	遺跡	整理 No	取り上げ 位置	種別	器種	口径 (上径)	底径 (下径)	器高	遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
5	1 大塚(一心第2)	3トレ	5点	土師 小形鉢	(1.2)	(2.0)	(1.2)	底部ほぼ完存	密・黒色粒少量	良	にぶい赤黒	外面ヘラナナデ、ヘラミガキ。内面ヘラナナデ。	被熱受け赤色化	
5	2 大塚(一心第2)	3トレ	6点	土師 小形鉢	(1.2)	(2.0)	(1.2)	口縁部片	密・黒色粒少量	良	にぶい赤黒	外面折り返し口縁、口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	被熱受け一部赤色化	
5	3 大塚(一心第2)	4トレ	1点	土師 小形鉢	(2.0)	(6.0)	(5.3)	底部下半~底部 4/5 残	密・白色粒少量	良	外面ヘラミガキ、上面赤彩施す。内面ヘラナナデ。			
5	4 大塚(一心第2)	4トレ	7点	土師 小形鉢	(7.6)	(3.6)	(1.3)	底部1/3 残	密・赤色粒少量均等	良	暗赤	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
10	1 六森王塚(G区)	1トレ	1点	弥生 甕				胴部上半部	密・黒色粒少量均等	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。	安房地域の形跡ありか	
10	2 六森王塚(G区)	1トレ	3点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量均等	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
10	3 六森王塚(G区)	3トレ	1点	弥生 甕				胴部片	密・黒色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
10	4 六森王塚(G区)	1トレ	1点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
10	5 六森王塚(G区)	1トレ	5点	弥生 甕				胴部片	やや粗・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
10	6 六森王塚(G区)	1トレ	2点	弥生 甕	(14.0)	(8.0)	(5.4)	口縁~胴部1/3 残	やや粗・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
10	7 六森王塚(G区)	4トレ	1点	弥生 甕	(19.6)	(18.1)	(5.3)	口縁部~胴部 1/6 残	密・黒色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
10	8 六森王塚(G区)	4トレ	3点	細文 深鉢				口縁部片	密・黒色粒少量	良	にぶい赤褐	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
10	9 六森王塚(G区)	3トレ	2点	細文 深鉢				口縁部片	密・黒色粒少量均等	良	にぶい赤褐	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	1 山倉前畑	1号跡	1点	土師 浅鉢	18.0	6.8	8.4	ほぼ完形	密・白色粒少量	良	にぶい赤褐	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	2 山倉前畑	1号跡	10点	土師 高杯	(21.8)	(13.2)	(4.6)	高杯杯部1/10 残	密・黒色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	3 山倉前畑	1号跡	2点	土師 甕	(10.0)	5.9	(17.5)	胴部下半~底部完存	密・白色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	4 山倉前畑	1号跡	8点	土師 甕				口縁部片	密・白色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	5 山倉前畑	1号跡	7点	土師 甕	(6.6)	(6.6)	(2.4)	胴・脚接合部ほぼ完存	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	6 山倉前畑	1号跡	34点	土師 台付甕	(7.0)	(6.6)	(2.0)	底部1/2 残	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	7 山倉前畑	1号跡	36点	土師 甕	(10.8)	(9.6)	(2.3)	底部1/3 残	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	8 山倉前畑	1号跡	35点	土師 甕	(11.5)	(8.0)	(2.4)	底部1/4 残	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	9 山倉前畑	1号跡	37点	土師 甕	(13.0)	(8.6)	(2.5)	底部1/8 残	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	10 山倉前畑	1号跡	38点	細文 深鉢				口縁部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	11 山倉前畑	1号跡	3点	弥生 甕				口縁部片	密・黒色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	12 山倉前畑	1号跡	4点	弥生 甕				口縁部片	やや粗・白色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	13 山倉前畑	1号跡	28点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	14 山倉前畑	1号跡	23点	弥生 甕				胴部片	密・黒色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	15 山倉前畑	1号跡	29点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	16 山倉前畑	1号跡	18点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	17 山倉前畑	1号跡	15点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	18 山倉前畑	1号跡	26点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	19 山倉前畑	1号跡	16点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	20 山倉前畑	1号跡	50点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	21 山倉前畑	1号跡	31点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	22 山倉前畑	1号跡	17点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	23 山倉前畑	1号跡	22点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	24 山倉前畑	1号跡	24点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	25 山倉前畑	1号跡	25点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	26 山倉前畑	1号跡	19点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	27 山倉前畑	1号跡	21点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	28 山倉前畑	1号跡	30点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	29 山倉前畑	1号跡	20点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	30 山倉前畑	1号跡	32点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	31 山倉前畑	1号跡	27点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	32 山倉前畑	1号跡	5点	弥生 甕				口縁部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	33 山倉前畑	1号跡	11点	弥生 甕				口縁部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	34 山倉前畑	1号跡	12点	弥生 甕				口縁部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	35 山倉前畑	1号跡	14点	弥生 甕				口縁部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	36 山倉前畑	1号跡	13点	弥生 甕				口縁部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	37 山倉前畑	1号跡	47点	土師 杯				底部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	38 山倉前畑	1号跡	48点	須恵 蓋				蓋つまみ部残	密	良好	灰	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	39 山倉前畑	1号跡	44点	細文 深鉢				口縁部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	40 山倉前畑	1号跡	43点	細文 深鉢				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	41 山倉前畑	1号跡	45点	細文 深鉢				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
14	42 山倉前畑	1号跡	46点	細文 深鉢				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
15	44 山倉前畑	3号跡	2点	弥生 甕				口縁部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
15	45 山倉前畑	3号跡	4点	弥生 甕				胴部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
15	46 山倉前畑	3号跡	1点	弥生 小形鉢	(7.4)	(6.0)	(2.7)	底部下半~底部 1/2 残	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
15	47 山倉前畑	3号跡	5点	弥生 甕				口縁部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		
15	48 山倉前畑	3号跡	7点	細文 深鉢				口縁部片	密・褐色粒少量	良	にぶい暗	外面片断施す。外面片断施す。外面片断施す。		

(cm) (cm) (cm)

Table with columns: 図No, 遺跡, 整理 No, 遺構等, 取り上げ, 類別, 器種, 口径(上段), 口径(下段), 器高, 遺存, 胎土・含有物, 焼成, 色調, 調整・文様, 備考. Rows 29-57 describe archaeological findings like pottery and metal vessels.

(cm) (cm) (cm)

図号	遺跡	整理 No.	取り上げ	類別	器種	口径 (上径) (下径)	器高	遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
32 58	稲荷台 (L6)	4号跡	65点	須臾	高椀	(16.5)	(5.7)	口縁底～脚上半2/3残 口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等 少量均等	良好	黒灰	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	長頸壺か 小石粒(1～2mm大)
32 59	稲荷台 (L6)	4号跡	66点	須臾	高椀	(16.5)	(5.7)	口縁～頸部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良好	黒灰	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	長頸壺か
32 60	稲荷台 (L6)	4号跡	67点	須臾	大甕			口縁～頸部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良好	灰黒	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	小石粒(1～2mm大)
32 61	稲荷台 (L6)	4号跡	70点	弥生	浅鉢	15.2	(11.0)	口縁～底部下半2/3残	密・黒色粒少量	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	小石粒(1～3mm大)
32 62	稲荷台 (L6)	4号跡	74点	弥生	罍			口縁～頸部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・赤褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 63	稲荷台 (L6)	4号跡	72点	弥生	罍			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・赤褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 64	稲荷台 (L6)	4号跡	73点	弥生	罍			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 65	稲荷台 (L6)	4号跡	71点	弥生	罍			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・黒色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 66	稲荷台 (L6)	4号跡	75点	弥生	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・黒色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 67	稲荷台 (L6)	4号跡	76点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・黒色粒少量均等	良	にぶい・黄緑	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 68	稲荷台 (L6)	4号跡	77点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 69	稲荷台 (L6)	4号跡	85点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 70	稲荷台 (L6)	4号跡	83点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 71	稲荷台 (L6)	4号跡	84点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 72	稲荷台 (L6)	4号跡	80点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 73	稲荷台 (L6)	4号跡	81点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
32 74	稲荷台 (L6)	4号跡	79点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・黒色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
37 1	稲荷台 (L6)	一括	3点	土師	杯	(11.4)	(6.6)	口縁～底部1/4残	密・黒色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	繊維混入
37 2	稲荷台 (L6)	一括	12点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
37 3	稲荷台 (L6)	一括	1点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	繊維が入り、断面黒色
37 4	稲荷台 (L6)	一括	2点	細文	深鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	底部に指印残あり
39 1	稲荷台 (L7)	1号跡	1点	土師	杯	(12.2)	7.2	口縁～底部2/3残	密・黒色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・赤褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 2	稲荷台 (L7)	1号跡	3点	土師	杯	(13.8)	(10.5)	口縁～底部下半1/8残	密・黒色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	内外面に指印残あり、右側面か
39 3	稲荷台 (L7)	1号跡	4点	土師	杯	(14.0)	(9.0)	口縁～底部下半1/8残	密・黒色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	黒色処理
39 4	稲荷台 (L7)	1号跡	5点	土師	杯	(13.8)	(7.8)	口縁～底部下半1/8残	密・黒色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 5	稲荷台 (L7)	1号跡	7点	土師	杯	(13.0)	(6.6)	口縁～底部下半1/8残	密・黒色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 6	稲荷台 (L7)	1号跡	18点	土師	杯	(12.4)	(7.0)	口縁～底部1/4残	密・赤褐色粒少量均等 密・黒色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 7	稲荷台 (L7)	1号跡	17点	土師	杯	(12.0)	(7.0)	口縁～底部1/8残	密・赤褐色粒少量均等 密・黒色粒少量均等	良	にぶい・赤褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 8	稲荷台 (L7)	1号跡	32点	土師	杯	(8.0)	(6.0)	口縁～底部1/8残	密・赤褐色粒少量均等 密・黒色粒少量均等	良	にぶい・赤褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 9	稲荷台 (L7)	1号跡	14点	土師	杯	(8.4)	(6.0)	口縁～底部2/3残	密・黒色粒少量均等 密・赤色粒少量均等	良	にぶい・赤褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	粒子細かい
39 10	稲荷台 (L7)	1号跡	34点	土師	杯	(8.4)	(5.6)	口縁～底部1/10残	密・赤色粒少量均等 密・黒色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 11	稲荷台 (L7)	1号跡	16点	土師	杯	(7.5)	(5.6)	口縁～底部1/3残	密・黒色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・赤褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 12	稲荷台 (L7)	1号跡	13点	土師	杯	(11.8)	5.8	口縁～底部下半～底部2/3残	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・赤褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 13	稲荷台 (L7)	1号跡	15点	土師	杯	(8.0)	(6.2)	口縁～底部2/3残	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良好	暗灰	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 14	稲荷台 (L7)	1号跡	36点	須臾	蓋	(11.0)	(7.0)	口縁～底部下半～下脚残	密・白色粒少量均等 密・赤褐色粒少量均等	良好	暗灰	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 15	稲荷台 (L7)	1号跡	37点	灰土	杯	(11.0)	(7.0)	口縁～底部下半～底部1/10残	密・白色粒少量均等 密・赤褐色粒少量均等	良	にぶい・灰白	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
39 16	稲荷台 (L7)	1号跡	22点	弥生	鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黄赤	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
40 1	稲荷台 (L7)	2号跡	2点	弥生	浅鉢			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黄赤	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
40 2	稲荷台 (L7)	2号跡	5点	弥生	罍			口縁部片	密・黒色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・赤	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
40 3	稲荷台 (L7)	2号跡	4点	弥生	罍	(9.0)	(5.8)	口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・赤褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
40 4	稲荷台 (L7)	2号跡	1点	土師	罍	(19.0)	(8.0)	口縁～底部上半～底部1/2残	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
40 1	稲荷台 (L7)	3号跡	3点	土師	罍	(14.7)	(3.2)	口縁～底部1/8残	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
40 2	稲荷台 (L7)	3号跡	2点	土師	罍	(8.0)	(6.0)	口縁～底部下半～底部1/6残	密・黒色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・橙	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
40 1	稲荷台 (L7)	5号跡	1点	土師	罍	15.0	5.0	口縁～底部2/3残	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
40 2	稲荷台 (L7)	5号跡	1点	土師	罍			口縁部片	密・白色粒少量均等 密・白色粒少量均等	良	にぶい・黒褐	外面口クロ調整。内面口クロ調整。 外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	

第2表 出土埴輪・瓦属性表

図No	遺跡	整理 No	取上げ 位置	器種	縦長	幅	厚さ	遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
9 1	姉崎二子塚	1トレ	1点	埴輪	円筒			口縁部片	良	にぶい灰褐色	外面口縁部ヨコナテ、下面タテハケ。内面ヨコナテ。		
9 2	姉崎二子塚	1トレ	1点	埴輪	円筒			口縁部片	良	にぶい灰褐色	外面ヨコナテ。内面ヨコナテ、下縁ヨコナテハケ。		
9 3	姉崎二子塚	2トレ	28点	埴輪	円筒			口縁部・小石粒混	やや不良	暗褐色	外面ハケ・木工具による波状文。内面ヨコナテ方向のハケ。		
9 4	姉崎二子塚	1トレ	22点	埴輪	円筒			口縁部・小石粒混	良	暗褐色	外面タテハケ。内面ナテ。		
9 5	姉崎二子塚	1トレ	3点	埴輪	円筒			胴部・小石粒混	やや不良	にぶい黄褐色	外面ヨコナテ、タガ付近ヨコナテ、タガ不整なM字状呈す。内面ヨコナテ方向のハケも、複数の木板状工具を使用か。		
9 6	姉崎二子塚	1トレ	4点	埴輪	円筒			胴部・小石粒少量均等	良	にぶい黄褐色	外面ヨコナテ、一部タテハケ。タガ付近、ヨコナテ。内面ナテ。		
9 7	姉崎二子塚	1トレ	7点	埴輪	円筒			胴部・小石粒少量均等	良	にぶい暗褐色	外面タガ付近ヨコナテ、タガ付近ヨコナテ、タガゆかいM字状。内面ナテ。		
9 8	姉崎二子塚	1トレ	6点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良	にぶい暗褐色	外面ヨコナテ、タガゆかいM字状。内面ヨコナテ方向のハケ。		
9 9	姉崎二子塚	1トレ	11点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良好	にぶい暗褐色	外面ヨコナテ、タガ付近ヨコナテ、タガ不整なM字状を呈す。内面ナテ。		
9 10	姉崎二子塚	1トレ	17点	埴輪	円筒			胴部片	良	にぶい赤褐色	外面タガ付近ナテ。内面ナテ。		
9 11	姉崎二子塚	1トレ	12点	埴輪	円筒			胴部片	密	にぶい赤褐色	外面タガ付近ヨコナテ、タガM字状呈す。内面ヨコナテ。		
9 12	姉崎二子塚	1トレ	13点	埴輪	円筒			胴部片	密	にぶい暗褐色	外面ヨコナテ、タガゆかいM字状。内面ヨコナテ方向のハケ。		
9 13	姉崎二子塚	1トレ	8点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	やや不良	にぶい黄褐色	外面ヨコナテ、タガ付近ヨコナテ、タガ不整なM字状を呈す。内面ナテ。		外面赤彩施す
9 14	姉崎二子塚	1トレ	19点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良	暗黄褐色	外面ヨコナテ、タガ付近ヨコナテ、タガ不整なM字状を呈す。内面ナテ。		
9 15	姉崎二子塚	1トレ	18点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	やや不良	暗赤褐色	タガ磨滅している。		
9 16	姉崎二子塚	1トレ	5点	埴輪	円筒			胴部片	密・黒色粒少量	にぶい黄褐色	外面ヨコナテ、静止痕あり、タガ付近ヨコナテ、下部タテハケの痕跡あり。内面ナテ。		
9 17	姉崎二子塚	1トレ	15点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	やや不良	にぶい黄褐色	外面ヨコナテ、静止痕あり、タガ付近ヨコナテ、下部タテハケの痕跡あり。内面ナテ。		
9 18	姉崎二子塚	1トレ	10点	埴輪	円筒			密・赤色粒少量、小石粒混	やや不良	暗黄褐色	外面ヨコナテ、静止痕あり、タガ付近ヨコナテ、下部タテハケの痕跡あり。内面ナテ。		
9 19	姉崎二子塚	1トレ	16点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	やや不良	暗黄褐色	外面ヨコナテ、静止痕あり、タガ付近ヨコナテ、下部タテハケの痕跡あり。内面ナテ。		
9 20	姉崎二子塚	1トレ	9点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良	にぶい黄褐色	外面ヨコナテ、静止痕あり、タガ付近ヨコナテ、上部に赤彩痕あり。内面ナテ、横位のハケも痕跡あり。内面ナテ。		
9 21	姉崎二子塚	1トレ	14点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	やや不良	にぶい黄褐色	外面タガ付近ヨコナテ、ゆかいM字状。内面ナテ。		
9 22	姉崎二子塚	1トレ	29点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量均等	やや不良	にぶい黄褐色	外面タガ付近ヨコナテ、ヨコナテ、他はタテハケ。内面ヨコナテ・ナメ方向のハケ。		
9 23	姉崎二子塚	1トレ	20点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良	暗褐色	外面ヨコナテ。		
9 24	姉崎二子塚	1トレ	21点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良	暗褐色	外面ヨコナテ、ナメ方向のハケ。内面ナテ。		
9 25	姉崎二子塚	1トレ	24点	埴輪	円筒			密・赤色粒少量	良	暗褐色	外面タテハケ。内面ナテ・ヨコナテ方向のハケ。		
9 26	姉崎二子塚	1トレ	25点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	やや不良	暗赤褐色	外面タテハケ。内面ナテ。		
9 27	姉崎二子塚	1トレ	23点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良	暗褐色	外面タテハケ。内面ナテ。		
9 28	姉崎二子塚	1トレ	26点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良	暗褐色	外面タテハケ。内面ナテ。		
9 29	姉崎二子塚	1トレ	27点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良	暗黄褐色	外面タテハケ、曲線状のハケ。内面ヨコナテ。		
9 30	姉崎二子塚	1トレ	32点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良	暗黄褐色	外面ナメ方向のハケ。内面ヨコナテ。		
9 31	姉崎二子塚	1トレ	31点	埴輪	円筒			密・赤色粒少量	やや不良	にぶい赤褐色	外面ナメ方向のハケ。内面ヨコナテ、磨滅によってハケが消失。内面輪郭のみ痕あり。		
9 32	姉崎二子塚	2トレ	33点	埴輪	円筒			密・赤色粒少量均等	やや不良	にぶい黄褐色	外面ナメ方向のハケ。内面ナテ、輪郭のみ痕あり。		
9 33	姉崎二子塚	2トレ	30点	埴輪	円筒			密・黒色粒少量	良	にぶい黄褐色	外面ナメ方向のハケ。内面ナテ。		
17 11	郡本(第22次)	2トレ	10点	瓦	丸	(9.0)	(6.5)	底面部	密	にぶい褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
17 12	郡本(第22次)	5トレ	1点	瓦	平	(4.8)	(6.7)	密・赤色粒少量	やや不良	褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
18 22	郡本(第22次)	8トレ	7点	瓦	平	(4.6)	(6.7)	密・赤色粒少量	良	にぶい灰褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
18 30	郡本(第22次)	証跡	3点	瓦	平	(16.4)	(9.1)	密・黒色粒少量	良	にぶい褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		赤色粒(1~5mm大)
24 16	稲荷台(15)	4号跡	31点	瓦	丸	(6.0)	(6.7)	密・黒色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
24 17	稲荷台(15)	4号跡	39点	瓦	丸	(6.1)	(6.0)	密・黒色粒少量	良	にぶい褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
25 18	稲荷台(15)	4号跡	32点	瓦	軒平	(8.7)	(14.2)	密・黒色粒少量	良	にぶい灰褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		瓦当幅(内区2.3・外区下1.2・外区上幅1.3)cm
25 19	稲荷台(15)	4号跡	34点	瓦	平	(7.5)	(10.0)	密・赤色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
25 20	稲荷台(15)	4号跡	37点	瓦	平	(8.5)	(9.7)	密・赤色粒少量	良	にぶい灰褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
25 21	稲荷台(15)	4号跡	38点	瓦	平	(9.0)	(8.3)	密・赤色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
25 22	稲荷台(15)	4号跡	36点	瓦	平	(5.1)	(3.9)	密・黒色粒少量	良	にぶい灰褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
25 23	稲荷台(15)	4号跡	40点	瓦	平	(4.3)	(4.9)	密・黒色粒少量	良	にぶい褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
25 24	稲荷台(15)	4号跡	35点	瓦	平	(3.5)	(5.8)	密・赤色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
25 25	稲荷台(15)	4号跡	33点	瓦	平	(7.2)	(7.1)	密・赤色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
27 9	稲荷台(15)	1号跡	25点	瓦	平	(7.3)	(8.2)	密・黒色粒少量	良	にぶい灰褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		狭端幅6.4cm
27 10	稲荷台(15)	1号跡	29点	瓦	平	(2.0)	(5.2)	密・赤色粒少量	良	にぶい褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
27 11	稲荷台(15)	1号跡	28点	瓦	平	(4.7)	(7.4)	密・黒色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
27 12	稲荷台(15)	1号跡	27点	瓦	平	(3.0)	(8.8)	密・赤色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
27 13	稲荷台(15)	1号跡	30点	瓦	平	(6.5)	(6.0)	密・黒色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
27 14	稲荷台(15)	1号跡	26点	瓦	平	(4.3)	(4.0)	密・赤色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
27 15	稲荷台(15)	1号跡	31点	瓦	平	(2.9)	(4.4)	密・赤色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
33 75	稲荷台(16)	4号跡	86点	瓦	丸	(11.2)	(8.6)	密・黒色粒少量均等	良	にぶい褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
33 76	稲荷台(16)	4号跡	87点	瓦	丸	(11.6)	(11.0)	密・赤色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
33 77	稲荷台(16)	4号跡	88点	瓦	丸	(12.0)	(11.7)	密・赤色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
33 78	稲荷台(16)	4号跡	91点	瓦	丸	(8.7)	(8.5)	密・黒色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
33 79	稲荷台(16)	4号跡	90点	瓦	丸	(11.4)	(10.5)	密・黒色粒少量	良	暗褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		
33 80	稲荷台(16)	4号跡	92点	瓦	丸	(9.5)	(8.9)	密・黒色粒少量	良	にぶい黄褐色	外面底面部、上面ナメ方向のハケ。(4面ヘラケズリ面あり)		

(cm) (cm) (cm)

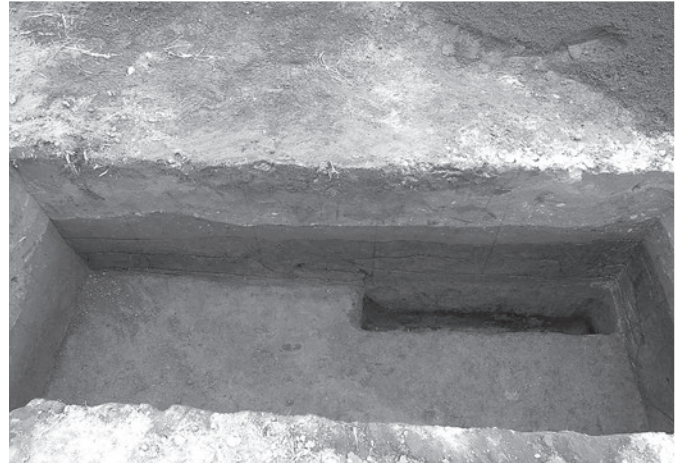
図No	遺跡	遺構等 No	整理 No	取り上げ	種別	器種	縦長	幅	厚さ	遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
33	81 稲研台 (L6)	4号跡 89点	瓦	瓦	瓦	丸	(5.0)	(4.6)	2.0	狭端面・左側縁部残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面ヘラナデ、狭端面・左側縁部ヘラケズリ。	
33	82 稲研台 (L6)	4号跡 93点	瓦	瓦	瓦	丸	(5.2)	(6.8)	1.8	左側縁部残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面ヘラナデ、左側縁部ヘラケズリ。	
33	83 稲研台 (L6)	4号跡 94点	瓦	瓦	瓦	丸	(4.0)	(4.0)	1.7	左側縁部残	密・白色粒微量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面ヘラナデ、左側縁部ヘラケズリ。	
33	84 稲研台 (L6)	4号跡 96点	瓦	瓦	瓦	丸	(5.4)	(5.8)	2.0	全て欠損	密・赤色粒少量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面ヘラナデ、左側縁部ヘラケズリ。	周囲に焼砂付着
33	85 稲研台 (L6)	4号跡 97点	瓦	瓦	瓦	丸	(3.2)	(4.2)	2.2	全て欠損	密・黒色粒少量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面ヘラナデ、左側縁部ヘラケズリ。	
33	86 稲研台 (L6)	4号跡 95点	瓦	瓦	瓦	丸	(13.4)	(13.7)	1.7	全て欠損	密・赤色粒少量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面ヘラナデ、左側縁部ヘラケズリ。	
34	87 稲研台 (L6)	4号跡 111点	瓦	瓦	瓦	平	(13.7)	(15.2)	2.3	狭端面・左側縁部残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、狭端面・左側縁部ヘラケズリ。	狭端幅 (1.7) cm 凹凸面に焼砂付着
34	88 稲研台 (L6)	4号跡 106点	瓦	瓦	瓦	平	(16.3)	(12.9)	2.8	左側縁部残	密・白色粒少量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、右側縁部ヘラケズリ。	
34	89 稲研台 (L6)	4号跡 108点	瓦	瓦	瓦	平	(17.0)	(14.0)	2.4	右側縁部残	密・白色粒少量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、右側縁部ヘラケズリ。	
34	90 稲研台 (L6)	4号跡 112点	瓦	瓦	瓦	平	(15.2)	(11.2)	2.9	狭端面・右側縁部残	密・白色粒少量	やや不良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、広端面・右側縁部ヘラケズリ。	
34	91 稲研台 (L6)	4号跡 113点	瓦	瓦	瓦	平	(7.4)	(11.2)	2.3	狭端面・右側縁部残	やや粗・小石粒少量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
34	92 稲研台 (L6)	4号跡 82点	瓦	瓦	瓦	平	(8.2)	(6.8)	1.6	狭端面・右側縁部残	密・白色粒少量	良	にぶい灰	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
34	93 稲研台 (L6)	4号跡 125点	瓦	瓦	瓦	平	(10.7)	(8.4)	2.7	左側縁部残	密・白色粒少量	良	灰	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、右側縁部ヘラケズリ。	
34	94 稲研台 (L6)	4号跡 119点	瓦	瓦	瓦	平	(5.8)	(4.2)	2.1	右側縁部残	密・黒色粒少量均等	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
34	95 稲研台 (L6)	4号跡 118点	瓦	瓦	瓦	平	(11.3)	(10.9)	2.3	右側縁部残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、右側縁部ヘラケズリ。	
34	96 稲研台 (L6)	4号跡 130点	瓦	瓦	瓦	平	(6.9)	(7.6)	2.3	右側縁部残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、右側縁部ヘラケズリ。	
35	97 稲研台 (L6)	4号跡 105点	瓦	瓦	瓦	平	(17.3)	(16.4)	2.2	左側縁部残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、左側縁部ヘラケズリ。	
35	98 稲研台 (L6)	4号跡 104点	瓦	瓦	瓦	平	(6.5)	(6.4)	1.8	左側縁部残	密・小石粒微量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、左側縁部ヘラケズリ。	
35	99 稲研台 (L6)	4号跡 133点	瓦	瓦	瓦	平	(5.0)	(10.1)	2.4	狭端面・左側縁部残	粗・小石粒少量均等	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、広端面・左側縁部ヘラケズリ。	凸面に焼砂付着
35	100 稲研台 (L6)	4号跡 109点	瓦	瓦	瓦	平	(16.4)	(13.0)	2.4	広端面・左側縁部残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、左側縁部ヘラケズリ。	広端幅 (13.8) cm
35	101 稲研台 (L6)	4号跡 117点	瓦	瓦	瓦	平	(9.5)	(13.4)	2.2	左側縁部残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、左側縁部ヘラケズリ。	
35	102 稲研台 (L6)	4号跡 107点	瓦	瓦	瓦	平	(11.2)	(14.7)	2.3	左側縁部残	密・小石粒微量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、左側縁部ヘラケズリ。	端部厚 (2.0) cm 狭端幅 (12.0) cm
35	103 稲研台 (L6)	4号跡 110点	瓦	瓦	瓦	平	(11.8)	(12.3)	1.9	狭端面・右側縁部残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、狭端面・左側縁部ヘラケズリ。	
35	104 稲研台 (L6)	4号跡 98点	瓦	瓦	瓦	平	(15.2)	(9.7)	2.7	狭端面	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、狭端面ヘラケズリ。	
35	105 稲研台 (L6)	4号跡 102点	瓦	瓦	瓦	平	(7.8)	(7.1)	2.8	広端面	密・赤色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、広端面ヘラケズリ。	
35	106 稲研台 (L6)	4号跡 102点	瓦	瓦	瓦	平	(4.8)	(4.0)	1.7	狭端面	密・赤色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、狭端面ヘラケズリ。	
35	107 稲研台 (L6)	4号跡 101点	瓦	瓦	瓦	平	(4.5)	(4.8)	1.5	狭端面	やや粗・小石粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、狭端面ヘラケズリ。	
36	108 稲研台 (L6)	4号跡 115点	瓦	瓦	瓦	平	(11.2)	(8.6)	2.0	狭端面	密・黒色粒少量均等	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、狭端面ヘラケズリ。	
36	109 稲研台 (L6)	4号跡 99点	瓦	瓦	瓦	平	(10.8)	(10.7)	1.8	狭端面	密・小石粒微量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、狭端面ヘラケズリ。	
36	110 稲研台 (L6)	4号跡 103点	瓦	瓦	瓦	平	(5.5)	(5.5)	2.0	狭端面	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、狭端面ヘラケズリ。	
36	111 稲研台 (L6)	4号跡 116点	瓦	瓦	瓦	平	(10.0)	(7.6)	2.5	広端面	密・黒色粒少量均等	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、広端面ヘラケズリ。	
36	112 稲研台 (L6)	4号跡 121点	瓦	瓦	瓦	平	(11.1)	(11.5)	3.1	全て欠損	やや粗・小石粒少量均等	やや不良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
36	113 稲研台 (L6)	4号跡 134点	瓦	瓦	瓦	平	(9.0)	(4.4)	1.7	全て欠損	密・赤色粒少量均等	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	小石粒 (6mm 大)
36	114 稲研台 (L6)	4号跡 124点	瓦	瓦	瓦	平	(9.3)	(10.2)	3.5	全て欠損	やや粗・小石粒微量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
36	115 稲研台 (L6)	4号跡 122点	瓦	瓦	瓦	平	(11.8)	(10.1)	2.5	全て欠損	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
36	116 稲研台 (L6)	4号跡 126点	瓦	瓦	瓦	平	(12.6)	(6.7)	2.2	全て欠損	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
36	117 稲研台 (L6)	4号跡 128点	瓦	瓦	瓦	平	(9.2)	(6.3)	2.5	全て欠損	密・黒色粒均等	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
36	118 稲研台 (L6)	4号跡 132点	瓦	瓦	瓦	平	(10.7)	(5.1)	2.1	全て欠損	密・赤色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
36	119 稲研台 (L6)	4号跡 129点	瓦	瓦	瓦	平	(6.6)	(5.2)	2.4	全て欠損	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
36	120 稲研台 (L6)	4号跡 127点	瓦	瓦	瓦	平	(8.7)	(4.8)	1.4	全て欠損	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
36	121 稲研台 (L6)	4号跡 131点	瓦	瓦	瓦	平	(9.2)	(7.1)	2.1	全て欠損	密・黒色粒少量均等	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
36	122 稲研台 (L6)	4号跡 123点	瓦	瓦	瓦	平	(9.7)	(10.1)	2.8	全て欠損	密・黒色粒少量	良好	灰	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
36	123 稲研台 (L6)	4号跡 138点	瓦	瓦	壇	壇	(7.7)	(6.9)	4.8	上面・左側面残	やや粗・小石粒均等	不良	にぶい灰濁	上面ヘラナデ、ヘラケズリ。左側面ヘラナデ、ヘラケズリ。	
39	17 稲研台 (L7)	1号跡 23点	瓦	瓦	瓦	丸	(4.5)	(5.4)	2.6	狭端面・形残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面ナデ、狭端面ヘラケズリ。	
39	18 稲研台 (L7)	1号跡 26点	瓦	瓦	瓦	平	(6.7)	(11.9)	2.4	左側縁部残	密・黒色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、左側縁部ヘラケズリ。	
40	19 稲研台 (L7)	1号跡 27点	瓦	瓦	瓦	平	(4.9)	(5.1)	2.6	左側縁部残	密・白色粒微量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、左側縁部ヘラケズリ。	
40	20 稲研台 (L7)	1号跡 25点	瓦	瓦	瓦	平	(8.4)	(9.2)	2.4	左側縁部残	密・白色粒微量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、左側縁部ヘラケズリ。	
40	21 稲研台 (L7)	1号跡 24点	瓦	瓦	瓦	平	(9.9)	(5.3)	1.9	広端面・左側縁部残	密・白色粒少量	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、広端面・左側縁部ヘラケズリ。	
40	22 稲研台 (L7)	1号跡 28点	瓦	瓦	瓦	平	(4.6)	(8.4)	2.5	全て欠損	やや粗・白色粒少量	やや不良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕。	
40	1 稲研台 (L7)	1号跡 11点	瓦	瓦	瓦	平	(20.5)	(23.7)	2.8	広端面・右側縁部残	密・白色粒均等	良	にぶい灰濁	凹面有目痕。凸面細叩き目痕、細口成り後一部目痕付着。広端面・右側縁部ヘラケズリ。	

第3表 出土石器・土製品・金属器属性表

図号	遺跡	遺構等 No.	取り上げ 種別	器種	素材	縦長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	遺存	色調	備考
9	34 姉崎二子塚	一括	34 一括	銀貨	銀	24.0	2.34	0.60	3.4	完形		洪式通宝、孔径 6mm
14	43 山倉前畑	1号跡	49 点	石器製品	燧石	82.0	57.0	53.0	40.0			
15	65 山倉前畑	一括	27 一括	石斧	不明	51.0	31.0	17.0	35.0	上端・下端部欠		
15	66 山倉前畑	一括	24 一括	石器	不明	72.0	65.0	35.0	244.0	ほぼ完形		
15	67 山倉前畑	一括	25 一括	石器	不明	74.0	36.0	21.0	72.0	ほぼ完形		
15	68 山倉前畑	一括	26 一括	石器	不明	76.0	58.0	27.0	130.0	右半部のみ残		
24	22 稲荷台 (L5)	2号跡	32 点	石器	燧石	90.0	61.0	53.0	63.0	ほぼ完形	にぶい灰白	多孔質・黒色粒少量、複数の研磨面があり砥石としても使用
24	23 稲荷台 (L5)	2号跡	30 一括	石器	黒曜石	23.5	13.5	6.0	1.0			
24	24 稲荷台 (L5)	2号跡	31 一括	石器	不明	84.0	38.0	56.0	179.0	下半部 1/5 残		上面摩耗顕著しく刀子等の研磨痕多量あり
25	27 稲荷台 (L5)	4号跡	28 点	土製品	土鏝	49.0	20.0	20.0	16.0	下端部欠	にぶい橙	胎土密・黒色粒少量、外面一部ナデ
25	27 稲荷台 (L5)	4号跡	29 一括	土製品	土鏝	40.0	15.0	16.0	8.0	上端・下端部欠	にぶい橙	胎土密・黒色粒少量、外面一部ナデ
25	28 稲荷台 (L5)	4号跡	30 一括	土製品	土鏝	35.0	15.0	14.0	6.0	上端・下端部欠	にぶい橙	胎土密・黒色粒少量、外面一部ナデ
26	7 稲荷台 (L5)	8号跡	13 一括	石器	砂岩	50.0	25.0	20.0	29.0	右半部のみ残		
27	16 稲荷台 (L5)	一括	32 一括	石器	泥岩	57.0	41.0	13.0	45.0	上端・下端部欠		
37	124 稲荷台 (L6)	4号跡	140 点	石器	有孔円盤	22.0	25.0	3.5	3.0	ほぼ完形	にぶい灰褐色	孔径 1.5mm
37	125 稲荷台 (L6)	4号跡	141 点	石器	燧石	60.0	42.0	27.0	48.0		にぶい白色	多孔質・黒色粒少量、研磨痕あり
37	126 稲荷台 (L6)	4号跡	141 点	金属器	鉄	90.0	43.0	4.0 ~ 1.5	39.0	両端部欠		右上端折り返し部あり
37	127 稲荷台 (L6)	4号跡	142 点	金属器	鍍か	32.0	36.0	3.5 ~ 1.0	9.4	両端部欠		126 と同一製品の可能性あるか
37	128 稲荷台 (L6)	4号跡	143 点	金属器	鉄釘	(60.0)	7.0	5.5	14.0	上端・下端部欠		
37	5 稲荷台 (L6)	一括	9 一括	金属器	鉄	(31.0)	4.5	3.5	1.0	上端・下半部欠	暗赤橙	128 と同一製品の可能性あり
37	6 稲荷台 (L6)	一括	10-1 一括	石器	砂岩	11.0	5.2	4.9	430.0	上半・下半部欠		上下面の使用痕が顕著・鍍治道具か
37	7 稲荷台 (L6)	一括	10-2 一括	石器	燧石か	34.0	37.0	20.5	5.0	ほぼ完形	にぶい灰白	多孔質・褐色粒微量
40	3 稲荷台 (L7)	3号跡	5 点	金属器	鉄釘	39.0	27.0	24.0	7.0	下半部欠	にぶい灰白	多孔質・黒色粒微量、一部研磨痕があり砥石としても使用
						39.0	6.5	5.5	8.4	下半部のみ残		脚膨れが著しい



大厩遺跡群 2トレンチ溝状遺構



大厩遺跡群 3トレンチ竪穴建物跡



大厩遺跡群 4トレンチ竪穴建物跡



大厩遺跡群 4トレンチ土坑



姉崎二子塚古墳 調査前



姉崎二子塚古墳 調査風景



姉崎二子塚古墳 1トレンチ周溝



姉崎二子塚古墳 1トレンチ埴輪出土



六孫王原遺跡 調査前



六孫王原遺跡 1トレンチ方形周溝墓



六孫王原遺跡 5トレンチ竪穴建物跡



六孫王原遺跡 6トレンチ方形周溝墓・円墳周溝



山倉前畑遺跡 調査前



山倉前畑遺跡 調査風景



山倉前畑遺跡 1号跡遺物出土



山倉前畑遺跡 3号跡遺物出土



山倉前畑遺跡 4号跡遺物出土



山倉前畑遺跡 1号跡



山倉前畑遺跡 3号跡



山倉前畑遺跡 4号跡



郡本遺跡群 調査前



郡本遺跡群 調査風景



郡本遺跡群 1トレンチ遺構検出



郡本遺跡群 1トレンチ本調査



市原城跡（門前地区） 調査前



市原城跡（門前地区） 1トレンチ



市原城跡（門前地区） 2トレンチ



市原城跡（門前地区） 3トレンチ



稲荷台遺跡（L5地点） 3号跡



稲荷台遺跡（L5地点） 2号跡西半分遺物出土



稲荷台遺跡（L5地点） 調査区西側遺構



稲荷台遺跡（L5地点） 2号跡東側完掘



稲荷台遺跡 (L5地点) 左から6・7・8号跡、手前4号跡



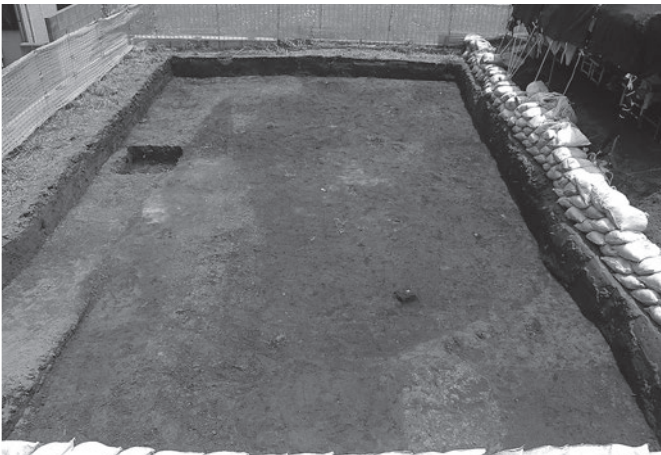
稲荷台遺跡 (L5地点) 手前8号跡、中央4号跡、奥5号跡



稲荷台遺跡 (L5地点) 5号跡



稲荷台遺跡 (L5地点) 調査区東側遺構



稲荷台遺跡 (L6地点) 調査区遺構確認面



稲荷台遺跡 (L6地点) 4号跡遺物出土



稲荷台遺跡 (L6地点) 4号跡カマド袖の瓦



稲荷台遺跡 (L6地点) 1号跡遺物出土



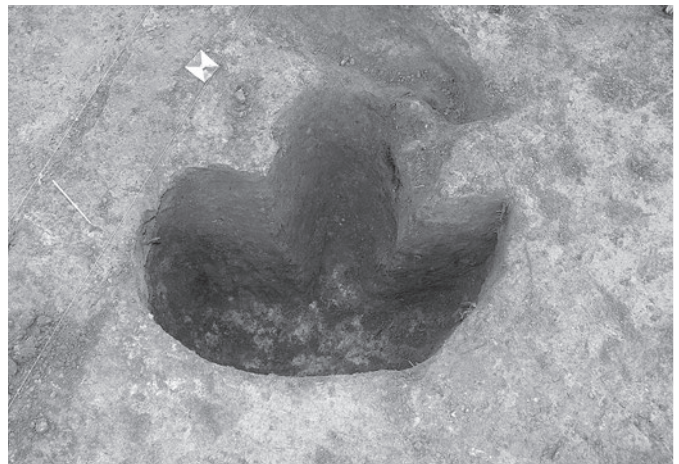
稻荷台遺跡 (L6地点) 1号跡、右奥3号跡



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡



稻荷台遺跡 (L6地点) 2号跡



稻荷台遺跡 (L6地点) 5号跡 (4号跡床下検出)



稻荷台遺跡 (L7地点) 1号跡遺物出土



稻荷台遺跡 (L7地点) 2号跡遺物出土



稻荷台遺跡 (L7地点) 西側調査区北から南方向、手前1号跡、奥2号跡



稻荷台遺跡 (L7地点) 東側調査区北から南方向、奥6号跡



大厩遺跡群（一心原句地区第2地点） 3



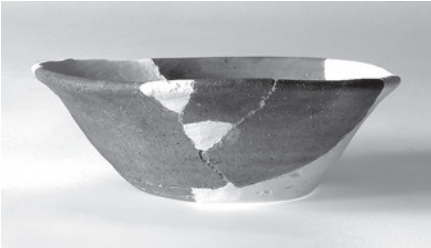
山倉前畑遺跡（第2-2地点） 1



山倉前畑遺跡（第2-2地点） 3



郡本遺跡群（第22次） 18



郡本遺跡群（第22次） 24



郡本遺跡群（第22次） 28



稲荷台遺跡（L5地点） 2号跡1



稲荷台遺跡（L5地点） 2号跡2



稲荷台遺跡（L5地点） 2号跡3



稲荷台遺跡（L5地点） 2号跡4



稲荷台遺跡（L5地点） 2号跡11



稲荷台遺跡（L5地点） 2号跡5



稲荷台遺跡（L5地点） 2号跡6



稲荷台遺跡（L5地点） 2号跡10



稲荷台遺跡（L6地点） 1号跡2



稲荷台遺跡（L6地点） 4号跡1



稻荷台遺跡 (L6地点) 1号跡3



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡25



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡33



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡26



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡34



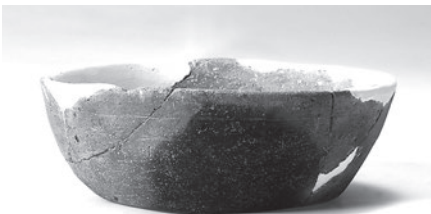
稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡2



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡27



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡46



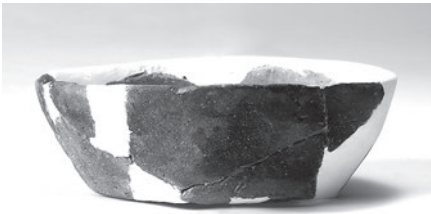
稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡3



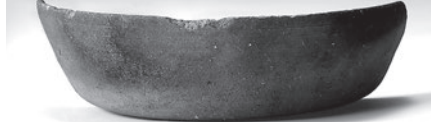
稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡28



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡47



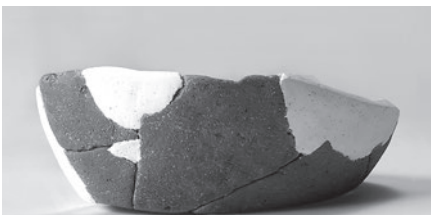
稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡4



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡29



稻荷台遺跡 (L7地点) 1号跡1



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡5



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡30



稻荷台遺跡 (L7地点) 5号跡1



稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡18

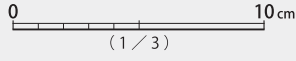


稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡31

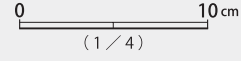
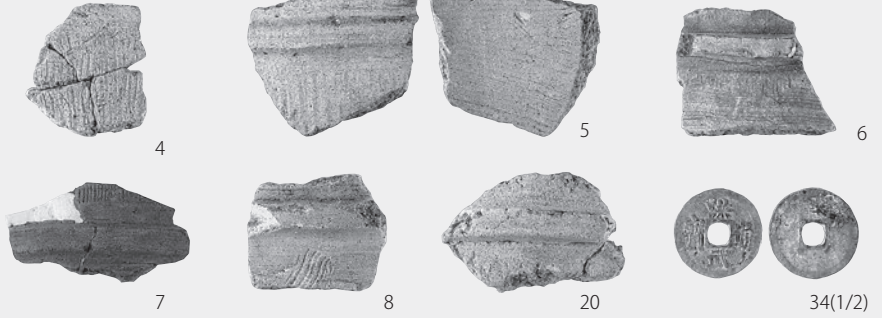


稻荷台遺跡 (L6地点) 4号跡32

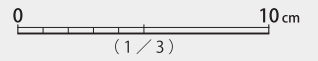
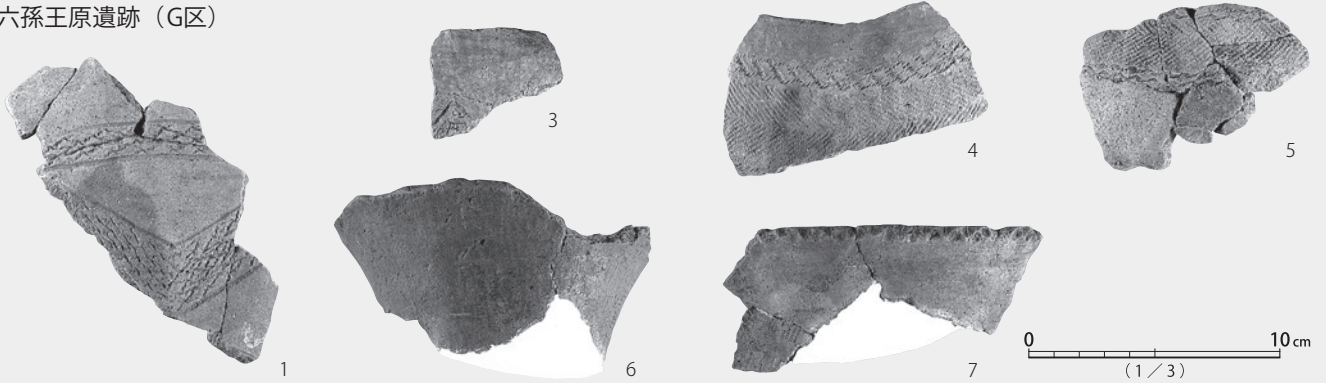
大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）



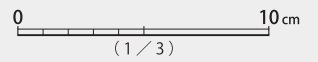
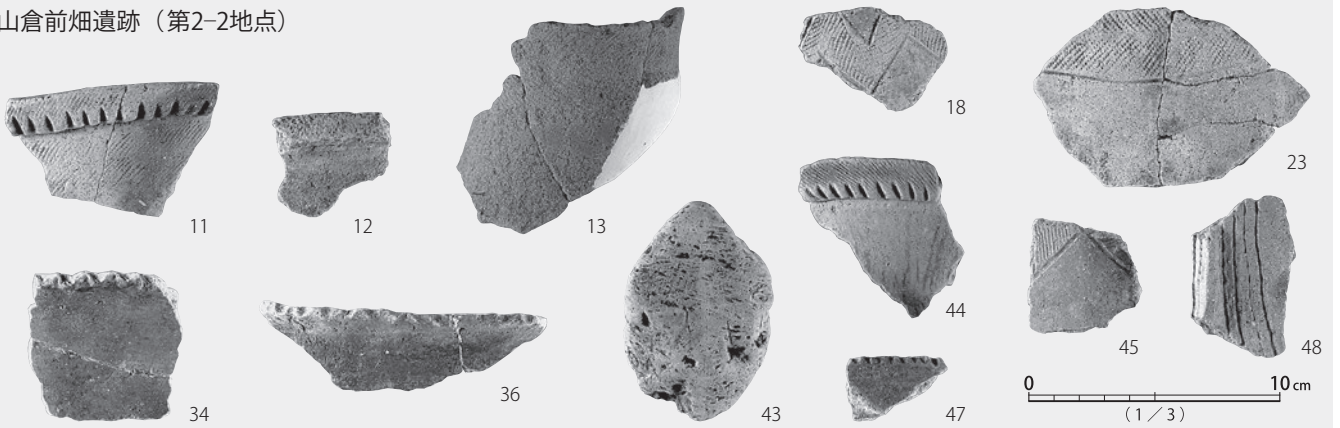
姉崎二子塚古墳



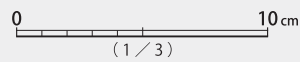
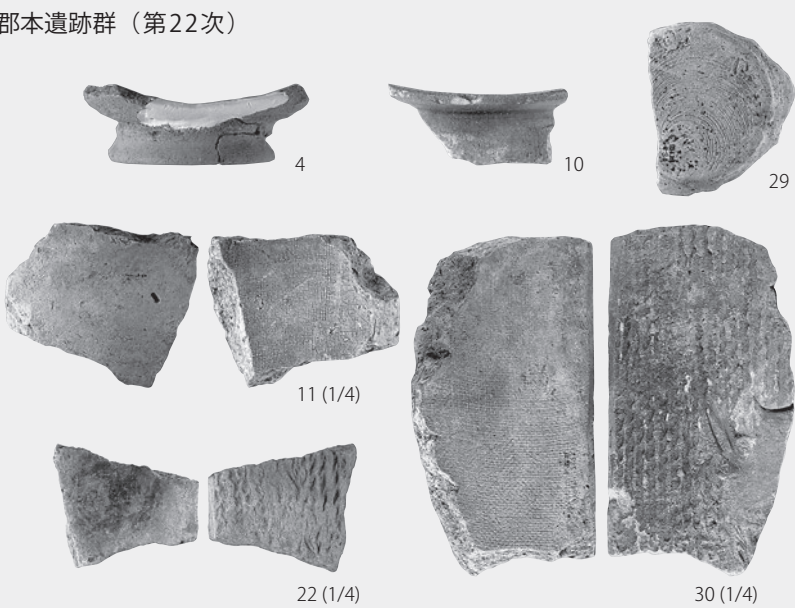
六孫王原遺跡（G区）



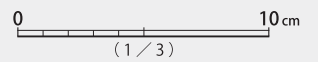
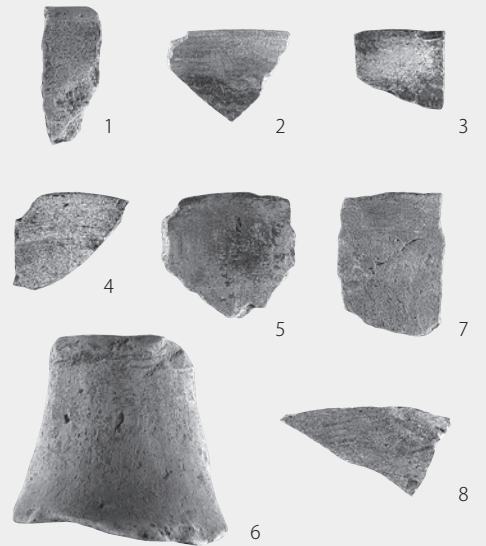
山倉前畑遺跡（第2-2地点）



郡本遺跡群（第22次）



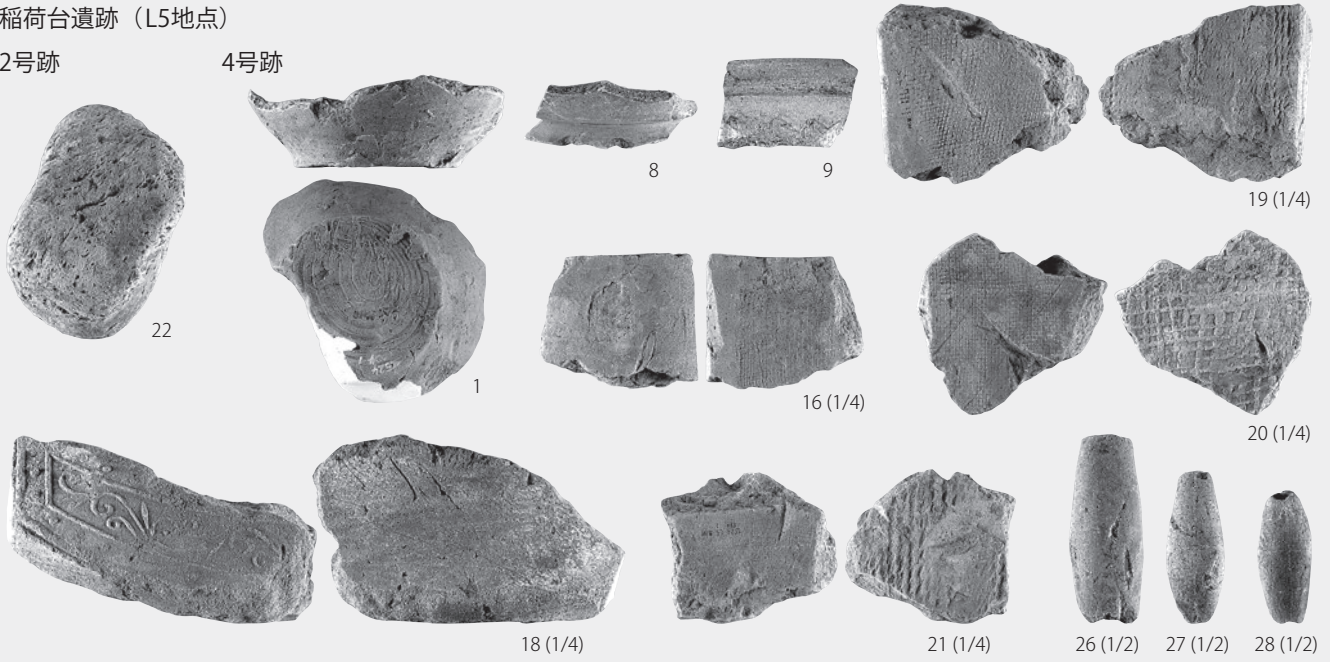
市原城跡（門前地区第3地点）



稻荷台遺跡 (L5地点)

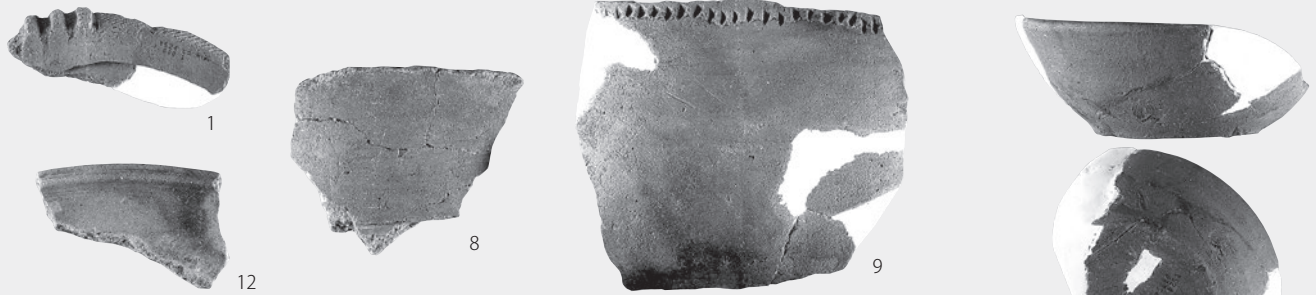
2号跡

4号跡



5号跡

7号跡



8号跡

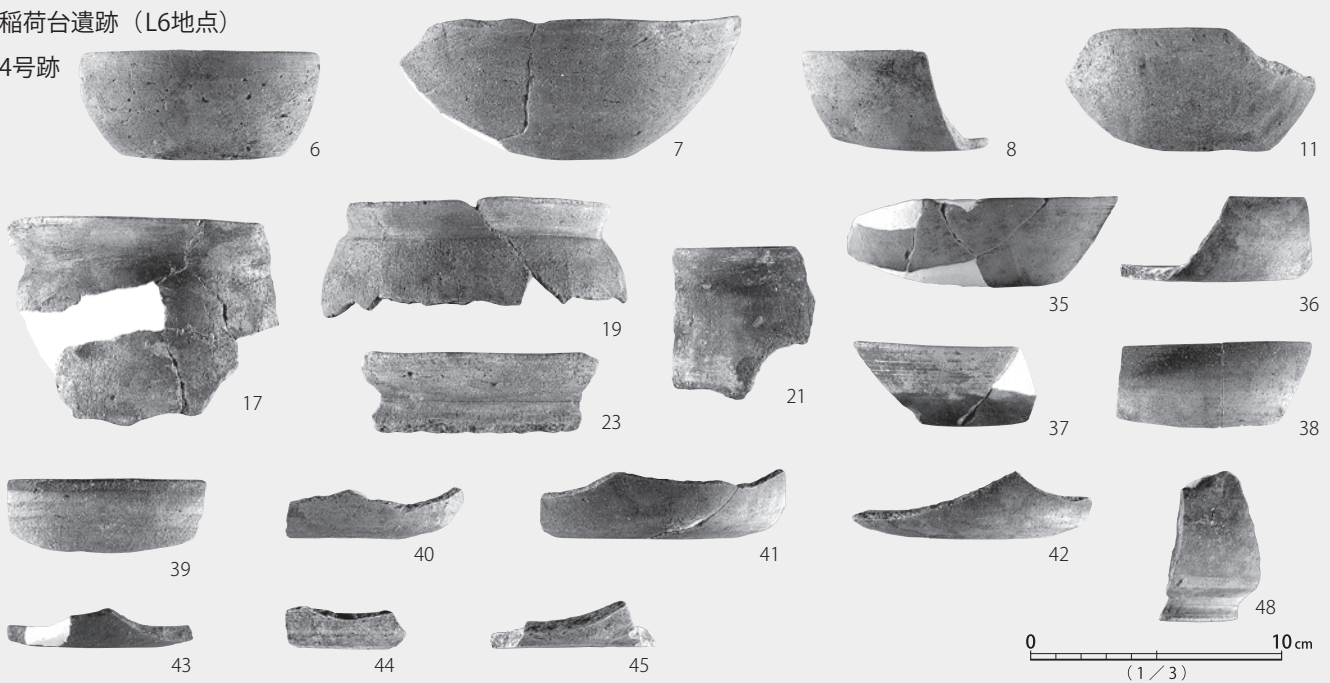
9号跡

一括



稻荷台遺跡 (L6地点)

4号跡

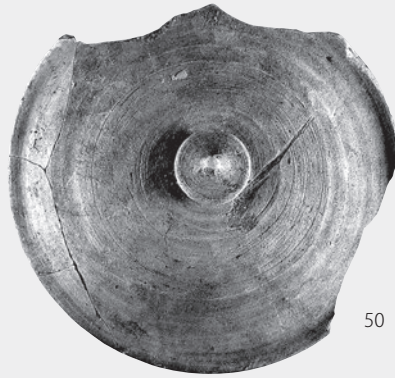


稻荷台遺跡 (L6地点)

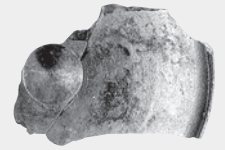
4号跡



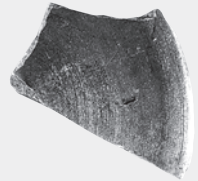
49



50



52



53



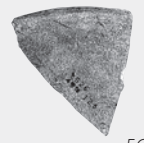
51



54



55



56



57



58



59



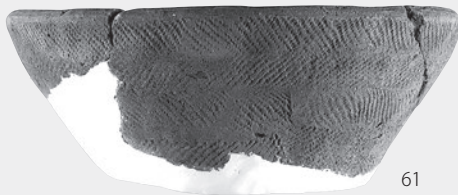
62



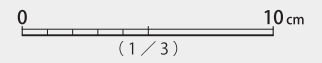
65



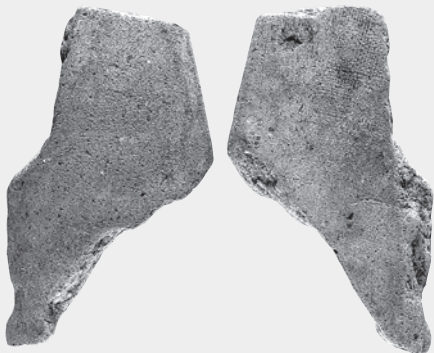
60



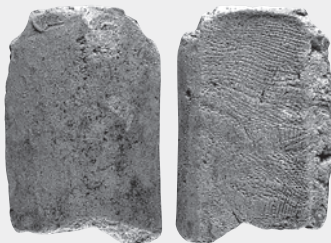
61



(1/3)



75



76



77



78



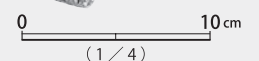
86



89

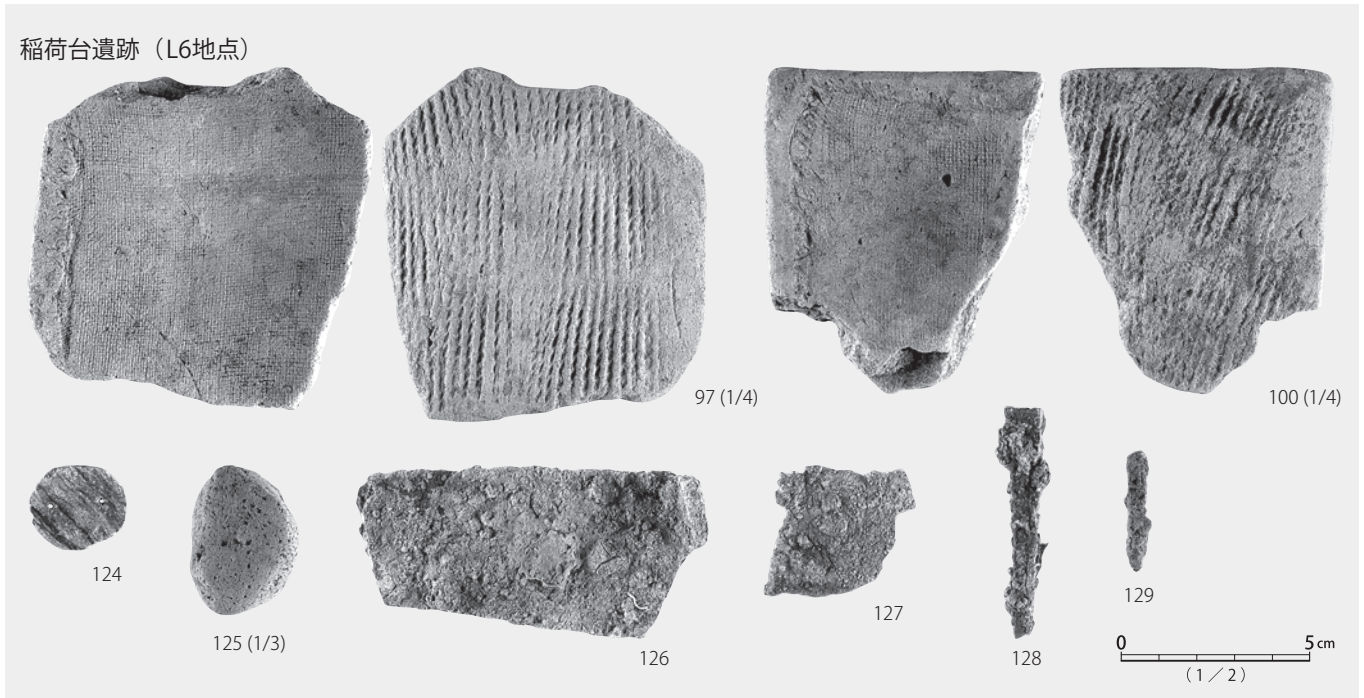


90



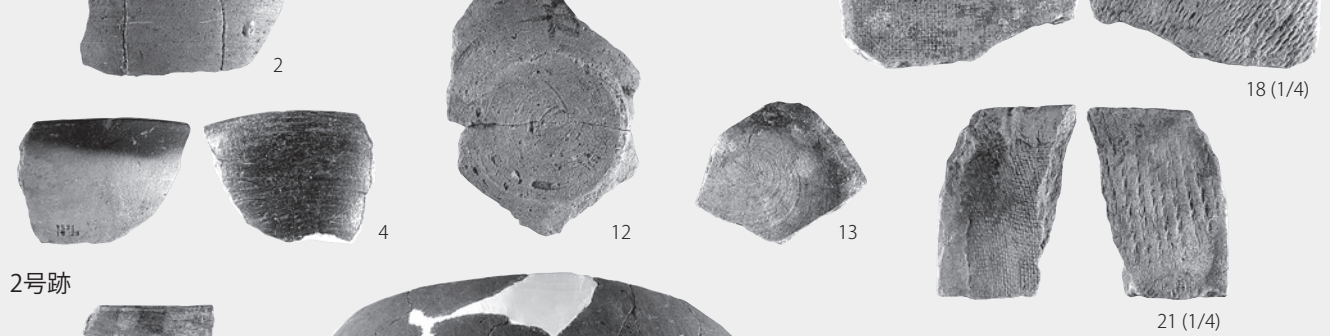
(1/4)

稻荷台遺跡 (L6地点)

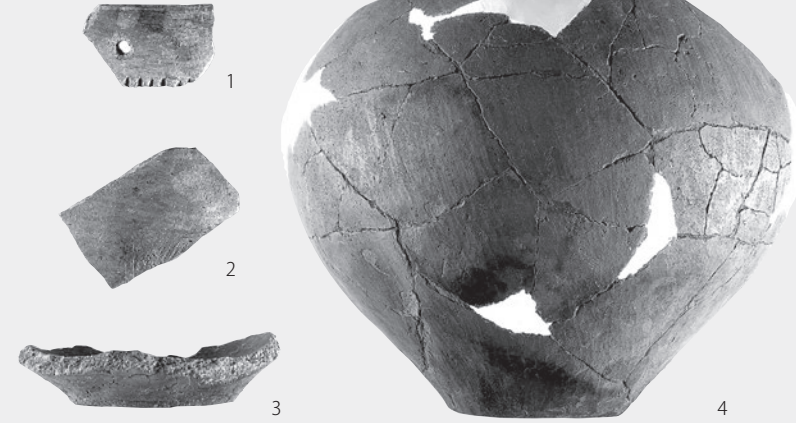


稻荷台遺跡 (L7地点)

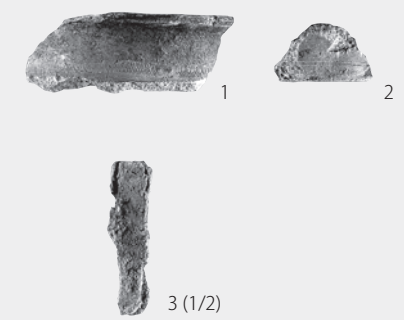
1号跡



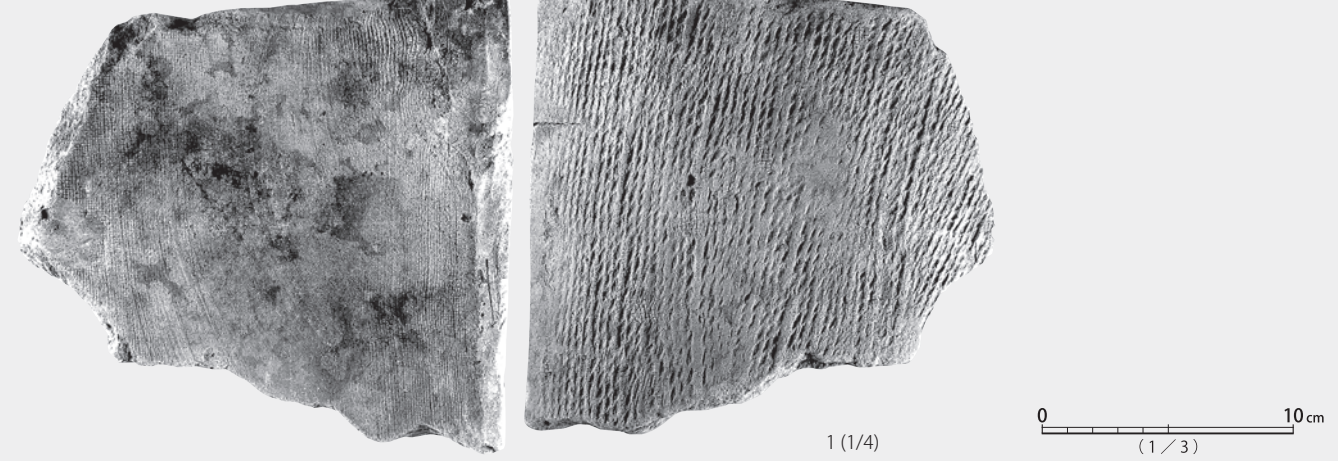
2号跡



3号跡



一括



報告書抄録

ふりがな	へいせい 26 ねんどいちはらしなしいせきはつくつちょうさほうこく							
書名	平成 26 年度市原市内遺跡発掘調査報告							
副書名	大厩遺跡群（一心原句地区第 2 地点）・姉崎二子塚古墳 六孫王原遺跡（G 区）・山倉前畑遺跡（第 2-2 地点） 郡本遺跡群（第 22 次）・市原城跡（門前地区第 3 地点） 稲荷台遺跡（L 5 地点）・稲荷台遺跡（L 6 地点）・稲荷台遺跡（L 7 地点）							
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第 34 集							
編著者名	近藤 敏・小川浩一・北見一弘							
編集機関	市原市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒 290-0011 千葉県市原市能満 1489 番地 TEL 0436(41)9000							
発行年月日	2015 年 3 月 19 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおまや いせきぐん 大厩遺跡群 いっしんぼらく ちく だいいち ちてん (一心原句地区第 2 地点)	いちほらし おおまやあざいっしんぼらく 市原市大厩字一心原句 1218-71	12219	934	35度 31分 40秒	140度 09分 01秒	20140224 ～ 20140228	22㎡/220.67㎡ (確認)	個人住宅建設
あねさきふたごづか ころふん 姉崎二子塚古墳	いちほらし あねさきあざふたご 市原市姉崎字二タ子 1760-2	12219	327	35度 28分 49秒	140度 03分 08秒	20140602 ～ 20140605	27㎡/324.96㎡ (確認) 7.5㎡ (本調査)	個人住宅建設
ろくそんのうぼら いせき 六孫王原遺跡 (G 区)	いちほらし あねさきあざろくそんのうぼら 市原市姉崎字六孫王原 3233 番 1 の一部	12219	338	35度 27分 54秒	140度 03分 17秒	20141201 ～ 20141215	263㎡/2630.37㎡ (確認)	宅地造成
やまくらまえはたい いせき 山倉前畑遺跡 (第 2-2 地点)	いちほらし やまくらあざみやまえ 市原市山倉字宮前 509-1、508-1	12219	613	35度 28分 53秒	140度 07分 50秒	20140624 ～ 20140708	50.8㎡ (本調査)	個人住宅建設
こおりもといせきぐん 郡本遺跡群 (第 22 次)	いちほらし こおりもと ちようめ 市原市郡本 1 丁目 122 番 1 の一部	12219	793	35度 30分 44秒	140度 07分 11秒	20140509 ～ 20140523	44㎡/448.31㎡ (確認)	個人住宅建設
いちほらし じょうあと 市原城跡 (門前地区第 3 地点)	いちほらし もんぜん ちようめ 市原市門前 2 丁目 298 番 1、288 番	12219	797	35度 31分 06秒	140度 07分 36秒	20141216 ～ 20141216	20.5㎡/205.65㎡ (確認)	位置指定道路 建設
いなりだいいせき 稲荷台遺跡 (L 5 地点)	いちほらし やま だほし ちようめ 市原市山田橋 3 丁目 11 番 45	12219	792	35度 30分 21秒	140度 07分 21秒	20140428 ～ 20140522	137㎡ (本調査)	個人住宅建設
いなりだいいせき 稲荷台遺跡 (L 6 地点)	いちほらし やま だほし ちようめ 市原市山田橋 3 丁目 11 番 41	12219	792	35度 30分 23秒	140度 07分 20秒	20140527 ～ 20140616	62.3㎡ (本調査)	個人住宅建設
いなりだいいせき 稲荷台遺跡 (L 7 地点)	いちほらし やま だほし ちようめ 市原市山田橋 3 丁目 11 番 36 の一部	12219	792	35度 30分 22秒	140度 07分 20秒	20141121 ～ 20141212	59.62㎡ (本調査)	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大厩遺跡群 (一心原句地区第2地点)	集落跡 包蔵地	古墳	竪穴建物跡1棟 溝状遺構1条 土坑跡1基	土師器	当遺跡から南東40～100mに平成4年度調査の大厩鍛冶屋前台遺跡があり、弥生時代から古墳時代の竪穴建物跡が32棟検出された。当遺跡と比較的至近距離であり、大厩遺跡群の北辺に当たり、かつ当該期遺跡の北辺部と考えられる。
姉崎二子塚古墳	古墳	古墳	古墳周溝1条	円筒埴輪	調査区内全域にわたり、姉崎二子塚古墳の周溝が存在しており、埴丘側周溝内から円筒埴輪片の出土が認められた。
六孫王原遺跡 (G区)	包蔵地 集落跡 その他の遺跡 (道路跡)	弥生 古墳 中世	方形周溝墓2基 竪穴建物跡3棟 土坑跡1基 円墳1基 道路状遺構1条	弥生土器、土師器	調査区の西側において、方形周溝墓が確認された。墓域の東端と考えられる。
山倉前畑遺跡 (第2-2地点)	包蔵地 集落跡	弥生 古墳	竪穴建物跡3棟	弥生土器、土師器	調査区において、弥生時代終末期から古墳時代前期の竪穴建物跡を検出した。
郡本遺跡群 (第22次)	包蔵地 集落跡	古墳 奈良・平安	竪穴建物跡4棟 溝状遺構2条	土師器	調査区内全域にわたり、平安時代の竪穴建物跡を検出した。
市原城跡 (門前地区第3地点)	城館跡	古墳	竪穴建物跡1棟	土師器、須恵器	周辺調査では検出例の少ない時期の遺構を検出した。
稲荷台遺跡 (L5地点)	包蔵地 集落跡 官衙跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平安 中世	竪穴建物跡6棟 溝状遺構1条	縄文土器、 弥生土器、土師器、 土錘、須恵器、瓦、 鉄製品、鉄滓	平成18年度市内遺跡調査において、確認調査を実施している。
稲荷台遺跡 (L6地点)	包蔵地	縄文 弥生 奈良・平安	竪穴建物跡2棟 土坑跡3基	縄文土器、 弥生土器、土師器、 須恵器、瓦、 鉄製品、石製品	奈良・平安時代竪穴建物跡では、永田・不入窯産の須恵器が多数検出され、被熱した布目瓦片も多数出土している。
稲荷台遺跡 (L7地点)	包蔵地 集落跡 官衙跡 道路跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平安 中世	竪穴建物跡3棟 掘立柱建物跡1棟 ピット群1基 土坑跡2基	縄文土器、 弥生土器、土師器、 須恵器、瓦、 鉄製品	宅地面から遺構確認面まで1m前後あり、盛土造成されている。
要 約	<p>今回は、主に個人住宅建設に伴う発掘調査を、市内に所在する7遺跡9箇所について行った。遺跡の所在地は、郡本遺跡群や市原城跡及び稲荷台遺跡といった市原地区が多くを占めている。大厩遺跡群（一心原句地区第2地点）は、昨年度末の調査であったが、今回の報告となった。古墳時代の竪穴建物跡が確認され、大厩鍛冶屋前台遺跡との関連が注目される。姉崎二子塚古墳からは、多数の円筒埴輪片が出土した。六孫王原遺跡は、西に広がる方形周溝墓群の東端を確認した。山倉前畑遺跡は、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての集落の展開が考えられる。郡本遺跡群は、平安時代の竪穴建物跡の広がり確認された。市原城跡は、古墳時代終末期の竪穴建物跡を確認したが、南北に縦貫する国道297号の西側に展開する遺構とは異なる様相と想定される。稲荷台遺跡は、弥生時代から奈良・平安時代にわたる多数の竪穴建物跡を検出している。郡本遺跡群・市原城跡・稲荷台遺跡それぞれの遺跡から検出される奈良・平安時代の遺構から、官衙エリアの絞り込みが行われつつある。</p>				

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第34集

平成26年度 市原市内遺跡発掘調査報告

平成27年3月19日 発行

編 集 市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436(41)9000

発 行 千葉県市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1-1-1
TEL 0436(22)1111

印 刷 株式会社 弘文社
千葉県市川市市川南2-7-2
TEL 047(324)5977